

**地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲を高めた実践例**

学校名 福島市立吾妻中学校（福島県）1・2年女子  
全校生徒数 253名（男子138名・女子115名）  
種目 ダンス  
電話番号 024（591）1109  
学校メールアドレス azuma-j@ht-net21.ne.jp

1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) ダンスの指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

3 研究の概要

(1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① TTの指導体制とし、短期間に集中してダンスの基礎・基本の習得を目指す。

(2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ① 音楽を使用したウォーミングアップを行い、体の中心部から体をほぐしたり、動きを続けたりすることで運動量を十分に確保していく。
- ② テンポを変えられるスピーカー付きカセットデッキを使用し、ゆっくりとした動きで複雑なステップのダンスでも習得できるようにさせる。
- ③ グループ活動により、お互いに協力し、話し合い活動を通じてダンスの楽しさを味わわせる。

(3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ①健康状態の観察を授業始めと終わりに行った。
- ②各自が運動できるスペースの確保と機器の配置場所の工夫をした。

○事業の成果と今後の課題

1 成果

- TTで授業を展開することにより、基本のステップなどを正確にマスターする生徒が増え、基礎の定着につながった。
- ウォーミングアップを行うことで心も体もリラックスした状態でスムーズに課題に入ることができた。
- 動きを伝達する活動を入れたため、自己有用感を得る生徒が多かった。

2 課題

- 学年に応じた学習内容の検討

○研究内容

【ウォーミングアップ】

音楽を使用して軽快な動き



【自己有用感を得る授業】

仲間に動きを伝える活動



【運動スペースの確保】

手具操作が安全にできるスペースの確保



【手具を使った指導】

五輪ベルターを使用したリズムダンス



【生徒のアンケートより】

外部スポーツ人材を活用してのアンケート結果からの分析結果

<ダンスに対する意欲が高まった>

1年生・・・高まった 80.6% 思わない 3%      どちらとも言えない 16.1%

2年生・・・高まった 88.9% 思わない 0%      どちらとも言えない 11.1%

<技能が高まった>

1年生・・・高まった 86.2% 思わない 6.8%      どちらとも言えない 6.8%

2年生・・・高まった 96.7% 思わない 0%      どちらとも言えない 3.2%

【今後の方向性と内容】

次年度に向けての見通し

- ・手具を操作することにより、今までとは違ったリズムダンスを体験することができ、生徒の興味・関心を高めることができた。来年度も実施したい。
- ・生徒の意欲が高まるという結果から1年生の男子でも実施してみたい。
- ・1年生女子の意欲が高いので来年度実施の場合は、講師に実態を伝え、よりよいものにしたい。

## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者のよさを生かし、T、T  
により生徒の安全を確保した柔道の授  
業の実践例

学校名 二本松市立二本松第三中学校（福島県）全学年

全校生徒数 338名（男子179名 女子159名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0243（22）8349

学校メールアドレス

nihonmatsu3.jhs@city.nihonmatsu.lg.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① 教育委員会により地域の指導者については確保していただき、柔道の授業における専門的な技能を有する指導者を派遣していただいた。
- ② 保健体育科教員がT1として指導し、二本松市柔道協会の指導者がT2として、専門的な技術や柔道に対する心構えの指導を行った。

#### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ① 教員が実技講習会等で習得した内容を生かし、様々な姿勢からの受け身、約束練習、乱取り稽古、固め技、連絡技、試合稽古等を指導した。
- ② 新しい技を指導するときには必ず地域の指導者が示範し、発生しやすいけがの具体例を示すことで、生徒が自ら事故を防止しようとすることができるようにした。

#### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

地域の指導者の助言を得ながら、安全に留意した指導計画を立案するとともに、保健体育科教員と地域の指導者との役割分担等を明確にした。また、投げられたときの対応や防御である「受け身」をしっかりと身に付けさせた後、約束練習等の稽古をさせるようにした。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 地域の指導者を活用することで、安全面に配慮した柔道の授業を実施することができた。
- 2 地域の指導者からの専門的でわかりやすい指導により、正しい技の掛け方を学ぶことができた。
- 3 今後さらに技術指導の在り方や安全面の配慮の仕方の研修を重ねる必要がある。
- 4 限られた時間の中で、授業ごとの綿密な打合せの時間確保が困難であった。

○ 研究内容

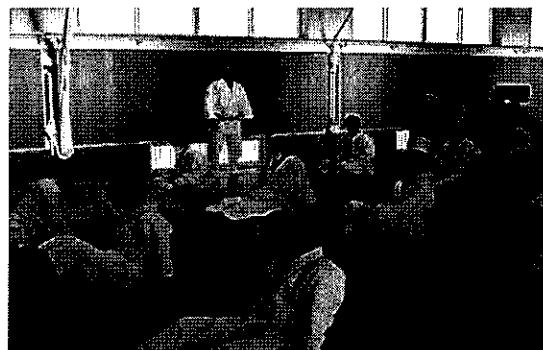
【安全指導】

授業の始めに本時の授業での安全指導を行う



【受け身の指導】

安全のため受け身の指導を十分に行う。



【投げ技の指導】

地域指導者による投げ技の専門的指導



【固め技の指導】

地域指導者による投げ技の専門的指導



【生徒のアンケート調査より】

該当生徒に対してアンケート調査を実施した。

- |               |            |           |                 |
|---------------|------------|-----------|-----------------|
| 1 関心・意欲は高まったか | そう思う (81%) | 思わない (3%) | どちらとも言えない (16%) |
| 2 技能は高まったか    | そう思う (77%) | 思わない (5%) | どちらとも言えない (18%) |
| 3 授業は活性化されたか  | そう思う (89%) | 思わない (1%) | どちらとも言えない (10%) |

地域の指導者との T・T は、効果的な指導ができているといえる。関心・意欲、技能が高まった、授業が活性化されたと感じる生徒が多くいるということは、指導レベルが高く、生徒との意思疎通がよくできていると考えられる。

【本事業終了後の今後の展望】

成果を生かした今後の取組の方向性を明らかにする

- 1 本事業の成果を踏まえ、さらに教材研究や授業研究等を通して、指導力の向上を図りたい。
- 2 専門的な知識のある地域指導者と連携して授業を進めることで、生徒の柔道に対する知識・技能意欲が高まった。
- 3 次年度も地域指導者を活用し、専門性を生かした安全な指導が行えるよう一層工夫したい。

## 【様式4】 1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、  
生徒の意欲を高めた実践例

学校名 二本松市立安達中学校（福島県）1～3年  
全校児童生徒数 316名（男子162名 女子154名）  
種目等 保健体育（柔道）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 0243（53）2104  
学校メールアドレス school@adachi-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ① 二本松市教育委員会の指導のもと、指導経験がある柔道有段者に協力を依頼した。
  - ② 今回の講師は本校での指導が4年目であり、保健体育教員との連携も十分に図られている。
- (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など
  - ① 教員が実技講習会等で習得した内容を生かし、礼法や安全な受け身の仕方を身につけさせるようにした。
  - ② 地域指導員の助言のもとに、安全面に配慮し、受け身や固め技が確実に習得できるよう生徒一人一人の習得状況に応じた指導を工夫した。
- (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - 本校教員が、技能習得の遅れがちな生徒への指導を行い、安全な活動に配慮した。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 地域指導者からの生徒の実態に応じた適切な指導により、柔道に関する興味・関心が高まり、積極的に授業に取り組むことができた。また指導者が平成24年度以降同じであるため、学年の段階に応じた指導を進めることができ、技能の向上を図ることができた。特に、実生活での安全対策としての受け身の重要性について理解が深まった。
- 2 教員と地域指導者の連携により、教員の指導力向上に向けた研修にもなり、効果的であった。
- 3 地域指導者との連携をさらに密にしながら、学年差・男女差に応じた効果的な指導を実践していきたい。

○ 研究内容

**【地域の指導者による説明】**  
 ポイントを押さえた説明で、生徒理解が深まった


**【柔道の心得・礼法】**  
 武道の伝統的な考え方を理解し、礼法の大切さを実感する

授業風景の写真①



固め技の実  
 践練習での  
 アドバイス

授業風景の写真②




座礼の指導

**【固め技の個別指導】**  
 技能の習得状況に応じた個別指導を行った

**【学び合う場の設定】**  
 学び合いの場での学習カードの活用

安全確保のために配慮している場面の写真等

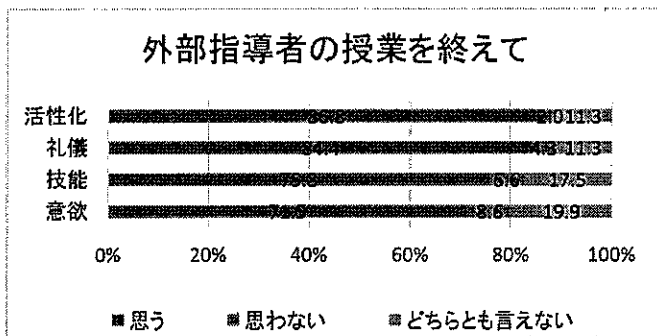


前回り受け身の  
 段階的指導  
 ←右膝と右肘を畳  
 につけ、あごを左  
 肩につける。

本時のねらい 横受け身を身につけよう  
 技能のポイント

- 1 あごをひき、へそを見る。
- 2 足を交差させない。

**【授業を終えての評価】**  
 多くの生徒が、関心意欲面・技能面で満足感を持っていたことがわかる。



全校生を対象に行ったアンケートでは、意欲が高まった生徒が71.5%、技能が高まった生徒が75.8%、礼儀が身についたと感じた生徒が84.4%、授業が活性化したと感じた生徒が86.8%という結果であった。アンケート結果から、多くの生徒が外部講師による授業を肯定的にとらえていることがわかる。

**【地域指導者との連携による授業の継続】**  
 段階的な指導（学年別・男女差）による授業の展開

「柔道の授業を終えて」のアンケート結果から、地域指導者との連携による授業は、生徒たちに意欲・技能のそれぞれにおいて十分成就感を味わわせることができたと考えられる。このことから、地域指導者との連携による指導は、非常に効果的であったと言える。また、地域指導者の安全面に配慮したポイントを押さえた指導により、担当教員の指導力向上につながった。

次年度においても、地域指導者との連携をさらに図り、柔道の特性や魅力に触れ、安全面に配慮しながら柔道の伝統的な考え方（礼法等）の理解や技能の向上に向けて、指導方法を工夫していきたい。

## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲を高め、段階的な指導により技能の定着と安全確保を図った実践例

学校名 二本松市立東和中学校（福島県）全学年  
全校児童生徒数 185名（男子102名 女子83名）  
種目等 武道（柔道）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 0243（46）2103  
学校メールアドレス towa.jhs@city.nihonmatsu.lg.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進  
保健体育科教員と地域の指導者の役割分担
  - ・保健体育科教員…指導計画の作成、授業における全体指導及び個別指導
  - ・地域の指導者…指導計画の助言、授業における全体指導及び個別指導（柔道の特性や歴史について、安全の確保についての事故防止安全指導、礼法や技術指導、技の示範）
- （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など
  - ・初めて経験する第1学年では、単元の前半は「受け身」や「基本動作」を中心とし、後半を「固め技」「投げ技」を加えた指導計画とした。
  - ・新しい技に入るときの示範では、分かりやすく明確に提示説明して、くり返し指導した。
- （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - ・地域の指導者の助言のもとに、準備運動の中でケガを防止するための柔道に必要な柔軟体操や筋力トレーニングを多く実施した。

## ○事業成果と今後の課題

### 1 地域指導者と連携した授業

専門的な立場から受け身や安全のための知識や技能に重点を置いた指導が展開できた。補強運動・柔軟・受け身の練習を十分に行い、投げ技・固め技の練習時間を確保した。

### 2 地域指導者の指導法から

礼法、安全指導、技の示範など連携した授業を行ったことで、良い研修の場となった。

### 3 さらに授業の充実を図る授業展開

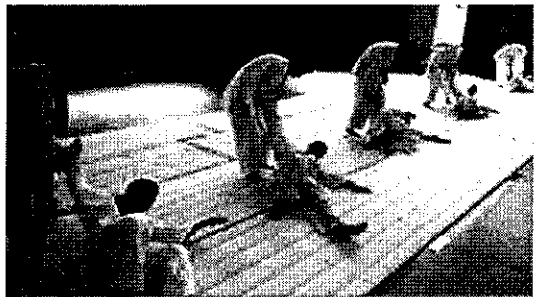
安全指導を十分に行き届かせ、柔道の運動の特性に多く触れる授業を工夫改善していきたい。

○ 研究内容

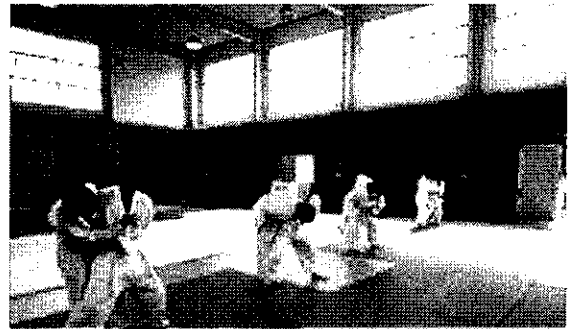
【地域指導者による技の示範】  
生徒が理解しやすい視覚的工夫と説明



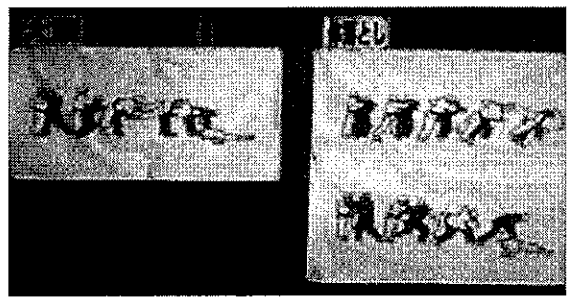
【マット運動のマットを利用】  
畳より柔らかいマットを利用し安全確保



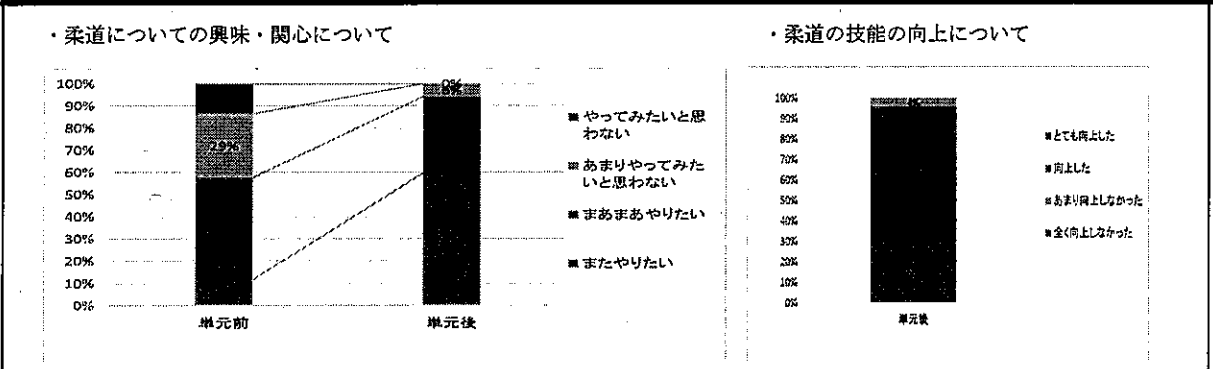
【段階的な投げ技の学習】  
地域指導者の合図で投げる手前までの練習



【技の動きを拡大した掲示資料の活用】  
練習前や練習中にも資料を見ながら技の動きを確認



【アンケートからみた生徒の実態】 取組の前後を比較すると、授業に楽しく取り組み、生徒の関心・意欲が高まったことが分かる。また、地域指導者が重点的に指導した内容がしっかりと定着した。



【授業の成果】  
安全指導と技能の定着について

柔道場の広さを考慮するとともに、安全に授業を行い指導内容の定着を図ることができるよう、1クラス（25～26名）の授業を組んで実施することができた。このことにより、十分なスペースと個別指導が行き届き安全指導と技能の定着に十分に成果があったといえる。また、マットを周囲に敷くことでスペースの確保や恐怖感のある生徒が投げられた時の衝撃を少しでもやわらげられるようにした。地域指導者との連携、段階的な指導、反復練習、個別指導で技能の定着に結びついた。



## 【様式4】1ページ目

### 地域の指導者による柔道の授業で、 教師の指導力を高めた実践例

学校名 二本松市立岩代中学校（福島県）全学年  
電話番号 0243-57-2203  
全校児童生徒数 75名（男子45名 女子30名）  
種目等 武道（柔道）  
電話番号 0243-57-2203  
学校メールアドレス school@iwashiro-j.fks.ed.jp

#### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで武道の指導力を高める。

#### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者や打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

#### 3 研究の概要

- (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ① 教育委員会の指導により地域の指導者については確保して頂いた。柔道の授業における専門的な知識を有する指導者を招聘して頂いた。
  - ② 柔道の授業において、地域の指導者にはT2として安全面に配慮した指導や技能のポイントについて指導して頂いた。
- (2) 具体的な取組内容・方法・取組を進める上での工夫点など
  - ① 教員が実技指導講習会等で習得した内容や全日本柔道連盟から出されている指導書やDVDの内容を指導するに当たりアドバイスを頂いたり、より分かりやすく生徒に解説して頂いたりした。
  - ② 地域の指導者の助言のもと柔道指導のポイントについて説明して頂き、技能の評価などにも役立てることができた。
- (3) 児童生徒の安全を確保するための配慮（工夫）したこと
  - ① 畳の設置などにおける安全確保について、畳を体育館の壁に寄せることで、隙間が開いて事故やケガが発生しないように努めた。また、周囲を器械運動用のロングマットで囲うことで体育館の床に直接生徒が落下しないように配慮しながら授業をすすめた。
  - ② 技能の習得に時間がかかる生徒に対しては、地域の指導者に時間をかけて個別指導をしていただくなどして対応した。

### ○事業成果と今後の課題

- 1 技能の習得や安全確保という面で十分な成果が上げられたと思う。また、外部指導者と2人体制で行うことで、生徒一人一人の習熟度に応じたきめ細かい指導が実践でき、技能の向上が見られた。
- 2 毎時間の授業の前後でもう少し打合せの時間が持てると、さらにきめ細かな指導できると思われる。

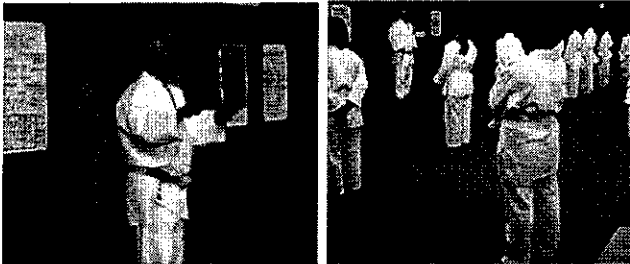
【様式4】2ページ目

○研究内容

【安全確保の様子】

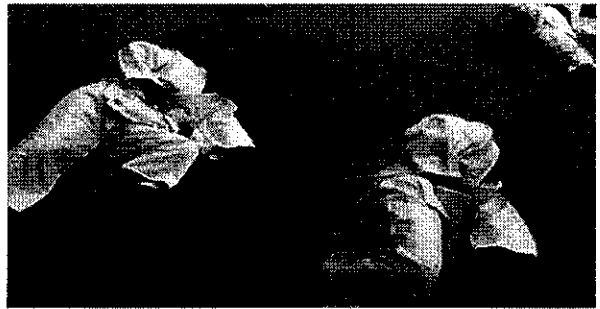
畳の隙間が開かないように壁に寄せた状態で畳を引き、ロングマットで周囲を囲うことで安全面を確保した。

また、常に注意事項の確認を行った。



【授業の様子①】

ケガ防止に必要な「受け身」の時間を十分に確保した。



【授業の様子②】

固め技の指導を受け、試合形式の練習を行った。



【授業の様子③】

投げ技を習得するために、「体さばき」「くずし」「入り」のポイントを確認し、技の定着を図った。



【外部指導者に関するアンケート】

- 質問1 外部指導者の指導によりあなたの意欲は、高まったと思いますか。
- 質問2 外部指導者の指導によりあなたの専門的な技能は、高まったと思いますか。
- 質問3 外部指導者の指導によりあなたは礼儀や伝統的な行動が身についたと思いますか。
- 質問4 専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。
- 質問5 外部指導者の言葉づかい・態度は指導者として適切だと思いますか。
- 質問6 担当の先生と外部指導者が連携した指導により、授業は活性化されたと思いますか。

- ア そう思う
- イ そう思わない
- ウ どちらともいえない

全 学 年	質問1			質問2			質問3			質問4			質問5			質問6		
	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
	67	2	5	57	4	13	61	0	13	69	0	5	66	0	8	66	0	8
	90%	3%	26%	77%	5%	18%	82%	0%	18%	93%	0%	7%	89%	0%	11%	89%	0%	11%

【取組の方向性と内容】

外部指導者と担当教員が連携することで、安全面に配慮した授業を展開することができた。また、技の習得では、全学年で固め技を中心に授業を実践し、投げ技の指導には丁寧に取り組むことができた。習熟の度合いに応じて投げ技の種類を増やすことで、さらに意欲が高まると感じた。外部指導者とのT・T体制によって、一人一人の技能の習熟度に応じてきめ細かな指導ができ、また、安全な場を確保する方法や正しい技のポイントを理解することができたので、担当教員の指導力向上に大変有意義な事業だと感じた。今後の継続を要望したい。

## 【別紙様式4】 1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲を高めた実践例

学校名 二本松市立二本松第二中学校（福島県）3年

児童生徒数 174名（男子107名 女子67名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0243（22）1006

学校メールアドレス [school@nihonmatsu2-j.fks.ed.jp](mailto:school@nihonmatsu2-j.fks.ed.jp)

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者との打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ① 地元二本松柔道協会の経験豊富な指導者を推薦いただき講師として選任する。
  - ② 武道（柔道）の年間計画により、指導者（講師）を迎え、学年に応じた基礎・基本や指導する技やその種類などを確認し効果的な指導に心掛ける。
  - ③ T・Tの授業の役割を確認し、保健体育担当者をT1としながらも指導者の豊富な指導経験を生かす授業を展開する。
- (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など
  - ① T・Tの授業の効果的な指導、全体指導と個別指導を組み合わせた指導に心掛けた。
  - ② 武道の歴史や作法・精神についても随時取り入れ、生徒の精神的な指導にも努めた。
  - ③ 3年生は立ち技における乱取りの練習を多く取り入れることで、柔道の醍醐味を味わわせた。
- (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - ① 立ち技のときは、他者との間隔を常に意識させ、交錯しないように心がけさせた。
  - ② 気温の低い時には柔剣道場をヒーターで温め、ウォーミングアップを十分に行わせた。
  - ③ 固め技では生徒同士の接触によるけがを防ぐため、見学者にも協力させた。また、脊椎や肩関節を痛めるような攻撃をしないように指導した。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 学習カードの感想をみると、多くの生徒が「技ができるようになった」「ていねいに教えていただいた」などと記入しており、生徒の武道に関しての関心が高まったことがわかる。
- 2 体力や運動能力の差も大きいですが、T・Tの授業で個別指導の時間が十分に確保され、個に応じた指導が展開できた。
- 3 女子生徒がもっと意欲的に取り組むような指導の在り方を研究していきたい。



○ 研究内容

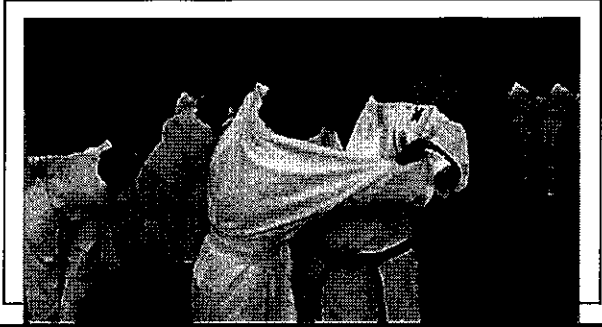
【講師による実演】  
講師による組み方や体さばきの実演。ポイントを押さえたていねいな解説がなされている。



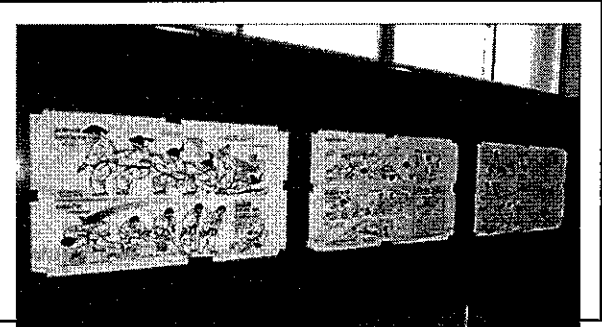
【安全に対する配慮・意識が高まった】  
畳止めとマットを設置し、マットのずれを防いでいる。



【生徒の興味関心が高まった】  
講師による巡視ときめ細やかな指導助言により、生徒の学習意欲を高めていた。



【指導資料の掲示】  
イラストなどを含めた指導資料を拡大して掲示し、学習のポイントを確認しやすくした。



【外部講師の派遣事業の成果】  
紹介するとともに、体育教師が感じたことについても記述する。

生徒を対象とした授業アンケートでは以下のような結果が得られた。（「思う」と回答した生徒の割合）

質問1	武道に対する意欲は高まったか	80.6%
質問2	専門的な技能は高まったと思うか	78.2%
質問3	武道の伝統的な行動の仕方や基本動作が身に付いたと思うか	72.1%
質問4	武道の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思うか	76.4%
質問5	外部指導者の言葉づかい・態度は指導者として適切だと思うか	84.8%
質問6	担当の先生と外部指導者が連携した指導により授業は活性化されたと思うか	75.8%

これらを見ても明らかなように、外部指導者の高い専門性に加えて言葉づかいなど指導者としての人格や品格、指導力など、比較的高い評価を得ている。

固め技や投げ技における専門的技術を練習する際には、生徒の間を巡視し、積極的に助言したり、手本を示したりしながら技能の向上に努めた。生徒も技能のポイントを理解しながら学習できた。

安全面から考えた場合、教師一人で指導していると、どうしても盲点になってしまう部分がある。しかし、外部講師が違う角度から観察し指導しているため、死角になる部分がなく、安心して練習できた。

【本事業終了後の本校の取組の方向性や内容について】  
大筋としては、今年度までの取組の成果を活かし、さらに充実した指導に努めていく。

- 柔道における基本動作や礼法などは他の運動や実生活でも役に立つことが多く、今後の生徒の生活習慣にも良い面を与えると考えている。
- 伝統的な精神は、他を尊重し敬うことにもつながり、学校教育目標の達成の面からも大切にしたい。
- 武道の必修化は特に安全面から心配された面もあったが、外部講師の指導を受けることでだいぶ軽減されたと思う。今後も最重点の課題として授業を展開していきたい。

## 【別紙様式4】1ページ目

### 地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲を高めた実践例

学校名 二本松市立小浜中学校（福島県）全学年  
電話番号 0243-55-2236  
全校児童生徒数 96名（男子46名 女子50名）  
種目等 武道（柔道）

#### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を、武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

#### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

#### 3 研究の概要

- (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ① 指導者については、二本松市教育委員会に確保していただいた。柔道の授業における専門的な知識と経験を有する指導者を選定していただいた。
  - ② 柔道の授業においてT2として安全面に配慮した指導や、技能のポイントについて指導していただいた。
- (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など
  - ① 教員が指導するにあたって実技講習会等で習得した内容をアドバイスいただいたり、技能のポイントなどを生徒にわかりやすく解説していただいたりした。
  - ② 教員に対して柔道指導のポイントについてご教授いただき、技能の評価などにも役立てることができた。
- (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - ① 畳の設置などにおける安全確保や技能指導中の安全確保について、地域の指導者と連携を図りながらすすめた。
  - ② 技能の習得に時間のかかる生徒に対して、地域の指導者に時間をかけて個別指導をしていただくなどした。

### ○事業成果と今後の課題

- 1 安全確保という面で、十分な成果を上げられたと感じる。生徒一人ひとりに目が行き届き、安心して授業を進めることができた。また、技能指導において個別の指導も充実させることができた。特に柔道に対して苦手意識を持つ生徒に対しては、個別指導を通して柔道の楽しさを感じさせることができたと考える。
- 2 授業前の打ち合わせの時間を十分に確保できなかったことが、課題である。

## 【別紙様式4】 2 ページ

### ○研究内容

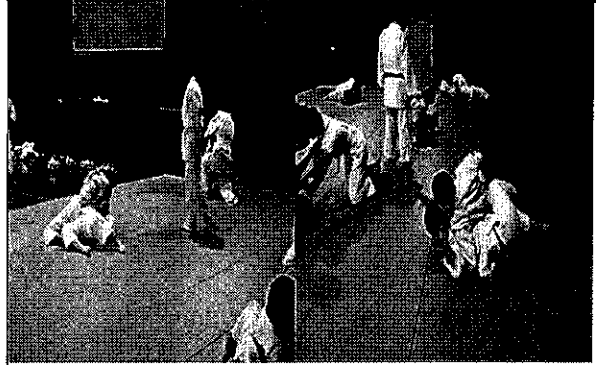
【授業の活動の様子1】

受け身の練習をしている様子



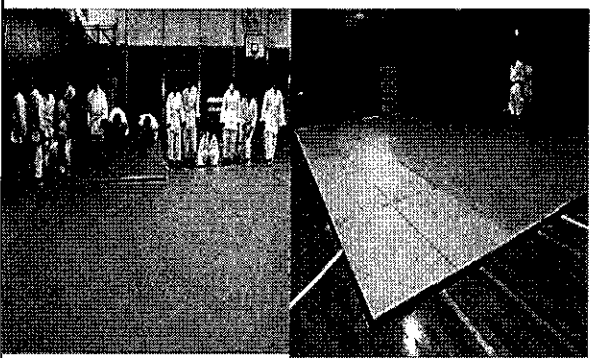
【授業の活動の様子2】

寝技の練習をしている様子



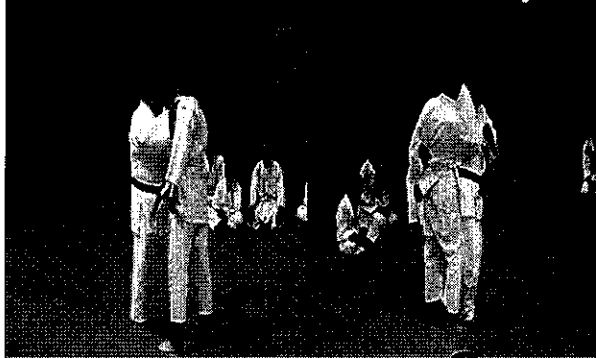
【安全確保の様子】

畳の設置などをアドバイスいただき、堅い畳を外側にした。



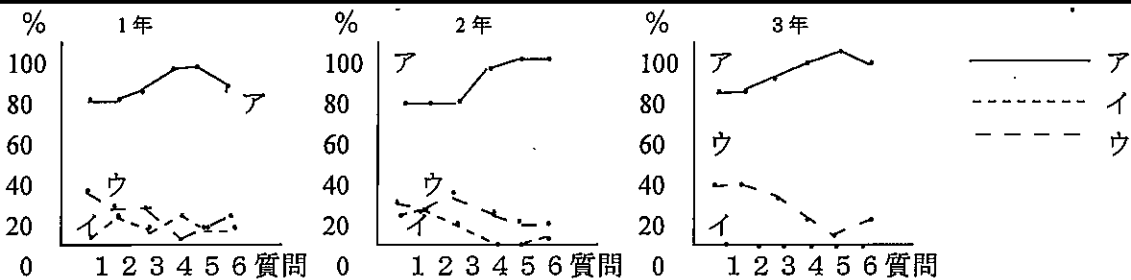
【技能に応じた練習をしている様子】

個別に指導していただいている様子



【柔道のアンケート結果】

学年ごとに意識などの違いが若干見られた。男女別で集計すればさらに違いが出ると思われた。



今回のアンケート結果から、地域指導者の方の指導の効果が見て取れる。しかし、男女別での集計をするとまた違った結果が見られるのではないかという思いが強くなった。

【地域指導者との授業】

柔道の授業をT・Tで行うことのよさ

二本松市の事業により、本事業の後も継続して地域指導者の方に授業でご指導をいただいているため、柔道の授業がスムーズに進められた。ひとりで授業を行う際には、目が行き届かない部分が必要出てしまうが、T・Tで行うことによって一人ひとりに目が行き届き、更にはきめ細かい個別指導により技能の向上も図ることができた。お互いの役割を明確にして、常に全体を把握しながら授業を行えたことがよかったと思う。

## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲を高めた実践例

学校名 二本松市立二本松第一中学校（福島県）全学年

全校児童生徒数 460（男子237 女子223）

種目等 柔道

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0243（23）0870

メールアドレス nihonmatsu1.jhs@city.nihonmatsu.lg.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域のスポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験の浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の授業の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で保健体育の担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進  
地域指導者との打合せを行い、生徒の学校生活における状況等について情報提供をした。科学的根拠に基づく練習方法等を教えていただき、安全面に配慮した効率的な指導をすることができた。
- （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など  
練習を振り返り、反省における課題や成果を記述した記録に指導者が目を通し、指導・支援の改善に活かした。また、指導者が意識的に「チャンス相談」を行い、授業への取組における諸問題等について早期把握と早期対応に努めた。
- （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など  
怪我や病気の症状を訴える生徒に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努めた。生徒の健康状態の把握、施設・設備の安全確保、安全を確保した指導形態や技能の程度に応じた段階的な指導等を行うことができた。

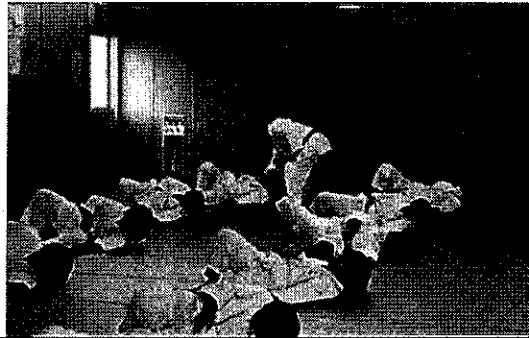
## ○事業成果と今後の課題

- 1 柔道の安全な取組の仕方について細かく指導していただいたので、事故防止に効果があった。また基本動作の指導で、安全面に配慮して納得できる指導をしていただいた。
- 2 基礎的・基本的練習を生かし、上級生ではより実践的な練習を多く取り入れていきたいが、限られた時間の中でそれはなかなか難しい。体育教師との取組による模範演技的なことが可能であれば、次回はそれも計画的に位置づけて指導計画を作ってみたい。

【様式4】2ページ目

○ 研究内容

【受け身の指導①】  
柔道の基本である受け身の一斉指導の様子



【受け身の指導②】  
体を大きく動かしての安全な受け身の仕方



【受け身の指導③】  
動きの前の姿勢についての指導



【受け身の指導④】  
横の受け身の指導



【アンケートからの感想等】  
柔道の授業終了後生徒へのアンケートからの声

- ①武道に対する意欲が高まった。74.4%
- ②専門的な技能が高まったと思う。77.7%
- ③武道の伝統的な行動の仕方や基本動作が身についた。75.8%
- ④武道の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思う。88.4%

アンケートの結果からも分かるように、生徒たちの武道に対する意識は向上した。また、優れた技術を持つ柔道の専門家が指導者として入ることにより、生徒たちにとっては刺激的であり、「そうなりたい」と技術の習得に意欲が高まった様子で授業に取り組んだようである。普段の体育教師からの指導よりもより専門的な指導を受けることができたとの喜びの声も聞こえた。

【今後の継続的な指導の期待】  
今後とも継続的に指導をしていただければ大変ありがたい。

今回の柔道の指導については、普段の授業とは違った雰囲気の中で、柔道を専門とする先生の指導であり、生徒たちにとっては刺激的な授業の時間となった。柔道の安全な技能習得とともに意欲の向上を図るためにも、今後とも継続的なご指導をいただきたい。



## 【別紙様式4】1 ページ目

地域の武道指導者の協力を得て、教員と連携を図りながら、安全を確保しつつ女子生徒への柔道に関する指導の充実を図った実践例

学校名 本宮市立本宮第一中学校（福島県）3年  
電話番号 0243（33）2249  
全校児童生徒数385名（男子208名 女子177名）  
種目等 武道（柔道）

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い柔道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を柔道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) 柔道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、柔道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### (1) 外部指導者と保健体育教員の連携・協力

- ① 外部指導者と保健体育教員が組んで、寝技や立ち技の模範演技を示し、女子生徒へも目標とする姿勢や技能を示した。
- ② 生徒の活動中、外部指導者と保健体育教員が2人で個別指導を実施し、技能の習得に対して、細やかな指導を行った。

#### (2) 指導経験が豊富な外部指導者の指導方法を生かした取組

- ① スポーツ少年団等の指導経験を持つ外部指導者の工夫した実技指導によって、女子生徒でも運動を具体的にとらえさせ、積極的に活動させた。
- ② 安全面に配慮し、受け身の指導に十分時間をかけた。

#### (3) 生徒の安全を確保するため配慮・工夫したこと


- ① 事前に安全に活動するための指導過程について、外部指導者と協議した。
- ② 柔道着の着方、相手に対する礼儀作法について指導を徹底した。
- ③ 受け身の技能を身につけさせるため、様々な方法で受け身の指導を行った。
- ④ 外部指導者と保健体育教員の2人で全体を観察し、必要に応じてどちらかが個別指導を行った。

## ○事業成果と今後の課題


- 1 武道に親しむ資質や能力の育成については、外部指導者が細やかな指導と温かい声かけを行ったことで、生徒は楽しく柔道に親しむことができ、来年度以降への意欲の高まりにもつながった。
- 2 女子生徒への指導については、指導者と教員が範を示すことで、柔道の攻防のイメージを持たせ、生徒の積極的な活動につながった。

○ 研究内容


安全への配慮  
受け身の細やかな指導



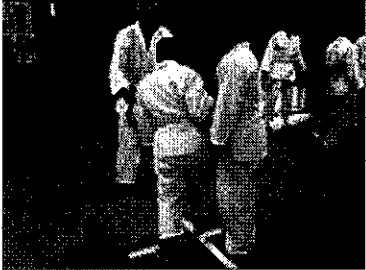
保健体育教員との連携  
外部指導者と教員が組んだ模範演技



積極的な声かけ  
積極的な生徒の活動の促進



返し技への挑戦  
専門的立場からの的確な助言と指導



生徒の意識調査（アンケート）結果から  
外部指導者による指導を受けたことに対する肯定的意見が圧倒的多数

- 「武道に対する関心・意欲は高まったと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・・・・・・・ 96%
- 「柔道の技能は高まったと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・・・・・・・ 94%
- 「専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか」に対する肯定的な回答・・・・ 90%
- 「外部指導者の言葉遣い・態度は指導者として適切だと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・ 90%
- 「外部指導者の指導により、授業は活性化されたと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・ 90%

以上のように、外部指導者による指導を受けたことに対して肯定的回答が多数をしめた。

今後の武道指導のあり方  
「外部指導者の活用と保健体育科教員との連携」

- 外部指導者と保健体育科教員が連携し、受け身の指導から寝技、立ち技に至るまで、多くの場面で模範演技を示し、女子生徒の積極的な学習につなげることを目的に実施した。男性教員一人で模範演技を示したり、女子生徒に対して積極的に組み合せて実技指導をしたりすることは容易ではない。外部指導者と協力して行うことによって、女子生徒だけでも、自分に合った目標を持ち、積極的に柔道の攻防に取り組みせることができた。今後も外部指導者を活用するか、できない場合にはTTによって模範演技を示していくことが望ましいと思われる。
- 安全面の視点および専門的な視点から、複数の指導者で生徒を指導することで、生徒の習熟度をより理解し、指導に生かせると思われる。

## 【別紙様式4】1 ページ目

地域のダンス指導者の協力を得て、教員と連携を図りながら、男子生徒が積極的に学習に取り組むためのダンスに関する指導の充実を図った実践例

学校名 本宮市立本宮第一中学校（福島県）1年  
全校児童生徒数 385名（男子208名 女子177名）  
種目等 ダンス（現代的なリズムのダンス）  
（本事例に関わる問い合わせ先）  
電話番号 0243（33）2249  
学校メールアドレス [school@motomiyai-j.fks.ed.jp](mailto:school@motomiyai-j.fks.ed.jp)

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) ダンスの指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要


- (1) 外部指導者と保健体育教員の連携・協力
  - ① 外部指導者が模範となるステップやダンスを指導する中で、保健体育科教員が個別に声をかけ、技能の向上を目指した。
  - ② グループ学習において、外部指導者と保健体育教員が分かれて指導にあたり、積極的にダンスに取り組めるよう声をかけた。
- (2) 指導経験が豊富な外部指導者の指導方法を生かした取組
  - ① 基本的なステップの練習を取り入れたウォーミングアップを音楽に合わせて実施した。
  - ② 全グループが共通して行うダンスは全体指導で行い、グループでダンスを制作する場面を設定し、生徒の独創的なアイデアを生かせるようにした。
- (3) 生徒の安全を確保するため配慮・工夫したこと
  - ① 事前に安全に活動するための指導過程について、外部指導者と協議した。
  - ② スローテンポの音楽に合わせてウォーミングアップを行った。
  - ③ 外部指導者と保健体育教員の2人で全体を観察し、必要に応じて個別指導を行った。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 ダンスに親しむ資質や能力の育成については、外部指導者がきめ細やかな指導と温かい声かけを行ったことで、笑顔で踊る生徒の姿が見られた。
- 2 男子生徒への指導については、外部指導者にもきめ細やかな声かけや具体的な指導などの工夫もあり、少しずつ恥ずかしさもなくなり、積極的に取り組めるようになった。

○ 研究内容

安全への配慮  
音楽をかけてのウォーミングアップ




外部指導者の全体指導  
細やかな指導



ダンスの模倣  
全体指導で外部指導者の動きを真似ての取組



グループ学習  
グループ毎にダンスを制作



生徒の意識調査（アンケート）結果から  
次年度への課題を残す結果となった。

- 「ダンスに対する意欲が高まったと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・・・・・・・66%
- 「専門的な技能が高まったと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・・・・・・・60%
- 「ダンスのステップや動きが身に付いたと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・・・・・81%
- 「外部指導者の言葉遣い・態度は指導者として適切だと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・・・88%
- 「外部指導者の指導により、授業は活性化されたと思いますか」に対する肯定的な回答・・・・・・69%

以上のように、外部指導者による指導を受けたことに対して肯定的回答が多かった。特に具体的な動きや生徒への指導がよかった。

今後のダンス指導のあり方  
「ダンスの授業への取り組み方について」

- 体育の授業が好きな生徒が多く、活発である。外部指導者の指示や指導に素直にしたがい、意欲的に活動していた。指導にあたってくださった外部指導者には細やかな指導をしていただき、当初生徒は恥ずかしさもあつたが、少しずつダンスの授業に慣れてきた。
- 本年度は各学級の授業に3時間外部指導者に入っていた。昨年度は生徒にやや消極的な面も見られたが、外部指導者の指導上の工夫もあり、授業はとて活性化していたと感じる。

## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲と満足感を高めた実践例	学校名 郡山市立行健中学校（福島県） 1年
	全校児童生徒数 541名（男269名 女272名） 種目等 ダンス（リズムダンス・創作） （本事例に係る問合せ先） 電話番号 024（932）1815 kouken-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp
1 研究のねらい	
(1) 学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。	
(2) ダンスの指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。	
2 研究の取組体制	
(1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。	
(2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。	
3 研究の概要	
(1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進	
① ウォーミングアップからダンスの指導全般を地域の指導者が行った。体育担当教師は、戸惑っている生徒への支援を行った。また、生徒と共に踊ることで、恥ずかしい気持ちが和らげられるように努めた。	
② 事前の打ち合わせや授業後の反省を毎時間行い、効率のよい授業の展開が図れるようにした。	
(2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など	
① 楽しい雰囲気での授業が進められるよう、教師も一緒に踊ることを心がけた。	
② 生徒の実態を把握し、難しい部分や時間が必要な部分を地域の指導者に伝え、効率的な授業を進められるようにした。	
③ 毎時間の列をローテーションすることで、地域の指導者の指導が平等に行えるようにした。	
④ 毎時間の取り組み、表現する技術やリズム感、発表の成果や感想などを担当教師が評価した。	
(3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など	
① 授業の始めと、終わりに健康観察を実施した。また、表情や動きなどから、授業に対してどのように取り組んでいるか、生徒の様子を観察し支援した。	
② 全体指導のときの一人一人の立ち位置や班ごとに活動する場所が十分に取れるようにした。	

## ○事業成果と今後の課題

1 専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、体育科教員と連携して授業を行ったことで、生徒の表情や言葉に充実感や達成感が表れた。
2 豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して授業を進めることで、指導者も知識や技能を身につけ、指導力を高めることができた。
3 ダンスの指導計画8時間のうち各学級前半4時間ご指導いただいたが、全時間に関わっていただくことが理想である。より教育効果をあげるために、派遣時間を増やしていただけると幸いである。

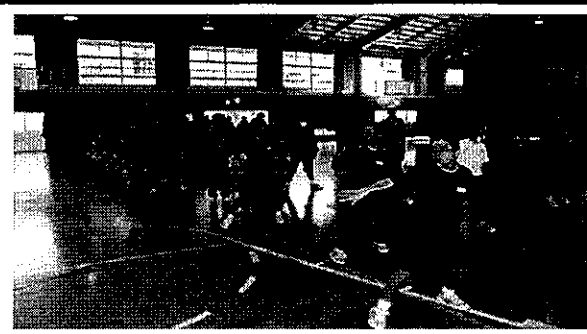
【様式4】2 ページ目

○ 研究内容

【タイトル：準備運動】  
 説明文：先生の動きに合わせて、しっかり準備運動。



【タイトル：リズムダンススタート】  
 説明文：基本のステップの動き。



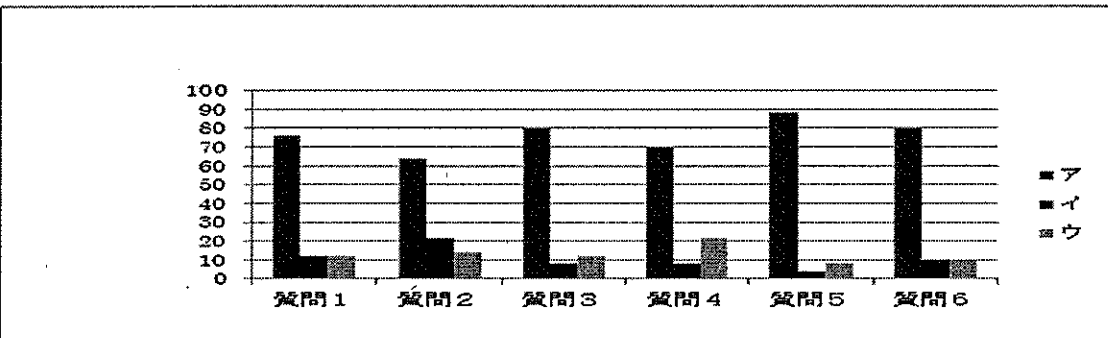
【タイトル：個別指導】  
 説明文：班ごとに創作活動。



【タイトル：完成】  
 説明文：音楽に合わせて楽しく、思いっきり。



【タイトル：アンケート結果】  
 説明文：グラフからもわかるように、外部指導者による指導は効果的であった。



【タイトル：今後の取り組み】  
 説明文：今回学習した内容を今後に生かし発展させる

- 毎時のウォーミングアップにダンスの基本的な動きを取り入れた準備運動を行うなど、今回学習した内容を今後の単元に生かしていきたい。
- 2 学年の「ダンス」の単元では創作を中心に行うので、今回の授業の内容がさらに発展できるように、教師間での話し合いを十分に行い、授業の計画や指導方法を検討していきたい。

## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、  
生徒の意欲と満足感を高めた実践例

学校名 郡山市立行健中学校（福島県）1 学年  
全校児童生徒数 541 名（男子269 名 女子272 名）  
種目等 武道（柔道）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 024（932）1815  
Kouken-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ① 準備運動から整理運動まで指導全般を地域の指導者が行った。教員は、生徒全体の管理と個別的支援に努めた。
  - ② 授業の事前の打ち合わせと事後の反省を毎時間行い、授業の充実に努めた。
- (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など
  - ① 礼法や姿勢、受け身、技など専門的な学習内容を地域の指導者が指導した。
  - ② 生徒の毎時間の取組み状況や習得状況などを教員が評価した。
  - ③ 各生徒の特長や配慮事項などを教員が地域の指導者に伝えながら指導を進めた。
- (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - ① 授業の始めと終わり及び授業中、観察や申告によって健康状態を把握し、適宜対処した。
  - ② 毎時間授業の始めに、爪が切っているか、髪の毛にピンをしていないかなどを確認した。
  - ③ 毎時間礼法を徹底させ気持ちを落ち着かせるとともに、受け身の復習を十分に行うようにした。
  - ④ 生徒達がぶつからないよう、学習内容ごとに隊形を工夫した。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 専門的な技能を有する地域スポーツ人材を柔道の授業に招聘し、体育科教員と連携して授業を行ったことで、生徒の表情や言葉に充実感や達成感が表れた。
- 2 豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して授業を進めることで、指導者も知識や技能を身につけ、指導力を高めることができた。
- 3 柔道の指導計画8時間のうち各学級前半の2～3時間ご指導いただいたが、全時間に関わっていただくことが理想である。より教育効果をあげるために、派遣時間を増やしていただけると幸いである。

## 【様式4】2 ページ目

### ○ 研究内容

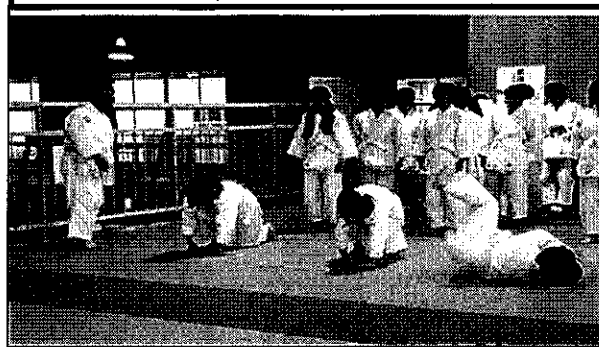
#### 【受け身】

一斉に後ろ受け身の練習をする。



#### 【受け身】

順番に前回り受け身の練習をする。



#### 【固め技】

固め技の演示を見ながら説明を聞く。



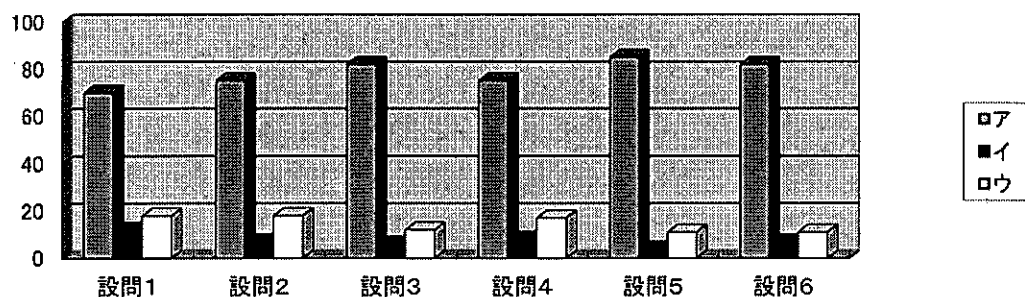
#### 【固め技】

二人一組になって固め技を実際にやってみる。



#### 【アンケート結果】

グラフからもわかるように、外部指導者による指導は効果的であった。



#### 【今後の取り組み】

今回学習した内容を今後に生かし発展させる。

- 今回学習した柔道の礼法や補強運動などを、今後の授業に生かしていきたい。
- 2学年の柔道の授業で今回学習した内容をさらに発展できるように、保健体育科内での話し合いを十分に行い、授業の計画や指導方法を検討していきたい。



## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者と教員が連携し、安全を確保しながら武道に関する指導の充実を図った実践例

学校名 郡山市立御館中学校（福島県）1, 2年

全校児童生徒数 70名（男子39名 女子31名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 024（973）3341

学校メールアドレス mitate-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① 指導者的人選は郡山市教育委員会の全面協力を得て、福島県柔道連盟常任理事で、講道館6段の指導経験豊富な方をご紹介いただいた。
- ② 体育科教員が、準備運動や基本的な健康管理・安全面の指導をした上で、地域の指導者から柔道の専門的な内容についてご指導をいただいた。

#### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ① 各学年の技能の習熟度に応じた学習内容の工夫について助言をいただいた。
- ② 固め技の実践を行い、互いに競い合う練習を取り入れた。

#### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ① 14時間の実施中約7時間を受け身の指導に当て、事故・ケガが無いように十分に配慮した。
- ② 勝手に技の掛け合いなどをしないように、休み時間中も必ず指導者がそばにいるようにした。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 豊富な指導経験を有する地域指導者と連携して授業を進めることで、生徒の武道に対する基本的な知識や意欲が高まった。
- 2 固め技の実践練習の時間を多く取ることで、安全性に配慮しながら、生徒の興味関心を高めることができた。
- 3 小規模校の良さを生かし授業を入れ替え2時間続きの時間割を設定した。そのため、まとまった指導をしていただき効果が高まった。
- 4 決められた時数の中で指導する事柄が豊富なため、指導内容の精選が必要。

## 【様式4】2 ページ目

### ○ 研究内容

#### 【礼法指導】

説明文：相手を敬う気持ちの重要性の指導



#### 【複数教員による指導】

説明文：休み時間中も常に生徒のそばに付いた指導



#### 【固め技の実践練習】

説明文：実践練習を取り入れることで、興味・関心を高めた



#### 【興味関心を高めるための工夫】

説明文：視聴覚教材を用い、生徒の興味・関心を高めた



#### 【生徒の意識調査（アンケート）結果から】

説明文：外部指導者による指導について、肯定的な意見が圧倒的に多かった

- ・「武道の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。」の項目で「思う」が88.6%
- ・「外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思いますが。」の項目で「思う」が88.6%
- ・「担当の先生と外部指導者が連携した指導により、授業は活性化されたと思いますか。」の項目で「思う」が90.9%

#### 【地域指導者による指導の効果】

説明文：生徒の意欲・技能の向上、体育科教員の指導力向上

生徒の武道（柔道）学習に対する興味・関心の高まり、技や安全に対する基礎的な知識の習得、基本的な技能の向上は、外部指導者の力によるところが大きい。また、間近で経験に基づいた指導を見ることができた体育科教員自身も、たくさんのごとを学び、指導力の向上に結びついている。さらには、この武道学習で学んだ礼儀作法や安全面への配慮は、他の領域での指導に生かすことができ、大変有効であると考えられる。

## 【様式4】1ページ目

地域の外部指導者を活用し、生徒のダンスの授業に対する興味・関心を高めた実践例

学校名 郡山市立安積第二中学校（福島県）1年

全校児童生徒数 313名（男子167名 女子146名）

種目等 ダンス

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 024 (947) 1124

学校メールアドレス asaka2-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp

### 1 研究のねらい

- (1) 専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) ダンス指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をする。生徒の健康管理に関する情報および指導方法について確認する時間を確保し、授業の安全と充実に努める。

### 3 研究の概要

- (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ① 公益法人日本3B体操協会の公認指導者を昨年に引き続き招聘した。
  - ② 体育科教員が、準備運動や健康管理面での指導について指導した上で、地域の指導者からより専門的な部分についてご指導をいただいた。
  - ③ 外部指導者から短期間で集中的に指導が受けられるように校内での時間割を工夫した。
- (2) 学習内容の指導の工夫、興味・関心を引き出す指導の工夫
  - ① 授業対象を1年生に設定することにより、基礎的な学習を通して、ダンスの特性を学ばせ、2年次、3年次へとつなげる3年間を見通した指導計画を構想した。
  - ② 発表時にはタブレットを利用し、相互にダンスを録画した。友達のダンスを鑑賞するとともに、自分のダンスを鑑賞・反省することができるようにした。
- (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - ① 事前に健康管理に関する情報を指導者と共有するようにした。
  - ② 授業中においては、ダンス指導者と体育教師の役割を明確にし、特に体育教師においては、生徒一人一人の技能習得の度合いや、身体面の負荷・人間関係などを把握するように努めた。

## ○事業の成果との意義と今後の課題

- 1 専門的な指導者に学ぶことから、生徒は興味が増し、ダンスの動きを細部まで観察しようと努力していた。指導者も選曲を工夫したり、ダンスのリズムやテンポを変えたりすることにより、生徒が興味を持ちあきらめず踊り続ける姿が見られた。
- 2 役割を分担し、全体と個の指導を連携しながら行うことができた。また、生徒の把握や授業の流れについては、体育教員が担当した。
- 3 実技・鑑賞・相互評価などを考えると、実数的に地域指導者が継続して時数を確保するか、指導後の体育授業で継続するなどの検討が必要である。

【様式4】2ページ目

○ 研究内容

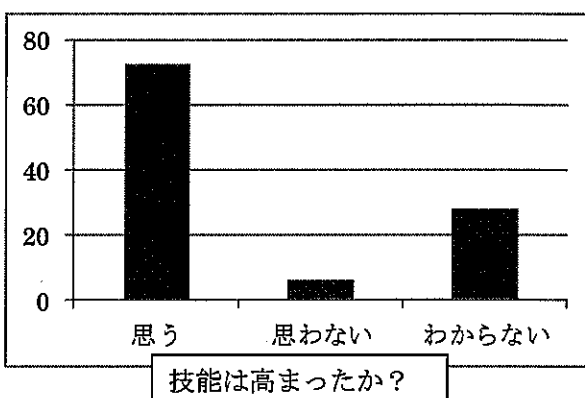
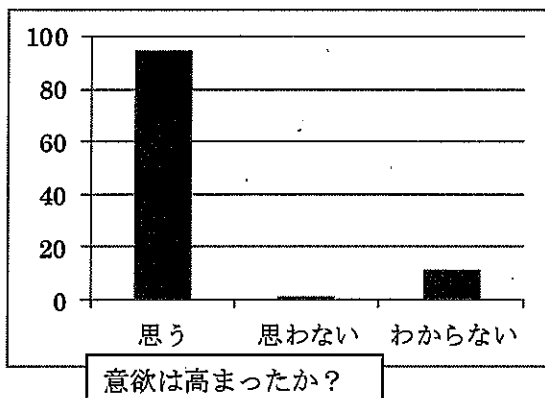
【講師の全体指導】  
全体の動きを確認する地域指導者



【グループ練習】  
自分たちのオリジナルを含めたグループ練習



【ダンス授業のアンケート】  
授業を通してダンスに対する意欲や専門的知識の向上



【外部指導者と連携した授業指導効果】  
生徒の意識および意欲、体育科教員の指導力の向上

専門性が高いダンスの指導について地域指導者を招聘し、ダンスの授業を实践できたことは、実践期間を通して生徒の意欲を高め、ダンス技能の習得に効果的であった。短期間ではあるが、専門的な動きや興味を引く言葉かけにより、充実した活動を継続することができた。教員にとっても、有意義な研修の機会とすることができた。指導者と教員が生徒の状況について計画を練ることにより、生徒のグループ化や創作活動もスムーズに行う事ができた。また、生徒たちは、今回学習したことを基盤に2年次・3年次のダンス学習を興味・関心を持って進めることができると思われる。

地域スポーツ人材を活用し、心身の発育発達を  
高めた実践例

学校名 郡山市立逢瀬中学校（福島県）1・2年  
全校児童生徒数 69名（男子26名 女子43名）  
種目等 保健体育（剣道）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 024（957）2213  
メールアドレス ouse-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① 福島県教育委員会平成27年度武道等指導推進事業により、過去6年間本校剣道指導に携わっていただいた指導者を招き、地域・生徒理解が深い中で充実した授業を展開する。

#### (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ① 派遣指導者が主として授業内容を組み立て、保健体育教師が補助する立場として生徒を支援することにより、個に応じた指導が図られるようにする。
- ② 礼法を重視し、指導者が長年培ってきた「道」（人としての生き方、あり方）の考えを指導過程の中に位置づけ、伝統的な行動の仕方や考えから生徒の人間形成を図る。

#### (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ① 1学年においては、初回オリエンテーション時に基本的ルールと作法を講習するとともに、相手を重んじる態度について指導した。
- ② 2学年では、対戦が組み入れられるので、相手との関連性や安全な防具の装着について指導した。
- ③ 指導者二人体制とし、常に生徒の動きを注視、突発的な事故やけがに対応できるようにした。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 専門的な知識・技能を有する外部指導者により、武道（剣道）について詳しく実感を伴って学ぶことができた。
- 2 普段とは違う緊張感の中で、集中力・忍耐力といった、精神面での向上を図ることができた。
- 3 本校7年目ということもあり、生徒の実態をよく理解した上で、担当教師と共に個に応じた指導を行うことができた。
- 4 年間の指導時数が限られており、1時間の指導内容の精選が必要である。

○ 研究内容

【興味・関心・意欲の向上のために】  
竹刀で新聞紙を切ったり、ボール状にしたものを打ったりする活動により、剣道への興味・関心・意欲を高めた。



【礼法指導】  
礼法や黙想の仕方等について全授業を通して指導した。



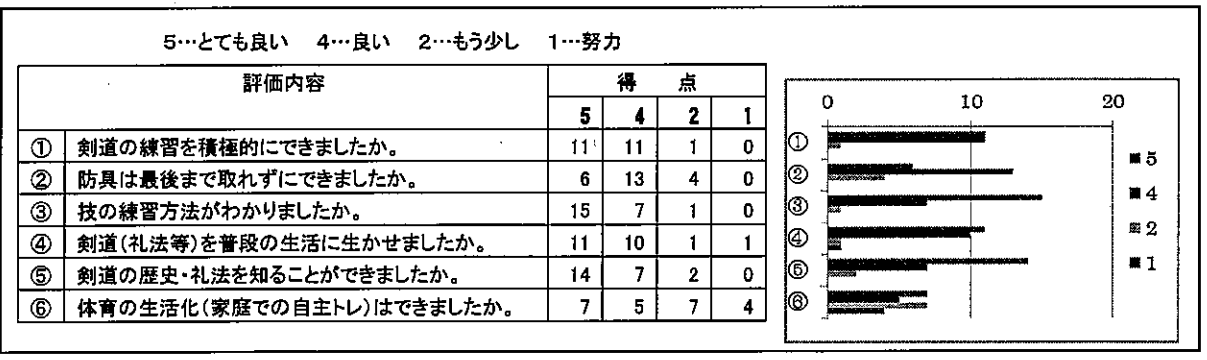
【模範演技による事故防止】  
模範演技を行い、個人指導、巡回指導により事故の未然防止を図った。



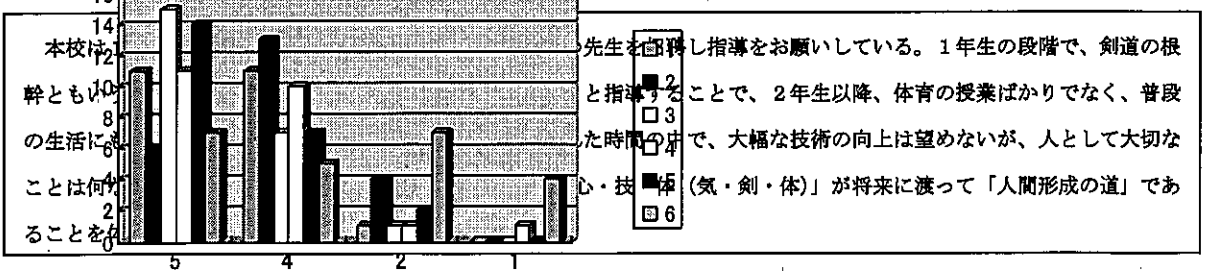
【基本的な打ち込み練習】  
ペア・小グループ等、形態を工夫しながら基本的な打ち込み練習を行った。



【授業後アンケートの活用】  
指導者が独自に準備したアンケートを基に、生徒の変容を捉え、指導の改善を図る。



【たくましい心身の育成】  
剣道の理念「人間形成の道」を体得させる指導の継続



【様式4】1ページ目

優れた指導力を有する指導者と連携した授業により、生徒の表現力を高めた実践例

学校名 郡山市立熱海中学校（福島県）1・2年  
全校児童生徒数 113名（男子65名 女子48名）  
種目等 ダンス授業  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 024（984）3167  
学校メールアドレス atami-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp

1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) ダンスの指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業のあり方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

3 研究の概要

- (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ① 外部指導者の日程の関係で、10月から1月にかけて1・2年生合同のダンス授業を行った。
  - ② 外部指導者が中心となり、担当教員のダイエットを目的としたエアロビクスダンスを作り上げ担当教員の心拍数を基準に構成したプログラムを生徒が作り上げていくようにすすめた。
- (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など
  - ① エアロビクスダンスの正しい順序を理解できるよう進めた。  
(準備動作→ストレッチ→ローインパクト→ハイインパクト→ダウン)
  - ② 学年ごとに4～5名のグループを編成し、各班の役割分担や活動内容について事前に説明し、授業に入った。
  - ③ 音楽に合わせて行う有酸素運動として開発された説明とともに、担当教諭の最大心拍数を基準とした運動構成を全体で考え内容を検討した。
  - ④ 今回の目標として、一人ひとりがエアロビクスダンスの構成を理解して、グループごとに創作することを狙いとして進めた。
- (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - ① 生徒の健康観察は事前に実施しておき、見学者や体調不良者は、音楽機器の操作やグループの取り組みなどを観察して、レポートにまとめるよう配慮した。
  - ② 外部指導者と教員とで常に対角に位置し、グループ活動中の観察を行った。
  - ③ 班のバランスを均等にするため、班長を先に人選し、グループ編成を行った。

○事業成果と今後の課題

- 1 優秀な外部指導者による専門的な指導を受けたことにより、生徒一人ひとりの表現力、リズム感覚、言語力の向上がみられた。
- 2 外部指導者と教員が連携を取りながら授業を行ったことにより、エアロビクスダンスの仕組みや生徒一人ひとりの観察方法、言語活動の設定、指導順序などについて共有を図ることができ、意義のある授業展開となった。
- 3 授業時数が限られているため、十分な個別指導が行き届かなかったことが反省点である。次年度は、少人数で取り組める学習形態の工夫を図りたい。

【様式4】2ページ目  
○研究内容


**【エアロビクスダンスのステップの練習】**

ダンスに必要な基本ステップの練習




**【グループ練習】**

ダンスの振り付けの練習



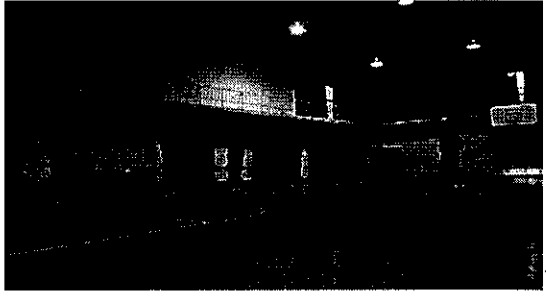
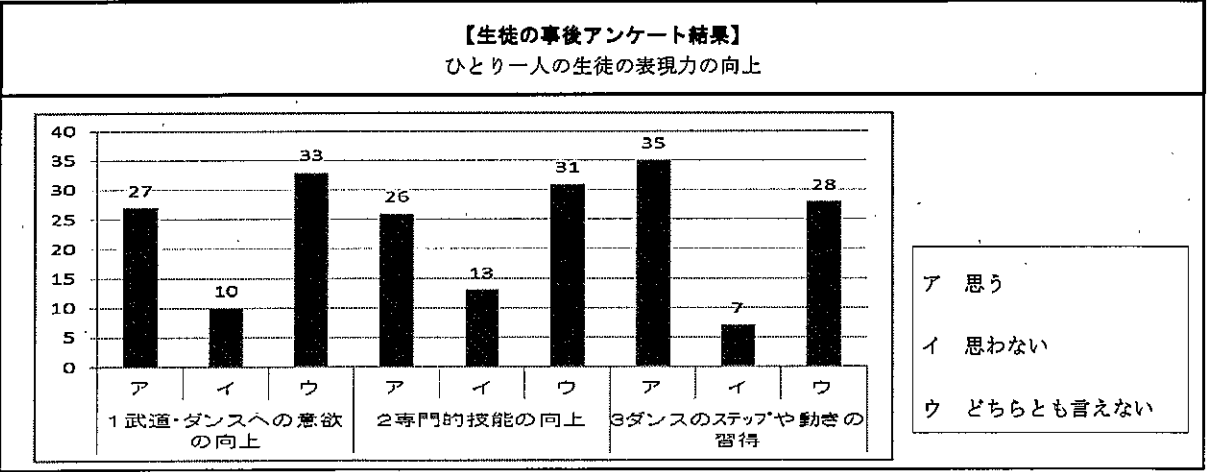
**【グループ練習】**

音楽に合わせたグループごとの練習



**【グループの発表】**

与えられた課題の発表（ローインパクト）

**【事業後のまとめ】**  
次年度への引継ぎ内容

- 1 計画・立案段階  
日程は10月～1月と考え、年度当初年間計画に位置付ける。
- 2 内容等  
今年度のエアロビクスダンスの取り組みは、運動生理学、運動心理学的な内容も含まれているため、次年度も有酸素運動としてエアロビクスダンスを取り入れる。
- 3 指導過程  
運動時間を十分に確保できるよう配慮して進める。



## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者との連携を図り、  
充実したダンスの授業を行った実践例

学校名 郡山市立守山中学校（福島県）1, 2年  
全校児童生徒数 252名（男子139名 女子113名）  
受講生徒 172名（男子98名 女子74名）  
種目等 ダンス（よさこい：フリーダム）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 024（955）3108  
学校メールアドレス  
moriyama-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) ダンスの指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① 現在も、よさこい活動を行う団体「大地の子」に所属し、様々なイベントに参加し、技術を磨いている地域の指導者であるため、様々な表現を取り入れたダンスを指導することが出来た。
- ② 学習の成果を発表する場を設けることにより、生徒や保護者より高い評価を得たため、今年度も同様に進めることにした。発表に合わせた指導計画や指導内容を検討し実践した。
- ③ ウォーミングアップからダンス「よさこい」の指導全般を地域指導者が行った。体育担当教師は、戸惑っている生徒への支援や個別支援を行った。また、生徒の中に入り踊ることで、細かい動きなどをわかりやすく見せた。
- ④ 授業前の打ち合わせや授業後の反省を毎時間行い、効率のよい授業の展開が図れるようにした。

#### (2) 具体的な取り組み内容・方法等での工夫点

- ① 楽しい雰囲気での授業が進められるよう、教師も一緒に踊ることを心がけた。また、全体指示などを行い、スムーズに活動できるようにした。
- ② 生徒の実態を把握し、難しい部分や時間が必要な部分を地域指導者に伝え、効率的に授業が進められるように努めた。また、毎時間の終わりに、反省会や生徒の様子について話し合い、次時の授業の準備に役立てた。
- ③ 発表の場を設け、意欲的に取り組めるようにした。
- ④ 1、2学年合同の授業を取り入れ、発表に向けて練習した。また、行事の中で発表させることで、一人一人の取り組みが大事であり、成功へと導かれることを実感できるよう努めた。
- ⑤ 毎時間の取り組み・表現する技術やリズム感・発表の成果や感想などを担当教師が評価した。

(3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

① 授業の始めと、終わりに健康観察を実施し生徒の状態を把握した。また、表情や動きなどから、授業に対してどのように取り組んでいるか、生徒の様子を観察し支援に努めた。

(動きの変化が激しいので、隊形の作り方や位置が的確であるか、事前に検討した。)

## ○事業成果と今後の課題

### 【成果】

- 1 1年生は、新入生オリエンテーションの際、2、3年生のダンス「まほろば」の発表を見ていたので、ダンスの授業へ抵抗なく入ることが出来た。興味関心が高かった。
- 2 2年生は、昨年度の内容と動きが違ったものであったが、意欲を持って取り組む姿が見られた。
- 3 ダンスの授業が進むにつれて、休み時間などもダンスを踊る生徒が見られた。音楽に合った動きや表情を作ることによって表現力を高めることが出来た。さらに、各自が自由に動いたり表現したりする場面も入れたことは効果的であった。小グループで動きの変化を覚えたり、全体で動きを合わせたりする場面では、互いに話し合わなければならないため、コミュニケーションの能力を養う手段となった。
- 4 昨年に引き続き、担当していただいた伊藤先生からの指導は、生徒とコミュニケーションを取りながら行うため、大変親近感があり、スムーズに学習を進めることが出来た。  
アシスタントとして、鈴木先生が加わりさらに充実した内容となった。鈴木先生が踊り、伊藤先生が説明することで、生徒達もすぐに理解し動き出すことができていた。
- 5 今年も、行事の中で発表の場を設けたことで、取り組みへの意欲はもちろんのこと、成果をあげることができ、生徒一人一人に達成感や満足感を味わわせることが出来た。
- 6 伊藤先生の指導の最終日に、この踊りを作られた先生が高知県より来られ、まとめの踊りを見学されて大変感動され、生徒達に激励の言葉をいただいた。

### 【課題】

- 1 毎年の取り組みが、単純化しないよう内容を十分に精選して取り組んでいきたい。
- 2 学年全員で1つのものを創り上げていくので、覚えることがなかなか出来ない生徒が不安にならないような配慮が必要である。また、踊れない生徒(見学者)の役割をしっかりと作ることが大切である。
- 3 インフルエンザ等の感染症が流行する時期の授業なので、時間の遅れの調整をしっかりと行うことが大切である。
- 4 事前の打ち合わせや準備に時間を要するので、その時間の確保が難しかった。
- 5 経験豊富な指導者を教育活動の中で生かす取り組みを継続していくためには、学校を始めとした団体が、どのように対応していけばよいのか十分に検討するべきである。  
例えば、講師を利用したいが、打ち合わせや反省等に時間を取られてしまう。また、アンケートの実施や集計、報告書に時間がかかりすぎるのはどうなのか。
- 6 合同体育の実施により、授業変更等で他の先生方に配慮していただいた。定期テストの関係もあることから時期も考えていきたい。

【様式4】2ページ目

○ 研究内容

【タイトル：準備運動】  
 説明文：音楽のリズムで先生の動きに合わせて準備運動。



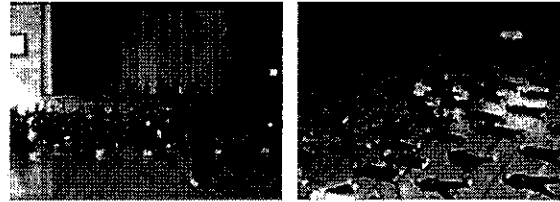
【タイトル：隊形の工夫】  
 説明文：全員が動けるよう配置の工夫。



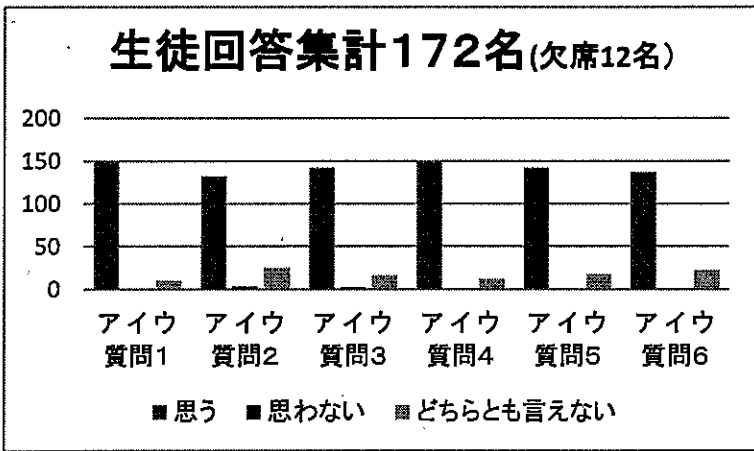
【タイトル：「よさこい」スタート】  
 説明文：本格的に動きの指導を受ける。



【タイトル：メリハリのある時間】  
 説明文：身についたのは踊りだけではない。



【タイトル：授業アンケート結果】  
 説明文：結果からもわかるように、外部指導者による指導は効果的であった。



- 質問1 ダンスに対する意欲は高まったか
- 質問2 専門的な技能は高まったか
- 質問3 ダンスのステップや動きが  
身についたか
- 質問4 外部指導者の指導力は  
優れているか
- 質問5 外部指導者の言葉づかい  
態度は、指導者として適切か
- 質問6 授業は活性化されたか

【タイトル：充実した授業】説明文：ダンスの授業から、表現力、自己主張の仕方など得ることができた。

- 発表の場を設けたことで、集中して取り組み、高評価されたことで達成感や満足感を味わわせることができた。
- 専門的な動きや知識を教師以外から受けることで普段とは違った刺激を受けることができた。講師の先生の話も生徒たちの視点で指導をしていただき、表現の仕方や自己主張の仕方など今後の生活に大変役立つものであった。
- 教師、生徒共に、今後の学校行事や学校生活の中で、集団での活動の重要性や大切なことなど、多くのこと学びそれらを生かしていくために一つ一つの行動を意識していきたい。

## 【様式4】1 ページ目

地域の武道指導者の協力を得て、武道に関する指導の充実を図った実践例

学校名 郡山市立二瀬中学校（福島県）1・2年  
全校児童生徒数 35名（男子13名 女子22名）  
種目等 武道（剣道）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 024（975）2268  
学校メールアドレス

[futase-t@edu.city.koriyama.fukushima](mailto:futase-t@edu.city.koriyama.fukushima)

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① 指導者の人選は、郡山市教育委員会の全面的協力を得、福島県剣道連盟郡山支部副支部長教士七段、角田幸一先生のご指導をいただいた。
- ② 体育科教員と教頭がT・Tで、準備運動や健康管理面での指導、および、防具・竹刀等の整備をした上で、地域の指導者からより専門的な部分について指導をいただいた。

#### (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ① 剣道の「武道」部分を強調しすぎることなく、スポーツとして楽しめる部分を生かした指導を心がけた。
- ② 地域の指導者の助言をもとに単元構成を工夫した。

#### (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ① 地域の指導者の助言をもとに、武道特有の安全管理（本年度は体育館が耐震工事のため、使用する3階ホールの床や壁面の状態に関する事、竹刀および防具の保守・点検等）を行った。
- ② 安全面を考慮し、技能の習熟度に応じた学習内容の工夫についての助言をいただいた。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 武道の学習に対する意欲が向上し、「継続して取り組みたい」という生徒が多く見られた。
- 2 専門的な技能を有する地域スポーツ指導者と、保健体育科の教員の連携のもと、専門的な技能の指導のみならず、スポーツとしての武道の指導の在り方について、多くのことを学ぶことができた。
- 3 外部スポーツ人材と連携して、体育教員・教頭の3名によるT・Tで授業を進めることで、武道の指導経験が浅い教員でも充実した授業を実践することができた。

## 【様式4】2ページ目

### ○ 研究内容

#### 【返し技（応じ技）に挑戦】

受けから攻撃へ切り返す高度な技への挑戦



#### 【チームティーチングでの指導】

外部指導者・体育科教師・教頭の3名でのT・T



#### 【授業前の点検】

安全確保のため、竹刀の構造や点検の方法を学習



#### 【楽しみながら竹刀を操る】

竹刀を使用して、楽しみながらのバランス感覚育成



#### 【生徒の意識調査（アンケート）結果から】

- 「武道の伝統的な行動の仕方や基本動作が身に付いたと思いますか」に対して「思う」と答えた回答・・・ 91%
  - 「外部指導者の指導力は優れていると思いますか」に対して「思う」と答えた回答・・・・・・・・・・ 100%
  - 「外部指導者の言葉づかい・態度は指導者として適切だと思いますか」に対して「思う」と答えた回答・ 100%
  - 「担当と外部指導者が連携し、授業は活性化されたと思いますか」に対して「思う」と答えた回答・・・ 91%
- 以上のように、外部指導者による指導を受けたことに対する肯定的意見が多数をしめた。

#### 【生徒の意識および技能、体育科教員の指導力の向上】

生徒の感想～「疲れるというよりも、どんどん授業が楽しくなってきました」～

- 中学生になって初めて剣道をやりましたので、最初はどうすればいいか何もわからなかったけれども、講師の先生や先生方に教えていただいて、最後の授業では面を打てるようになって、とても楽しかったです。少し怖くて緊張しましたが、試合ができて、すごくうれしかったです。
- 剣道をやって、日本の文化、礼儀について知ることができました。面や小手、胴を打ち分けることができるようになりました。この授業で、日本の武道について、そして、武道のおもしろさがよくわかりました。来年もまたやりたいです。
- 剣道の授業を受けて、とても役に立ち、勉強になりました。例えば、相手を観察すること、相手との間合いなど、共通しているスポーツがあると思います。僕の場合では、ハンドボールをやっているようにやればうまくできました。それができたのも講師の先生に丁寧に教えてもらったからだと思います。
- 今年の授業で、去年の授業より高度な技の練習をすることが多くなり、疲れるというよりも、どんどん授業が楽しくなってきました。今回の授業で剣道に対する考えが大きくかわりました。

◎ 前述のような生徒の武道（剣道）学習に対する興味・関心の高まり、技能の向上は、外部指導者の力量によるところが大きい。そして、そういった指導を間近で見ることのできた体育科教員の指導力も、間違いなく向上している。

## 【様式4】1 ページ目

専門的な技能を有する地域の指導者と連携した授業により、実際の動き、新しい動きを身近に見て練習することができ、生徒の関心・意欲の向上につながった。

学校名 須賀川市立第一中学校（福島県）2 年  
全校児童生徒数 303名（男子163名 女子140名）  
種目等 ダンス（よさこい）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 0248（73）3535  
学校メールアドレス school@sukagawa1-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）ダンスの指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

よさこいの授業では、まず地域の指導者が主として授業を進めた。隊形は一斉指導により行い地域の指導者を見本としながら、一緒に真似をして動きを覚えていった。教員は、CDを流したり、ビデオ撮影などのサポートと、個別指導で苦手な生徒の指導を行った。

#### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

今回の授業では次年度、学校行事で「よさこい」を行うため、2年間を通して継続して取り組めるようにした。さらに、生徒の興味関心の高い、ヒップホップの動きなども取り入れた。最終的にはクラスごとに発表の機会をもち、意欲的に取り組めるように工夫した。

#### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

授業は1、2月の寒い時期に取り入れたため、ウインドブレーカー等の防寒着を着用させて授業を開始した。技能の程度に応じた指導では、4、5人程度の班別練習や、苦手な生徒に合わせて個別指導を取り入れた。

## ○事業成果と今後の課題

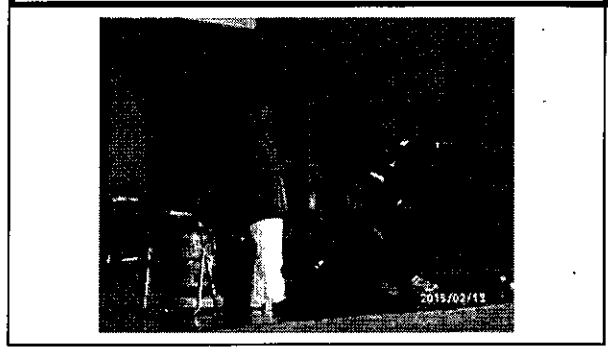
- 1 <地域の指導者との連携> 専門的な技能を持つ指導者の動きを実際に見ながら、練習ができるので生徒にとってとてもよかった。教員にとっても、実際の動きや指導法を学ぶことができよい機会になった。
- 2 <授業の進め方> 授業前後に、打ち合わせを行い進めていったが、授業の中で相談することも時々あった。生徒の達成目標の設定や授業の進め方などを、地域の指導者と教員が共通理解し、生徒にとって充実したものになるように改善したい。
- 3 <段階的な指導> オリジナルの動きを取り入れるなど、関心の高い生徒にとって充実したものになった。苦手な生徒にとっては完成までいかなかったため学習形態や進度などを工夫改善していきたい。

○ 研究内容

【よさこい練習風景1】  
地域の指導者が踊るのを見ながらの練習



【よさこい練習風景2】  
オリジナルの動きを生徒が見本になって練習



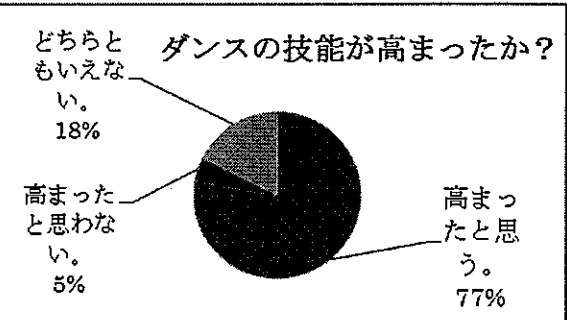
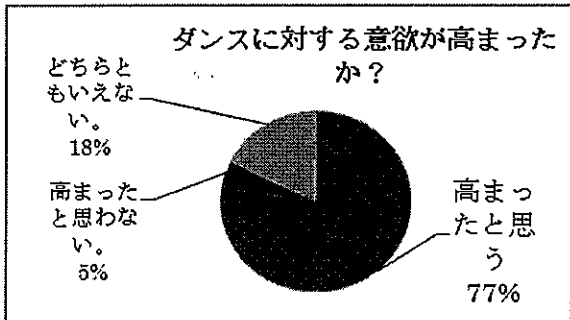
【防寒着着用で授業をスタート】  
ケガ防止のため、防寒着を着用し始めたが、運動量も多くすぐに脱いでいた。



【学年発表会】  
クラスごとにオリジナルの動作を取り入れ発表会を行った。



【ダンスの授業のアンケート結果】  
アンケート結果から多くの生徒が意欲と技能が高まったと感じていた。



【次年度へ向けて】

今年度より、この事業を取り入れたが生徒にとってダンスの関心意欲を高める良いものとなった。オリジナルの動きや学年発表会を取り入れたことでクラスの団結力にもつながった、この取り組みを継続していくことで地域の指導者との連携も深まり授業も充実していくと考える。次年度も3学年での「松明あかし」で取り組んでいる「よさこい」につながるように、2年生でのダンス「よさこい」の授業をと取り入れる方向で考えている。

## 【様式4】1 ページ目

地域行事へ生徒が参加し、ダンス（よさこい）を踊ることで、生徒の地域活性の意識と個々の体力を高めさせる。

学校名 須賀川市立長沼中学校（福島県）1、2、3年

全校児童生徒数 180名（男子91名 女子89名）

種目等 ダンス（よさこい）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0248（67）3155

学校メールアドレス school@naganuma-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）ダンスの指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① 地域のダンスグループのインストラクターとして活躍している方を指導者として招いた。
- ② 授業では、教員が導入段階での指導と実際のダンスの中で生徒への指導をしていく。指導者はダンスの技術的な面の指導をし、全体の様子を確認して授業を進めていった。

#### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ① 3年生の長沼まつりへの参加の際には、演舞隊形やはねと隊形なども含めて指導する。
- ② 生徒の中で上達が早い生徒をスモールティーチャーとして小グループで教え合う場を設定。

#### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ① 3年間を通して、3つのよさこいを授業の中で指導し、その発表の場として長沼まつりを設定している。3つのよさこいとは、①うらじゃ音頭 ②相模原乱舞 ③ソイヤである。
- ② ヒップホップの要素を含んだ激しいダンスの練習ということで、ねんぎなどをしやすい動きもあるため、靴紐などの服装への注意やストレッチ運動を入念に行った。また、3年生は熱中症対策として、休憩や水分補給に十分配慮した。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 地域に根ざしたよさこいを学習することで、地元への意識を高めることができた。また、そのような意識の中でリズムに合わせて体を動かすこと、気持ちの高まりを感じながら運動をすることへの達成感や充実感を味わうことができた。
- 2 3年生については、過去2年間の練習の成果として、長沼まつりを成功させることができた。
- 3 地域でよさこいというものを熱心に取り組んでいる実態を肌で感じ、自分の生まれ育った地域で生涯にわたってよさこいを続けていきたいと思う生徒も見られた。
- 4 ダンスの授業の経験はあるが、よさこいを経験することで、指導の幅を広げることができた。



【様式4】2ページ目

○ 研究内容

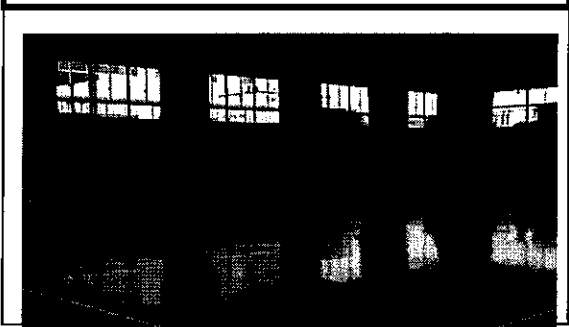
【スモールティーチャーへの指導】  
スモールティーチャーを活用し、指導をする



【小グループでの活動】  
講師から伝達された内容を生徒間で伝える



【こまめに取った休憩時間】  
水分補給などの休憩時間も意欲的に質問、自主練習



【外での隊形確認及び演舞練習】  
3つの演舞を3通りの隊形でそれぞれ演舞する



【実施後生徒のアンケートより】  
長沼まつりのためのよさこいへの取り組み後の生徒の意識調査より成果と課題が見える

- 生徒177名（特別支援1年生1名と3年生2名を除く）の授業への参加において、以下の集計結果が出た。
- |               |       |                  |       |
|---------------|-------|------------------|-------|
| ①意欲の高まりを感じたか  | 85.6% | ④講師の指導力はあったか     | 86.7% |
| ②技能向上を感じたか    | 78.7% | ⑤講師の言動は適切か       | 86.7% |
| ③基本的技能は身についたか | 82.7% | ⑥教師と講師の指導で活性化したか | 85.0% |

(考察)

生徒は概ね成果を感じる授業であった。ただし、講師が来校できるのが限定されることなどにより、指導のつながりや深まりまではいかなかったように感じる。また、学校の実態に合わせた授業となるため、講師の要望通りに時間割を組むことができずに苦労した。

【次年度以降はこれまでに得たノウハウを活かして学校独自で活動を継続し、伝統文化として根ざさせる】  
毎年開催される長沼まつりに意欲的に参加し、まつり自体に活気と華を添えるこのよさこいを続けていく

- 本年度も長沼まつりを成功させることができた。そして、ただ単に参加するだけでなく、まつりに活気と華を添えることのできるこのよさこいを今後も継続させるべく、これまで外部指導者から得たノウハウを活かして、教師自身が教材研究をし、外部指導者なしで伝統を継続させたい。そして、町の活性化に役立てたい。
- 全校での協力や参加する気持ちが大切である。共通理解のもとよりよいものとなるべく、教師一丸となって取り組まなければならない。

## 【様式4】1 ページ目

地域の優れた指導実績のある指導者による授業を通して、剣道に対する生徒の意識、意欲、理解を高めた実践例

学校名 須賀川市立大東中学校（福島県）1・2年  
全校児童生徒数 166名（男子92名 女子74名）  
種目等 武道（剣道）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 0248（79）3148  
学校メールアドレス school@oohigashi-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

指導者は、長年大東地区で剣道スポーツ少年団の代表を務め、指導者として30年以上の経歴を持ち、自らも剣道を続けており、錬士7段の資格を持っている。実際の授業では、指導者が長年剣道を通して養ってきた剣道の精神や所作、基本的な動作について指導をしていただき、上手く動作ができない生徒には教師が補助的な指導を行った。基本的な動作を学ぶことができ、その後の発展的な学習に生かすことができた。

#### (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ① 地域の指導者の助言のもとに教材を作成し、剣道の知識・理解の向上を図った。
- ② 地域の指導者と連携することで計画立案、指導や評価などについて工夫できた。

#### (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ① 生徒の健康状態の把握、施設・設備の安全確保、安全を確保した指導形態や技能の程度に応じた段階的な指導などを行うように配慮した。
- ② 剣道の今後の指導を考慮し、基本動作を十分身につける時間を多く確保した。

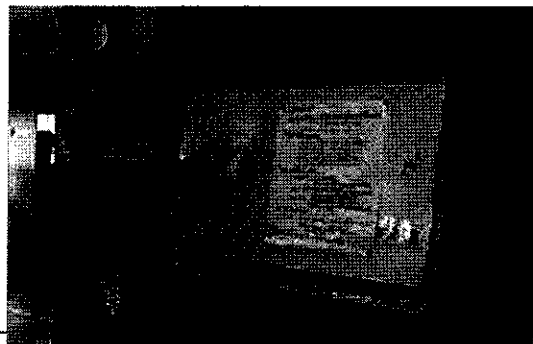
## ○事業成果と今後の課題

- 1 武道の精神を理解させるとともに相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする精神を身につける力を育てることができた。
- 2 指導経験が豊富な外部スポーツ人材と保健体育教員が連携・協力しながら、生徒一人一人の実態に応じた指導ができた。
- 3 一クラスあたりの総授業時数が短かったため、基本動作のみの指導になり、発展した内容には取り組むことができなかった。

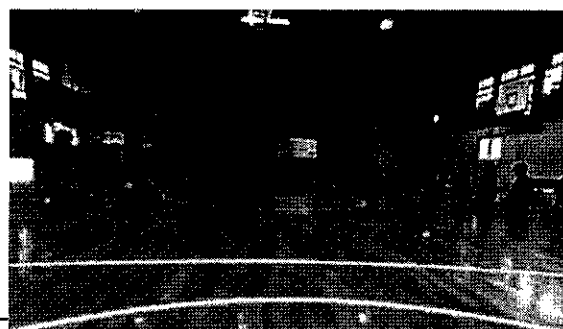
【様式4】2ページ目

○ 研究内容

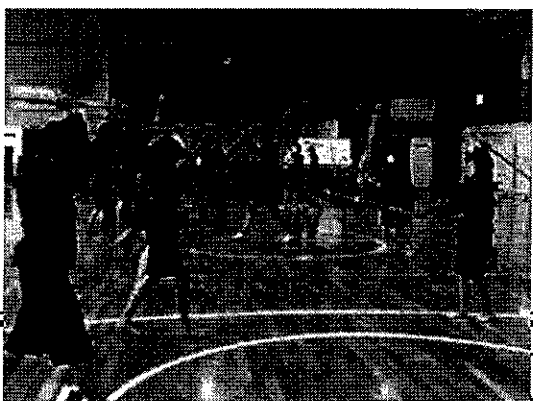
【剣道の理念】  
 剣道の理念や剣道修練の心構えについて講義を受けた。



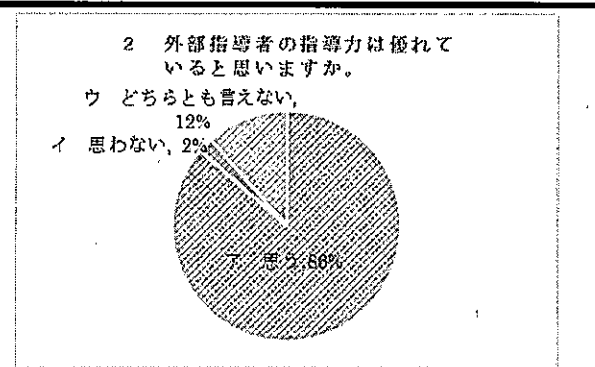
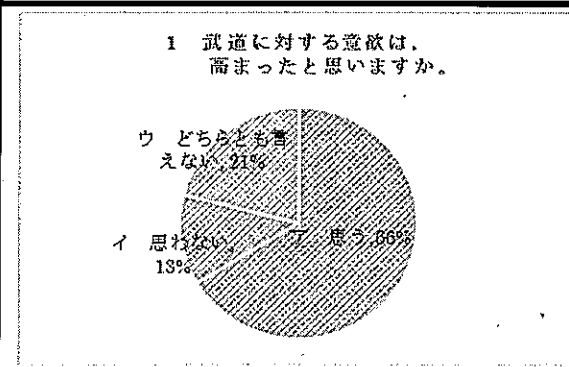
【礼法指導】  
 剣道の礼に始まり、礼に終わる、あいさつの仕方の練習。



【礼法指導】  
 基本動作、足さばきや中段の構えの練習。



【面打ちと小手うちの練習】  
 中段の構えから足さばきをしながら打ち方の練習。



【客観的な成果など】  
 生徒アンケートからの分析

- ① 外部指導者の専門的な指導によって、剣道競技に対する理解が深まり、関心を高めることができた。剣道競技の礼法を身に付けるとともに、授業に真剣に取り組む姿勢が見られた。
- ② 生徒の86%は、外部指導者は優れていると答えているように、懇切ていねいに初心者用に指導をしていただいたことがわかる。今後の授業では、礼法や基本動作をもとに、発展的な学習を行っていきたい。

地域の指導者と連携した授業

により、武道授業において、

生徒の意欲を高めた実践例

学校名 田村市立大越中学校（福島県）1学年

全校生徒数 129名（男子70名 女子59名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0247（79）3211

電子メールアドレス school@ogoe-j.fks.ed.jp

1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

3 研究の概要

- (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ① 剣道の基本（防具着装や礼儀作法）の習得に重きを置いて、楽しさを味わわせるようにする。
  - ② 近隣校から防具を借用して全員分用意し、少ない時数でも効率的な授業になるようにする。
  - ③ 授業の主体は体育教師とし、地域指導者には専門的な部分のサポートをお願いする。
- (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など
  - ① 授業の時期が11月という寒い時期の実施となるので、最初に5分間走を取り入れるなどして、体を十分に温めてから授業に入らせた。また、必要に応じて暖房も取り入れた。
  - ② 地域指導者主体のオリエンテーションを実施し、専門用語の解説も含めながら剣道についての理解が深まる授業を最初に設定した。
- (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - ① 体育館フロアの確認  
裸足での授業になるため、床板の割れ等がないかの確認を行う。
  - ② 竹刀の確認  
授業の始まりに各自が自分の竹刀にささくれがないかなどの確認を行う。

○事業成果と今後の課題

成果：地域指導者のサポートにより、教師だけでは指導できなかった剣道独特の礼儀作法の持つ意味や、技の習得のコツなどをわかりやすく指導していただくことで、生徒に剣道の持つ魅力を伝えることができた。

課題：地域指導者が農業に従事しており、農閑期である11月に剣道授業を実施した。そのため、体育館の床の冷たさから授業に前向きに取り組めない生徒もいたため、実施方法（足袋の着用）や実施時期について検討する必要がある。

○研究内容

【オリエンテーション】

地域指導者によるオリエンテーションと礼法指導



【協力しての防具装着】

一人でできない場合は友人と協力して防具を着ける



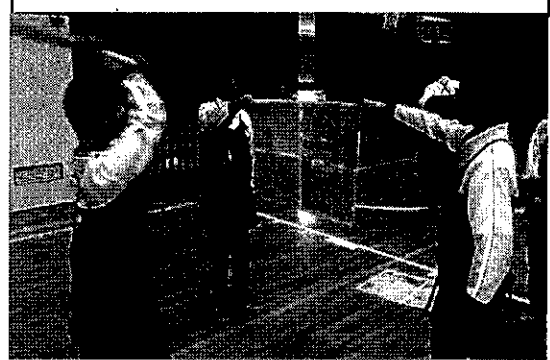
【防具の付け方】

初めての防具装着の様子



【竹刀の振り方の指導】

新聞紙を竹刀で切ることによって正しく振れているかを確認



【武道授業後の成果分析】 授業後の生徒アンケート結果と成果についての考察

生徒アンケート結果

○授業前と授業後で、剣道に対する意欲が高まったか。(37名回答)

・そう思う・・・26人    ・そう思わない・・・2人    ・どちらとも言えない・・・9人

○剣道の授業で楽しかったこと。

・初めて防具を着けたこと    ・竹刀を使って面打ちをしたこと    ・新聞を竹刀で切ったこと  
・竹刀で実際に打ち合ったこと    ・かけ声をかけて試合をしたこと

○剣道の授業で学んだこと。

・礼儀作法    ・防具の付け方    ・声を出すこと    ・あしさばき    ・剣道の伝統

成果分析

- ・導入を重視し、協力して防具を着けたり、新聞を竹刀で切る体験などを通して、剣道の魅力を理解させることができた。
- ・近隣の学校から不足分の防具を借りて、全員に防具が行きわたるようにしたので、効率よく授業を行うことができ、多くの生徒に剣道の楽しさを味わわせることができた。

【成果分析及び今後の取り組みの方向性について】

- ・武道についてどの体育教師も専門的な知識や技術を持つわけではない。本事業で、授業のサポートに地域の専門知識・技能を持つ指導者を招聘できたことにより、武道学習のねらいである「技ができる楽しさや喜び」を生徒たちが味わうことで、武道の持つ魅力に触れさせることができた。来年度も事業が継続する場合はぜひ活用したい。

## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、  
生徒の意欲を高めた実践例

学校名 田村市立都路中学校（福島県）1年

全校児童生徒数 51名（男子29名 女子22名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0247（75）2009

学校メールアドレス school@miyakoji-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① 授業前のアンケート結果について事前に講師と連絡し、授業の進め方について詳細に話し合ったので、スムーズに学習指導を行うことができた。
- ② 専門性の高い技能指導に関しては、地域の指導者の指導を中心に授業を実践した。保健体育科教員は、生徒への指示や準備、授業のコーディネートを中心に行い、生徒が安心して取り組めるように環境を整備した。

#### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ① 地域の指導員の専門性を活かし、生徒への学習内容も基礎的な部分から応用的な部分へと発展的に指導を行うことができた。
- ② 地域の指導員の助言のもとに教材・教具を工夫し、生徒の意欲喚起を促すことができた。

#### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ① 開始線の場所を工夫し、隣の生徒との接触がないように配慮した。
- ② 気温の低い時期の実施だったので、ストーブで体育館を暖めておき、事故防止に努めた。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 実際に専門的な技を間近で見たり触れたりすることで、生徒の武道への意欲喚起につながった。
- 2 基本的な技から、応用的な技まで幅広く、正確に生徒へ指導することができた。
- 3 専門的な指導法を実際に見ることで、教員の指導力向上に大変有効であった。

【様式4】2ページ目

○ 研究内容

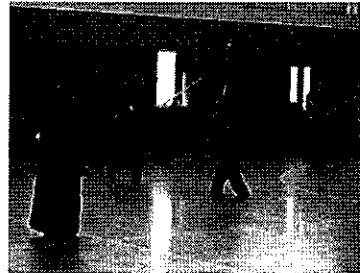
【指導者の模範指導】

外部指導者の模範指導により、基本的な構えや技などが視覚的に理解することが可能となった。



【試合形式による指導】

試合形式の指導により、基本的な構えや技の練習を行い、剣道の楽しさに触れることができた。



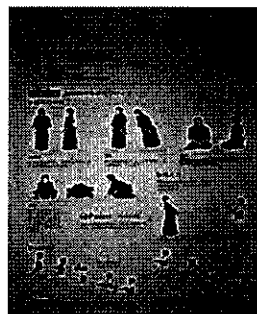
【安全確保のための工夫】

接触が起きないように隣との間を広く確保した。また、暖房で部屋を暖め、事故防止に努めた。



【参考写真を活用した指導】

体育館の壁面に基本動作の参考写真を掲示し、視覚的に理解しやすくすることができた。

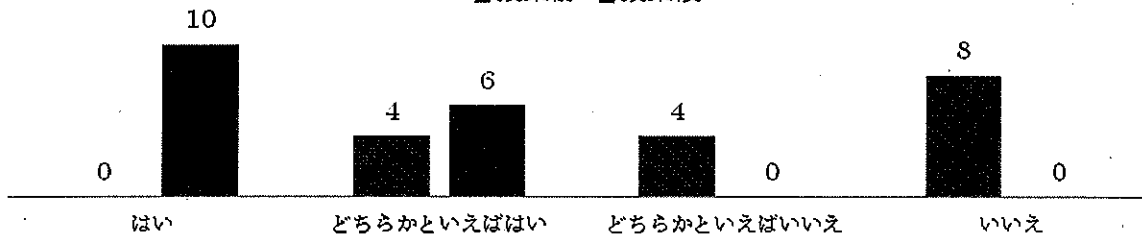


【アンケート結果】

武道に対する意欲について授業の前後比較

剣道の授業は楽しみか（授業前） 楽しかったか（授業後）

■ 授業前 ■ 授業後



【今後の取り組みについて】

事業の成果と課題

- 本事業の様に外部指導者の指導を受けることで、剣道の楽しさを味わうことができた。来年度においても、この事業等を活用しながら、生徒へ武道の楽しさを伝えるとともに、保健体育科教員の研修の場として活用していきたいと考える。

## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、武道への意欲を高めた実践例

学校名 田村立船引南中学校（福島県）2年

全校児童生徒数 93名（男子46名 女子47名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0247（85）2811

学校メールアドレス school@funehikiminami-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

専門性の高い技能指導に関しては、地域の指導者の指導を中心に授業を実践した。保健体育科教員は、生徒への指示や準備、授業のコーディネートを中心に行い、生徒が安心して取り組めるよう環境を整備した。

#### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ① 剣道部員をスモールティーチャーとして活用し、技能の習得に協力させるとともに、教え合いの場を設定し、経験者と未経験者双方の意欲喚起となるよう工夫した。
- ② 地域の指導者と本校剣道部員との稽古を実際に見る時間を単元計画内に設定することで、剣道に対する意欲喚起とともに、視覚的に技を理解させることが可能となった。
- ③ 指導者の専門性を生かし、審判法にも触れ、判定試合をより多く経験させることで、剣道に対する理解を深めたり、楽しさに触れさせたりすることが可能となった。

#### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

元立ちに剣道部員を活用し、生徒の技量差による事故やけがが起きないように配慮した。

## ○事業成果と今後の課題

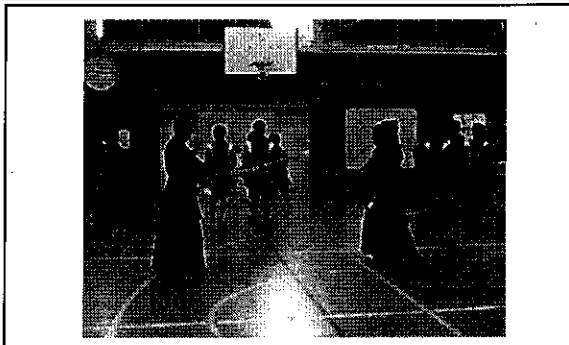
- 1 基本的な技から、応用的な技まで幅広く、正確に、生徒へ指導することが可能となった。
- 2 判定試合を設けることで、剣道の楽しさを実感させ、生徒の意欲喚起と、武道へ対する理解が深まった。
- 3 専門的な指導法を実際に見ることで、教員の指導力向上について非常に有効であった。



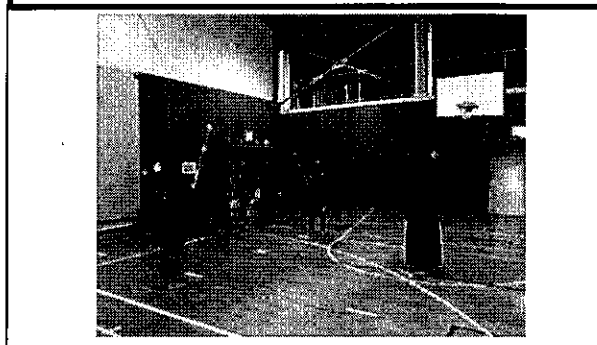
【様式4】2ページ目

○ 研究内容

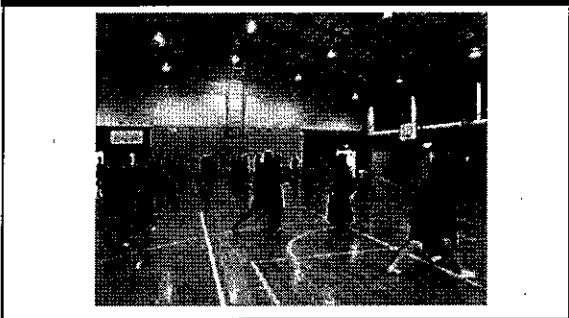
【指導者による模範指導】  
視覚的に、技能についての理解を深めた。



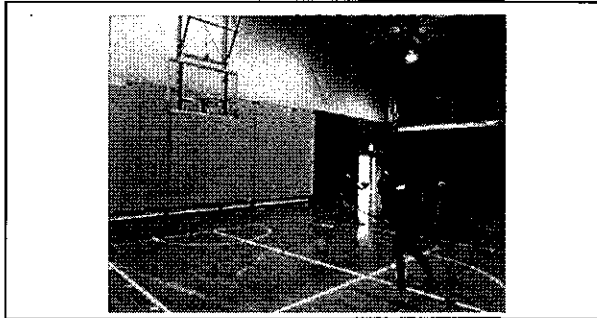
【生徒による判定試合】  
審判を経験することで、剣道への理解を深めた。



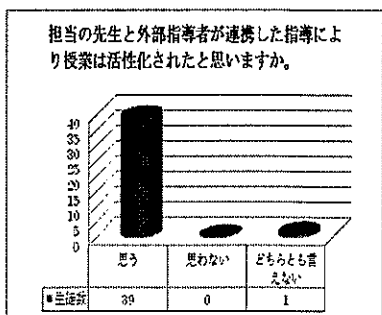
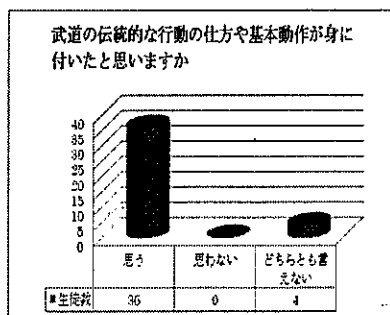
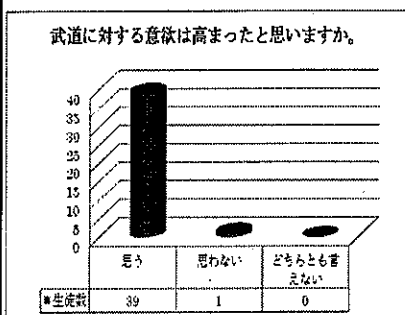
【剣道部員を活用した練習】  
元立ちに剣道部員を活用し、安全面に考慮した。



【バレーボールを活用した基本技能の習得】  
遊びを通して、正しい刃筋について理解を促した。



【授業後のアンケート結果】  
意欲の向上や基本動作の習得、授業の活性化が図られた



【今後の取り組みについて】  
事業の成果と有効性について

本事業の活用4年目であり、この事業の有効性を再確認することができた。また、剣道部員の活用や遊びを取り入れた指導法など、その年度の生徒の状況や発達段階について考慮した内容で指導していただいている。来年度も、この事業等を活用しながら、生徒へ武道の楽しさを伝えるとともに、保健体育科教員の研修の場として活用していきたい。

## 【別紙様式4】1 ページ目

### 地域の指導者による指導と試合形式 の練習で生徒の意欲を高めた事例

学校名 田村市立船引中学校（福島県）2年  
全校児童生徒数 496名（男子248名 女子248名）  
種目等 剣道（格技）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 0247（82）0102  
学校メールアドレス school@funehiki-j.fks.ed.jp

#### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

#### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

#### 3 研究の概要

##### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

・地域の指導者は、地元で剣道場を経営し剣道教士七段の方である。生徒の中には小学校の時から剣道場で指導を受けている生徒もいたので、授業においても、抵抗感無く受け入れられて進めることができた。講師の先生とは毎時間、事前の打合せを十分に行い、1単位時間のめあてを確認するとともに、習熟度別TTの授業形態で授業を進めることを確認した。

##### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

・授業においては技術的に上達している生徒には講師が、サポートを必要とする生徒には体育担当教師が入るなど、習熟度別TTの授業形態で進めた。その上で、授業の導入とまとめの時間には講師と担当教師が相互に指導することにより、生徒への意欲付けや本時のめあてを共通確認することができた。

##### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ① 生徒が使用する剣道の竹刀及び防具は学校備え付けとし、剣道の単元が始まる前に部活動の剣道部顧問と剣道部員の協力のもとに一斉点検を行った。
- ② 授業の開始前と授業後には、竹刀および防具の安全点検を徹底して行うとともに、健康状態を常に把握し安全に努めた。また、十分な活動場所を確保し、活動中の事故防止に努めた。

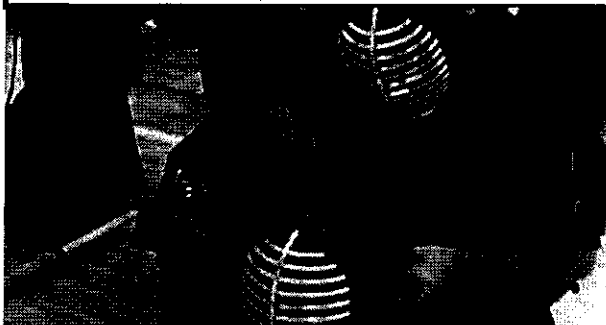
## ○事業成果と今後の課題

- 1 地域の指導者は、授業において毎時間、試合形式の内容を授業に取り入れた指導法を実践されたので、生徒も意欲的に剣道の授業に取り組めた。
- 2 剣道の技能習得には長期間の練習が必要となる。授業時数の確保や工夫が課題である。

【別紙様式4】2ページ

○ 研究内容

【全員の防具の装着の確認】竹刀の点検や防具の装着には、剣道部員が補助として活動する。



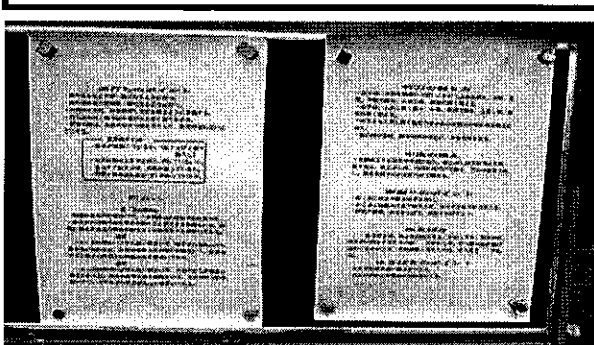
【剣道の基本技】中段の構えから技を出すタイミングと打ち込み方を教える。



【剣道の基本的な構えからの素振り】相手に隙を見せない剣道の基本的な構えからの素振りを班ごとに教える。



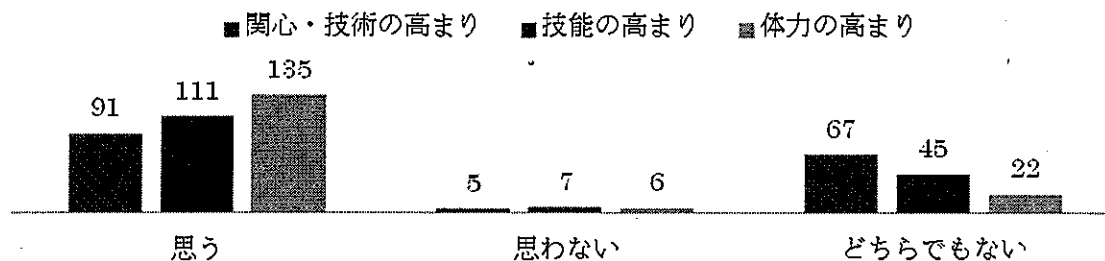
【竹刀の握り方、打突のポイントを提示】剣道が初心者の生徒に対しポイントを資料で提示し、振り返りに活用した。



【剣道の授業後のアンケート結果】

外部指導者の指導により剣道に対する関心・意欲や技能の高まりを実感している。

外部指導者による指導についてのアンケート



【剣道への学習意欲の高まりと礼儀作法】

外部指導者の指導により剣道の楽しさを実感し、思いやりの心が醸成された。

外部指導者により剣道の基本動作や打突を指導していただいた。個々の技能に応じたペアで対戦させることで、剣道のおもしろみを実感でき、アンケートにも技能の高まり、意欲の高まりが明確に表れている。剣道で相手を尊重する態度や、基本技の練習で相手の技を受けるなど、剣道で相手を思いやる姿勢は、今後の社会生活を営む上で必要である。剣道の学習を通して、通常の学校生活を見直し、落ち着いた生活態度が醸成されつつある。

## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、生徒の基本技術の習得と教員の指導力を高めた実践例

学校名 三春町立三春中学校（福島県）2年

全校児童生徒数 365名（男子194名 女子171名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0247（62）2181

学校メールアドレス school@miharu-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

授業の計画と推進を教員が行い、地域の指導者が技術的な説明や模範を行うよう分担して授業を進め、テーマに迫った。

#### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

事前打ち合わせ及び各授業後の打ち合わせの時間を十分に確保し、役割を確認した。

教員からの技術的な質問や指導上注意すべきことの打ち合わせの時間を十分に確保して進めた。

#### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

竹刀の点検を事前に行う等、剣道の特性上必要な用具の点検をして安全面に配慮した。

当日は生徒の健康状態の把握に気を配った。また、竹刀で防具以外の部分に打突された場合には、事後の観察を念入りに行った。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 地域の指導者からの専門性を生かした指導により、道具の取り扱いを含めた基礎的な技術を身に付けることができた。
- 2 打ち合わせを綿密に行ったことにより、1年生での学習を踏まえて、2年での応用的な技術の習得について、地域の指導者から学ぶことができた。
- 3 地域の指導者からの助言により、保健体育科教員の指導力が向上し、単元後半の指導に生かすことができた。

【様式4】2ページ目

○ 研究内容

【剣道に関する説明】

取り組む姿勢の確認



【道具の扱い】

道具の扱いの確認



【基礎的な技術習得の練習】

地域の指導者による技術習得の練習



【教員による技術指導】

地域の指導者から学んだ技術を授業に生かした。



【地域の指導者からの基礎的な技術習得の成果】

地域の指導者の専門性から、生徒が基礎的な技術の習得を図ることができた。

特に、1年で学んだ基本技から、応用技への移行など、昨年度剣道を学んでいる2年生にあった技術の習得ができた。

【教員の指導力の向上】

地域の指導者の方からの助言や指導により、保健体育科教員の指導力の向上につながった。単元後半では、助言を受けた事項をもとに単元を展開することができた。

2年生としての連続技や試合の指導などに非常に参考になった。

## 【様式4】1 ページ目

### 地域の指導者と連携した授業により、生徒の基本技術の習得と教員の指導力を高めた実践例

学校名 三春町立三春中学校（福島県）1年

全校児童生徒数 365名（男子194名、女子171名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0247（62）2181

学校メールアドレス school@miharu-j.fks.ed.jp

#### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

#### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

#### 3 研究の概要

- （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進  
授業の計画と推進を教員が行い、地域の指導者が技術的な説明や模範を行うよう分担して授業を進め、テーマに迫った。
- （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など  
事前打ち合わせ及び各授業後の打ち合わせの時間を十分に確保し、役割を確認した。  
教員からの技術的な質問や指導上注意すべきことの打ち合わせの時間を十分に確保して進めた。
- （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など  
竹刀の点検を事前に行う等、剣道の特性上必要な用具の点検をして安全面に配慮した。  
当日は生徒の健康状態の把握に気を配った。また、竹刀で防具以外の部分に打突された場合には、事後の観察を念入りに行った。

## ○事業成果と今後の課題

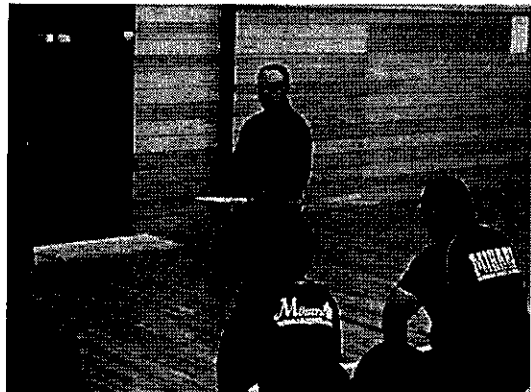
- 1 地域の指導者からの専門性を生かした指導により、道具の取り扱いを含めた基礎的な技術を身に付けることができた。
- 2 打ち合わせを綿密に行ったことにより、1年生として身に付けるべき基礎的な技術の習得について、地域の指導者から学ぶことができた。
- 3 地域の指導者からの助言により、保健体育科教員の指導力が向上し、単元後半の指導に生かすことができた。

【様式4】2ページ目

○ 研究内容

【剣道に関する説明】

取り組む姿勢の確認



【道具の扱い】

道具の扱いの確認



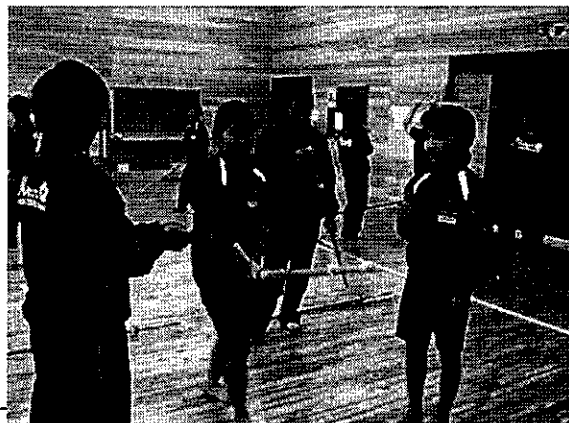
【基礎的な技術習得の練習】

地域の指導者による技術習得の練習



【教員による技術指導】

地域の指導者から学んだ技術を授業に生かした。



【地域の指導者からの基礎的な技術習得の成果】

地域の指導者の専門性から、生徒が基礎的な技術の習得を図ることができた。

特に、1年として身に付けるべき武道に対する考え方や基本的な技を効率よく習得することができた。

【教員の指導力の向上】

地域の指導者の方からの助言や指導により、保健体育科教員の指導力の向上につながった。単元後半では、助言を受けた事項をもとに単元を展開することができた。

1年生として、武道に対する考え方や基本的な技術の指導などに非常に参考になった。

## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者による授業で、柔道の専門性を生かした指導方法の工夫

学校名 西郷村立西郷第一中学校（福島県）1～3年  
全校児童生徒数 354名（男子186名 女子168名）  
種目等 武道（柔道）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 0248（25）2135  
学校メールアドレス school@nishigo-1j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進  
教員がT1で指導者がT2として、授業は指導者が進め、教員が補助をしながら授業を進めた。
- （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など  
教員と指導者で事前に会って、授業の進め方についての検討会を行った。
- （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など  
授業の導入部分で、柔道につながる体ほぐし運動を取り入れた。  
柔道部の生徒をスモールティーチャーとして活用した。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 実技指導において、アドバイスや解説が専門的なポイントを得ているため、わかりやすく、意欲の向上につながり、より専門的な指導が実践された。
- 2 指導者の方の手本を通して、視覚的に捉えることができ、講師の方の手本がとても参考になった。



## 【様式4】2ページ目

### ○ 研究内容

#### 【1年生の礼法指導】

指導者が礼法について、説明しながら指導



#### 【前回り受け身】

前回り受け身のポイントを説明しながら指導



#### 【膝車の指導】

立ち膝から膝車のかけかたについて指導



#### 【柔道部員の活用】

柔道部員をスモールティーチャーとして活用



#### 【アンケート結果】

授業終了後のアンケートでは9割近い生徒が、柔道の技能が高まったと感じている。

- |  |                        |
|--|------------------------|
| 質問1 「武道に対する意欲は、高まったと思いますか。」                  | (思う 340名)              |
| 質問2 「専門的な技能は、高まったと思いますか。」                    | (思う 335名・どちらとも言えない 5名) |
| 質問3 「武道の伝統的な行動の仕方や基本動作が身に付いたと思いますか。」         | (思う 340名)              |
| 質問4 「武道の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。」   | (思う 340名)              |
| 質問5 「外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思いますか。」       | (思う 340名)              |
| 質問6 「担当の先生と外部指導者が連携した指導により、授業は活性化されたと思いますか。」 | (思う 335名・どちらとも言えない 5名) |

#### 【今後の展開】

説明文：来年度も、柔道の指導者を活用し、専門的な指導を行っていききたいと思う。

柔道の授業を安全、かつ、楽しく実施することができた。1年生から3年生まで、効果的な授業の展開や段階的な指導のため、専門的な指導を取り入れながら継続的かつ計画的に技能が習得できるよう、来年度も地域スポーツ人材を活用していきたい。

## 【様式4】1ページ目

ダンス指導を通して、生徒の意欲を高めた実践例

学校名 西郷村立西郷第二中学校（福島県）全学年

全校生徒数 232名（男子115名 女子117名）

種目等 ダンス

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0248（25）2050

学校メールアドレス school@nishigo2-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）地域の優秀な外部スポーツ人材を、より専門性の高い運動部活動の指導者として招聘し、生徒の技能と体力・運動能力の向上を図るとともに、生涯を通じて運動に親しむ資質や能力を育てる。
- （2）指導経験が豊富な外部スポーツ人材と当該部活動顧問が連携・協力しながら、現代的なリズムのダンスの基本的な技能を学ばせ、ダンスの楽しさを味わわせる指導の在り方を探る。

### 2 研究の取組体制

- （1）福島県の事業を活用し、ダンスの指導者を派遣していただく手配を行った。
- （2）保健体育の授業で、学年ごとに指導を受けられる体制を整備した。

### 3 研究の概要

#### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① 公益社団法人 日本3B体操協会公認指導員の外山聖子さんに授業内容の指導をいただいた。

#### （2）現代的なリズムのダンスの指導の工夫

- ① 外部からの指導者を招き、保健体育科の授業として指導いただいた。
- ② 生徒の現状やダンスの嗜好について保健体育科担当教員と指導者で打ち合わせを行い、生徒が手軽に楽しめる内容について検討した。また、ある程度の難易度を持たせて楽しみながら達成感を味わわせるように内容を工夫してもらった。

#### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ① 活動場所に行動を確保し、活動に十分な広さを用意した。
- ② 通常の授業と同様の準備運動と健康観察を実施した。

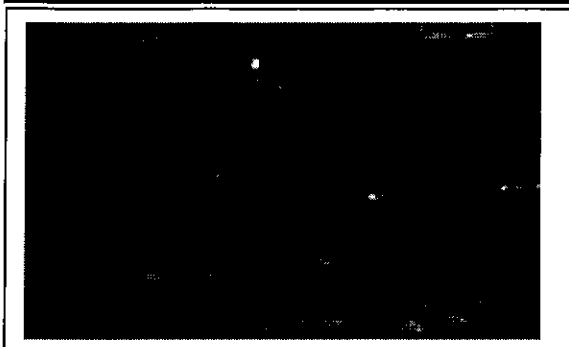
## ○事業成果と今後の課題

- 1 地域の優秀な外部スポーツ人材として、ダンスの指導者を招聘し、生徒の技能と体力・運動能力の向上を図るとともに、生涯を通じて運動に親しむ資質や能力を育てることができた。
- 2 ダンスの指導経験が豊富な外部指導者と保健体育科の教師が連携をし、現代的なリズムのダンスの基本的な技能を学ばせ、ダンスの楽しさを味わわせることができた。
- 3 身体を動かすことが苦手な生徒に対して、音楽を流しながら身体を動かすことの楽しさを経験させることができた。
- 4 年間計画に毎年位置づけ、同じ時期に行えるようにしていくことが課題である

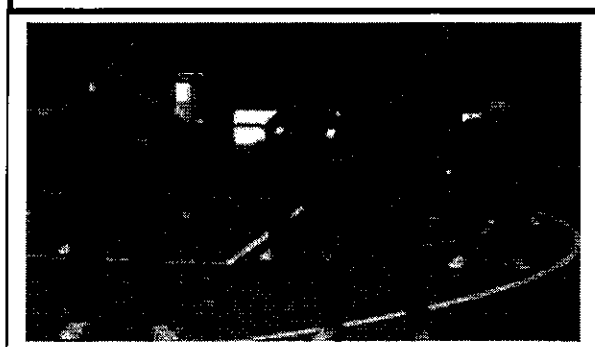
【様式4】2ページ目

○ 研究内容

【ダンスの授業】  
学年全体で3B体操を行っている様子



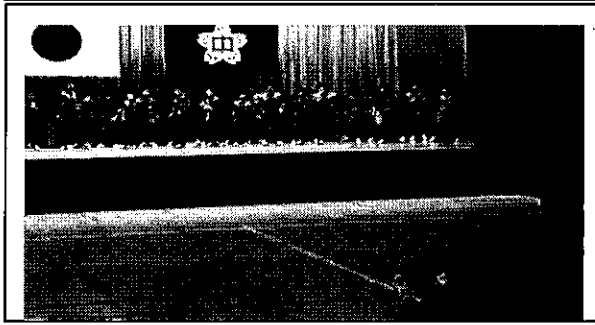
【ダンスの授業】  
音楽に合わせて身体を動かしている様子



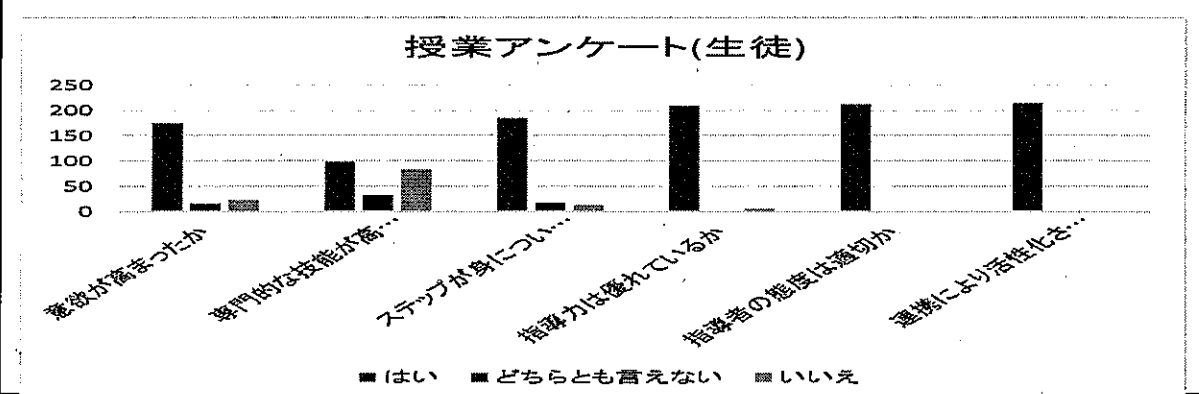
【安全確保】  
隣同士でぶつからないように間隔を開けて実施している



【覚えた振り付けの発表】  
覚えた振り付けを互いに発表し合う



【ダンス授業アンケート】  
ほとんどの生徒が授業が活性化すると答えている。



【今年度の成果】

3B体操協会から派遣された指導者の方は昨年度と同じ指導者の方で、1年前の経験を生かして更に本校の生徒にあたりズムダンスを考えてきてくれた。そのため、生徒は身体を動かす楽しさを体験することができた。保健体育科の京都との連携も上手いき、来年度も実施していきたいと考えている。

## 【様式4】1 ページ目

専門的知識・技能を備えた指導者と連携した授業の推進により、生徒の意欲を高め技能の向上を図る実践例

学校名 西郷村立川谷中学校（福島県）1～3年

全校児童生徒数 23名（男子14名 女子9名）

種目等 保健体育（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0248（25）0066

学校メールアドレス school@kawatani-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

指導者の方に各学年の技術のレベルにあった授業を展開してもらった。その中で、教員は生徒の取り組みを確認し、技術の遅れがちな生徒への補佐的指導を行った。

#### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ・技術習得の段階を踏んで、学年に応じた授業を展開することができた。3年生においては、基本動作から応用動作を生かした技が習得できた。
- ・はじめて剣道の授業を受ける1年生は、礼法をはじめ基本動作と基本技を重点的に行った。3年生と合同での授業であったため、学びの機会もあり、技能等の習得も早くなった。2年生は振り返りとともに教え合うことで、自分の技能も磨くことができた。

#### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ・授業の始まりと終わりで、健康観察及びけがの有無を確認した。
- ・授業は素足で行うのでフロアに物が落ちていないか毎時確認し、授業を進めた。

## ○事業成果と今後の課題

「専門的知識・技能をもった指導者による授業展開」

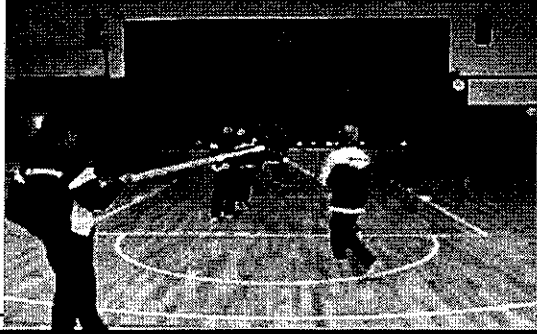
- 専門的知識・技能をもつ指導者の授業を受けることにより、剣道の持つ特性や必要な動きの習得を早めることができた。
- 生徒の興味関心を高め、日本古来のスポーツの良さを体得することができた。
- 専門的指導者の方と授業することで、教師側も知識や技能を高めることができた。
- 下位の生徒は、竹刀の振り方や足さばきについての具体的な動き等を理解することが難しい。視聴覚教材を利用するなどの工夫が必要。

【様式4】2ページ目

○ 研究内容

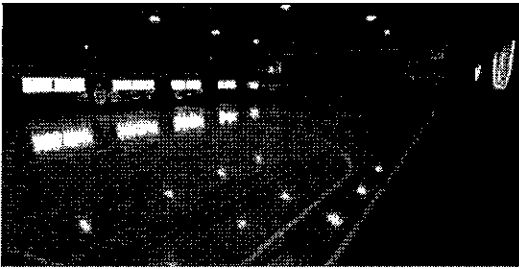
【約束重視の基本練習】

教士による構えからの踏み込み



【十分なスペースと授業】

生徒数から十分すぎる授業会場



【教えから実践へ】

真剣に同打ちの練習をする生徒



【モデル相手の基礎練習】

習得技術をモデル相手に試す生徒



【初心者でも急成長】

たくましく活動の中心としての活躍

- 質問1 「武道に対する意欲は、高まったと思いますか。」 (思う18名・どちらとも言えない3名)
- 質問2 「専門的な技能は、高まったと思いますか。」 (思う21名)
- 質問3 「武道の伝統的な行動の仕方や基本動作が身に付いたと思いますか。」 (思う19名・思わない1名・どちらとも言えない1名)
- 質問4 「武道の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。」 (思う19名・思わない1名・どちらとも言えない1名)
- 質問5 「外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思いますか。」 (思う20名・どちらとも言えない1名)
- 質問6 「担当の先生と外部指導者が連携した指導により、授業は活性化されたと思いますか。」 (思う20名・どちらとも言えない1名)

【伝統重視と継続】

本校における剣道文化の意義

- 本校では、武道選択として「剣道」を選択している。地域へも浸透し、今後も継続していきたいと願っている。
- 授業を行う中で、知識・技能面においても専門的な技術が求められ、人材確保という点での課題が残されている。
- 本事業により、その克服に至ったことは、最大の喜びであり、地域の文化を維持・発展させる上でも大変意義深い内容の取り組みであったと思う。

## 【様式4】 1 ページ目

地域の指導者による専門的な授業実践により、生徒への武道精神の育成と技能の向上を図った実践例

学校名 会津若松市立第二中学校（福島県）第1・2学年  
全校生徒数 314名（男子170名 女子144名）  
学年生徒数 第1学年 92名（男子58名 女子34名）  
第2学年 119名（男子60名 女子59名）  
種 目 武道（なぎなた）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 0242（27）0715  
学校メールアドレス school@aizuwakamatsu2-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

地元組織である会津なぎなた連盟に指導者の派遣を依頼し、大変優れた指導者を招聘することができた。その方は地元はもとより、全日本連盟の役員として国内外で活躍されている日本でも屈指の指導者である。

#### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

該当学年の授業において、地域の指導者による授業と保健体育科教員による授業を交互に行うように設定した。つまり、地域の指導者による授業実践の場合は、保健体育科教員は補佐的役割として、地域の指導者の助言を十分に理解していない生徒への個別支援や指導、用具関係の配付や安全への配慮を担った。また、保健体育科教員のみによる授業では、前時を基盤にして技能や知識の定着を図る授業を展開した。

#### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

授業開始前に必要ななぎなたを10本ずつまとめて間隔を開けて配し、なぎなたの收受や返却の際の事故防止に配慮した。また、一斉指導を基本にしながらも、安全に留意した活動場所の確保のためにグループ活動も取り入れ、生徒相互に自他の安全に留意し、相手を尊重する態度を育成できるようにした。

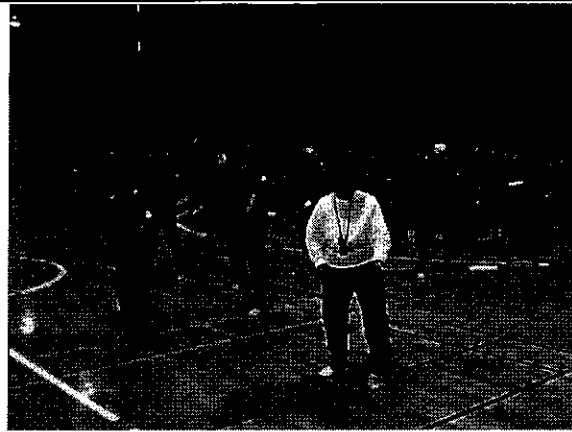
## ○事業成果と今後の課題

- 1 日本固有の文化である武道を学ぶことで、学校生活や家庭生活でも具体的な指導が見られなくなってきた礼法について具体的に学習し、その所作を身に付け自他を尊重する態度を育成することができた。具体的には、はだしになること、正座をすること、礼を合わせることなど、武道では当たり前のことであるが、日常生活にあまりないことを経験することが貴重な学習といえる。
- 2 技能の習得ばかりでなく、歴史的な変遷や技の成り立ちをはじめ、なぎなたの活動をとおして会津の武士道精神や人としてあるべき姿を示していただくことができた。
- 3 保健体育科教員と地域の指導者が授業を交互に行うことで、教員自身の武道に対する基本的な考え方が身に付くとともに、技能の向上など指導者としての資質の向上を図ることができた。

○ 研究内容

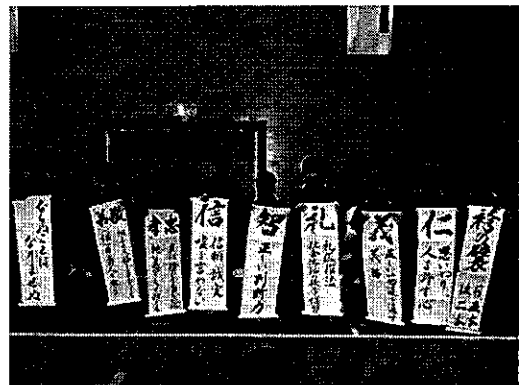
【基本の構えを教わる様子】

先生が模範を示し、同じように生徒も構えをまねる。転ばぬように、ジャージの裾をまくって練習に臨む生徒。



【会津の武道精神の醸成】

なぎなたを通して人としてあるべき姿や望ましい人間像を提示していただいた。



【生徒一人一本のなぎなたを使用】

会津なぎなた連盟から60本を借用して授業の展開し、全員が積極的に活動することができた。



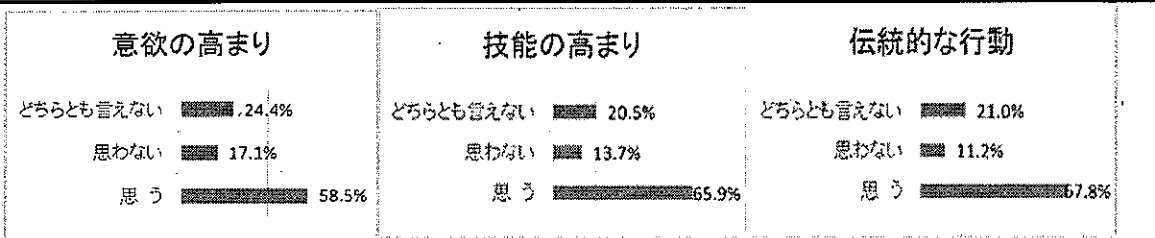
【手引きを活用しての学習資料】

『楽しいなぎなたの授業 指導の手引』[(財)全日本なぎなた連盟発行]を活用した学習資料の活用



【アンケート集計結果】

外部指導者との連携により、武道への意欲や技能の高まり、そして伝統的な行動や基本動作が身についたという回答が多かった。



【今後の取り組みへの方向性】

外部指導者との連携により、「武道」を学習する意義をさらに高めていきたい。

なぎなたの授業を始めて4年目が終了した。地域に密接な関係のある「なぎなた」を学習することで、地域の歴史に触れることができた。日常生活で忘れかけている「武道精神」を考え直すよい機会にもなった。

また、技能面では、担当教員も少しずつ身に付けたことが増えてきたため、簡単な「形」の指導（1本目、2本目）は単独でもなんとか指導できるようになってきた。

指導時間数が限られているのと防具がないという条件のため、対戦する授業（試合）の展開までは至っていない。はじめてなぎなたを学習する1年生はともかく、2年目である2年生の男子などでは、「形」の学習だけでは物足りない感じが伺われる。諸条件がクリアされていけば、武道の醍醐味である相手との攻防（試合）の楽しさも学習させられると思われる。

## 【様式4】 1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲を高めた実践例

学校名 会津若松市立第三中学校（福島県） 1年  
全校児童生徒数 415名（男子213名 女子202名）  
種目等 ダンス（創作ダンス）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 0242（27）0994  
学校メールアドレス

school@aizuwakamatsu3-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) ダンスの指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① 県による「地域スポーツ人材の活用実践支援事業に係る派遣指導者リスト」により、地域の指導者を確保した。高校の教員（保体）としての勤務実績があり、自らもダンススタジオを主宰し、作品発表を行うなど意欲的に活動している。
- ② ダンス指導の内容や授業計画については、教員が地域の指導者の助言を受けながら協同で検討し計画した。
- ③ 出席確認、健康観察、授業の計画や学習内容の説明など全体的な指導は教員が行った。
- ④ 具体的なダンス指導については、地域の指導者が中心となって行い、教員は生徒の支援や個別指導、評価などを行った。

#### (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ① 基本となるステップの段階からグループで取り組ませ、仲間と一緒にステップを習得したり、作品を完成させたりする喜びを味わわせる。
- ② 生徒の発想に地域の指導者が専門的な助言を与え、具体的な作品づくりを進めた。

#### (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ① 授業の始めと終わりに健康状態の把握を十分に行うとともに、ストレッチを中心とした準備運動を念入りに行った。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 専門的な指導を間近で見ることにより教員の指導力の向上が図られた。今後は、連携のタイミングや場面工夫など、より効果的な連携のあり方を考え、授業改善を図っていくことが必要である。



## 【様式4】2 ページ目

### ○ 研究内容

#### 【準備運動（ウォーミングアップ）】

ストレッチを中心とした準備運動



#### 【グループ練習①】

指導者と一緒に「ひと流れの動き」の確認



#### 【オリエンテーション】

授業の流れや注意事項、心構え等の説明



#### 【グループ練習②】

グループ独自の動きや隊形の工夫



#### 【生徒のダンスに対する興味の変化】

授業前アンケートでは、ダンスに興味を持っている生徒が1割程度であったが、授業後は4割へと増加した。

□ダンスに興味はありますか。(ダンス授業前)

○ある・どちらかといえばある(12%)      ○ない・どちらかといえばない(88%)

□ダンスに興味を持ちましたか(外部指導者によるダンス授業後)

○持った・どちらかといえば持った(40%)      ○持たない・どちらかといえば持たない(60%)

#### 【研究のまとめ】

本事業を終えて反省と今後の方向性について

本事業により、ダンスに対する生徒たちの興味・関心や技能、さらには教員の指導力向上に大きな成果を上げることができた。今後も生徒たちが生き生きと輝く授業の創造に向けて、授業の充実や教員の指導力向上への積極的な手立てを工夫していきたい。

## 保健体育の授業（剣道）における 地域スポーツ人材の活用のあり方

学校名 喜多方市立第二中学校（福島県）1.2年

全校生徒数 341名（男子172名 女子169名）

種目 武道（剣道）

電話番号 0241（22）0799

学校メールアドレス school@kitakata2-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い、武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の経験の浅い教師が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

外部指導者は、剣道七段の腕前で、県や会津の剣道連盟の理事、さらには市の理事長を務めるなどの人材である。また、数年前まで、高校教員として、剣道の授業や部活動を第一線で教えていた極めて優れた指導者である。縁あって、3年前よりこの制度を利用し、指導をいただいている。丁寧で分かりやすい指導で、指導者自身も中学生の授業を楽しみにしている。授業においては、外部指導者が、T1、本校教員がT2として指導を行っている。

#### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点

- ① 勤務する時間数が限られ、1.2年生、計8クラスの男女共習の授業を担当するため、1クラスあたり2時間程度の指導機会である。例年、剣道の歴史、礼法、素振り、防具の着脱中心の学習で、防具を身につけての打突の時数が不足するため、今年度は、特に2年生では、稽古や試合など、剣道の醍醐味を体験できるよう計画した。
- ② 授業では、ねらい、特性、学び方や基礎・基本を整理・板書し、外部指導者をサポートできるような心がけた。必要に応じて、大切な用語を書き加えた。
- ③ 指導は、外部講師を中心に進め、体育担当は、全体の流れを見ながら個別指導を中心にサポートした。また、習得しきれなかった内容を引き継ぎ指導に生かした。

#### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫したこと

- ① オリエンテーションや毎時間の授業において、健康観察、服装、竹刀の安全確認、打突部位の確認、準備運動の内容などを行った。
- ② 2人組で練習する場面が多く、特に、後ろに下がった者どうしの衝突に気がつけた。また、防具を身につけると視野が狭くなり、声や音も聞き取りにくくなるので、左右前後でぶつからないようにするため、一斉指導をしたり、目印になる線を決めたりして練習させた。

## ○事業成果と今後の課題

- 木刀などの実物による説明、防具の着脱時の説明など、日本や剣道の伝統・文化、歴史、礼法について、より専門的に学習することができた。
- 面打ちを中心とした打突の師範では、見事な踏み込みと美しい太刀筋で、気・剣・体の一致についてイメージが焼き付けられた。また、2年生では、「三殺法」「限定稽古」はじめ、剣道本来の楽しさや醍醐味を体験することができた。
- 4年目であるので、外部指導者のサポートをよりスムーズに行うことができた。また、習得し切れなかった部分を引き継いで指導できた。
- 授業時数や外部指導者が担当できる時数が少なく、剣道の本来の楽しさや醍醐味を十分体験したり、習得したりするまでは至らなかった。（仕方がないことではあるが）学習内容や講師にお願いする部分をもう一度整理したい。

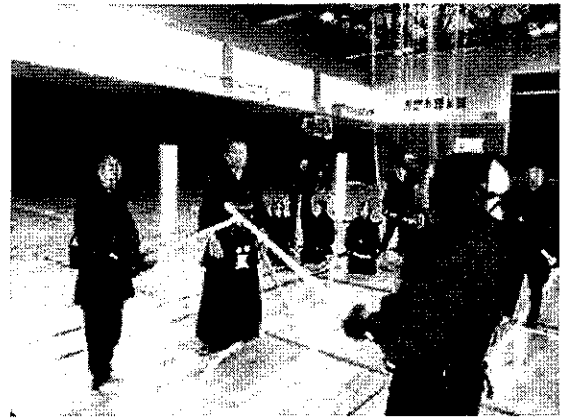
**防具の着脱とその礼法を学ぶ**

防具の着脱と防具の置き方、さらには物見の位置の説明はじめ、専門的に学習できた。



**防具を身につけての打突**

打ち方と打たせ方を代表者に師範させながら説明をし、稽古に生かした。



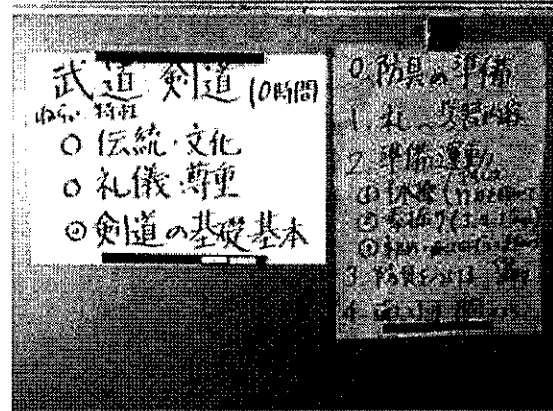
**安全確保のための配慮**

バスケのサイドと制限区域のラインに向かい合い、男女がぶつからないよう工夫した。



**板書の工夫の例**

学習のねらい、学び方、基礎・基本となるキーワードをまとめ板書した。



**事後のアンケート (各質問に思う・思わない・どちらとも言えないより選択)**

※ %は思うと答えた割合。(1. 2年男女230名回収)

	全体	1年男	2年男	1年女	2年女
1 意欲は、高まったか。	60.4%	48%	64%	55%	71%
2 技能は高まったか。	61.7%	55%	68%	57%	65%
3 伝統的行動、基本動作は身についたか。	70.4%	61%	74%	64%	81%
4 指導力は優れていたか。	76.5%	64%	81%	70%	88%
5 言葉づかい・態度は適切であったか。	80.4%	69%	80%	81%	90%
6 授業は活性化されたか。	69.1%	66%	68%	66%	75%

・事後のアンケートでは、特に1～3の項目で昨年を上回った。また、2年生の数値が、昨年度の2年生と比較してかなり高く、1年次の数値からさらにアップするなどの傾向が見られた。ゆえに、全体として、昨年よりも充実感のある授業であったと考えられる。

・4. 5の項目は、かなり高い数値であり、「思わない」と回答した生徒は、ほとんど見られなかった。ゆえに、講師の方は、生徒からの評価や信頼も高いと推測される。

**本事業終了後の取組の方向性と内容**

・4年目でもあり、外部指導者の指導の仕方も概ね理解でき、T2としての関わり方も見えてきた。また、専門的に直接指導いただいたり、指導法を教師が共有したりことにより、授業や指導力のレベルアップが図られた。次年度も、ぜひ、できれば時数を増やしお願ひしたい。

## 【様式4】1ページ目

本物から学ぶ「剣道の基礎基本」

(併せて、指導者の資質向上を目指す)

学校名 喜多方市立塩川中学校(福島県)2年

全校児童生徒数 268名(男子143名 女子125名)

種目等 武道(剣道)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号 0241(27)2101

学校メールアドレス school@shiokawa-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進  
講師と連絡を密にし、指導計画をもとに基礎的な内容を中心とした実践を行う。
  - ① 事前に打ち合わせを行い、担当教員が作成した単元の目標や指導内容を配布し確認する。
  - ② 授業では、常に模範を示してもらい、できていない生徒やうまく理解できていない状況を担当教員が見て、再度説明や模範をしてもらえ流れを作る。
- (2) 短時間で効果的な指導をいただくために、基本の技を繰り返し取り組む。
  - ① 剣道経験者がいないため、基礎基本を中心に行う。その中でも防具を積極的に着用し、直接打つこと、受けることを繰り返し、剣道のおもしろさを味わわせる機会とする。
  - ② 後半には試合を実践し、緊張感のある取り組みを行う。
- (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など  
体育館で練習を行うため、床の状況やジャージの裾について繰り返し点検を行う。  
防具や竹刀も、同時期に4クラスで使用するため各自の点検を徹底させる。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 長年剣道の指導を行っている講師の動きや話から、武道の特性を理解し、興味を持って取り組む生徒が多かった。基礎から試合まで短時間であったが、基礎的な内容はしっかりと身につけることができた。
- 2 担当教師も基礎的な内容を身につけることができた。他学年の授業を行うことにより、授業の流れ、生徒同士の関わりについても考えることができ、指導に活かす力を身につけることができた。
- 3 剣道のおもしろさを実感し、またやりたい、剣道部はできないのかとの声もあり、地域で活動しているスポーツ少年団との連携も図っていきたい。

## 【様式4】2ページ目

### ○ 研究内容

#### 【専門の目で見守る】

生徒の活動を見守り、精神的な部分を重んじた指導



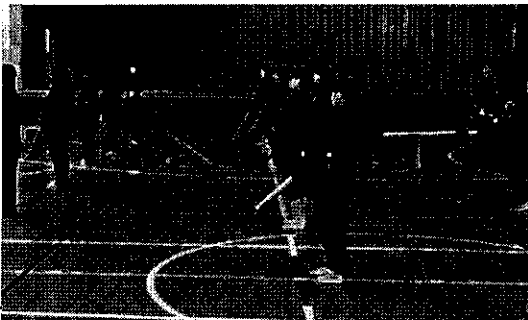
#### 【師範】

先生の姿を模範とし、美しい剣道を目指す



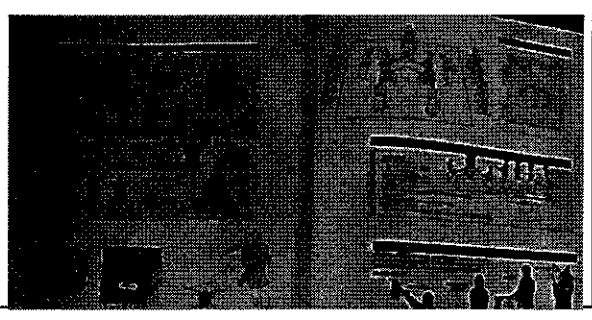
#### 【練習場の確認】

体育館で、裸足での活動が安全に行われるよう安全確認



#### 【見開き1ページ】

基本内容を見やすく集約し、互いに確認しながら活動

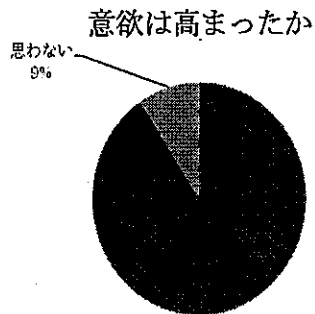


#### 【授業を通しての生徒の変化】

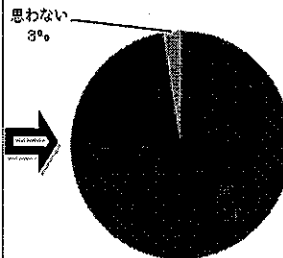
アンケート結果による生徒の変化

2年生女子に対する2年目の実施であった。

アンケートの結果、授業後に意欲が高まったと答えた生徒が多くなった。授業後に楽しかったとつぶやく生徒も多く見られた。



意欲は高まったか



防具を着けて本格的に1対1で打突を狙い、声を出して動くことにより、充実感を得られたようであった。部活でも剣道をやりたいとの声もあり、スポ少との連携を図っていきたい。

#### 【再スタート】

次年度は男女共習の1年生のご指導をいただく

次年度は1年生の指導をいただく予定で、男女共習で行う。これまでは別習を基本として授業を進めてきたが、基礎基本の学習を男女差なく行っていく。地域で小学生の指導や地区の体育協会に所属している地元の方に指導をいただくことで、さまざまな視点で生徒を見ていただくことで中1ギャップを解消したいと考える。また、武道については経験している生徒も少ないため、スポーツ少年団や地域との連携を築く良いきっかけとなることを期待している。

## 【様式4】1 ページ目

保健体育の授業における地域スポーツ人材活用の実践例

学校名 喜多方市立山都中学校 (福島県) 全学年

全校児童生徒数 65名 (男子34名 女子31名)

種目等 武道 (剣道)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号 0241-38-2307

学校メールアドレス

school@yamato-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

外部指導者は地域のスポーツ少年団の指導者であり、中体連等でも審判を務め、学校教育に大変協力的である。数年間、本校の生徒を指導しているため、生徒の実態を理解して指導をしていただくことができる。T・Tの形態で授業を行い、指導者には基本技能と生徒の実態に合わせた応用技能の全体指導をしていただき、教員は個別指導を行うこととした。

#### (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ① 学習の導入段階で日本剣道形を4時間行い、剣道の基本的な行動様式や技能を指導した。
- ② 班別学習を主体にして、剣道部員をスモールティーチャー (S・T) として位置づけ、生徒たちで授業を作り上げるようにした。

#### (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ① 教員と外部指導者の立つ位置を常に対角にして安全と技能の両面から指導できるようにした。
- ② 2人で施設や用具等の安全点検を行い、生徒の技能に応じて基本技能から応用技能までの個別指導をしながら、生徒の間隔に配慮するなど学習環境に配慮した。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 剣道の具体的かつ専門的な知識に裏付けられた指導により、生徒たちは意欲的に学習を行い技能や知識を向上させるだけでなく、日本の伝統的な行動様式を確実に身につけることができた。
- 2 外部指導者とS・Tの呼吸の合った模範演技で具体的な動きが分かり、充実した授業となった。

【様式4】2ページ目

○ 研究内容

【素振り練習】  
見本を見せながら生徒と一緒に素振りの仕方の指導



【防具の着脱の指導】  
防具の着脱の仕方の指導



【木刀での全体指導】  
日本剣道形1本目の打ち太刀の具体的な指導



【S・Tとの模範演技】  
木刀を使って日本剣道形の模範演技



【アンケート結果】

学年を迫ることにアンケートの数値が上がる傾向にあり、剣道への関心や技能の向上がうかがえる。

	1年生	2年生	3年生
武道に対する意欲は高まったか。	69%	79%	83%
専門的な技能が高まったか。	69%	79%	89%
武道の伝統的な行動の仕方や基本動作が身についたか。	75%	86%	94%
武道の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れているか。	88%	93%	94%
外部指導者の言葉遣い・態度は指導者として適切か。	88%	97%	100%
担当の先生と外部指導者が連携した指導により、授業は活性化されたか。	81%	97%	100%

【今後の方向性や内容】

外部指導者に教えていただいたことを生かして、日本剣道形や試合形式の授業を取り入れていく。

外部指導者の模範演技で、日本剣道形を1～5本目まで指導してきたが、今後も形の学習を進めていきたい。1年生は1、2、4本目を2年生は、1、2、4、5本目を3年生は1～5本目をしっかりできるように指導していく。また、今後は団体戦や個人戦の試合形式の授業を展開していく考えである。審判の生徒の手でできるように支援していきたいと考えている。

## 【別紙様式4】1ページ目

地域の指導者による授業で  
技能・意欲を高める

学校名 喜多方市立高郷中学校（福島県）1, 2年  
全校生徒数 21名（男子9名 女子12名）  
種目等 剣道  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 0241（44）2162  
学校メールアドレス school@takasato-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

武道（剣道）が盛んな地域であるので、より専門的な技能を有する地域スポーツ人材を中学校の武道の授業へ派遣してもらい、教員と連携を図りながら、安全を確保しつつ、武道に関する指導の一層の充実を図る。

### 2 研究の取組体制

（1） 武道等指導推進連絡会を設置し、指導者の効果的な派遣について、検討及び事業成果の検証等を行う。

① 構成メンバーは、校長、保健体育教員、学校評議員とする。

② 活用システム検討連絡会2回、福島県教育委員会主催の派遣指導者研修会1回

（2） 地域の指導者と保健体育科教員との連絡

① 単元が始まる前に、地域の指導者とともに指導計画立案に向けた検討会を開き、効果的な指導が実践できるように話し合いをする。

### 3 研究の概要

（1） 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

① 教育委員会の人材バンクで、西会津町の剣道指導者を選び、協力をお願いした。

② 剣道五段。派遣指導者研修会を受講。

③ 地域の指導者に武道（剣道）についての基礎・基本を指導してもらい、そのサポート、さらには基礎・基本をもとに発展的な指導を行う。

（2） 剣道の指導の工夫

① 教員が実技講習会で習得した内容や地域の指導員から学んだ指導方法をいかし、生徒の技術向上を図る。

② 地域の指導員の助言のもとに指導内容・方法を工夫する。

（3） 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

① 地域の指導員が入る前に、生徒の健康状態を把握するとともに、施設・設備の安全を確認する。

## ○成果と課題

1 次ページのアンケートからもわかるように、地域の指導員に授業で指導してもらうことによって、生徒も教員も大いに満足している。意欲・関心の高まりはもちろん技術の向上も見られ、生徒たちの達成感も高いものになっている。

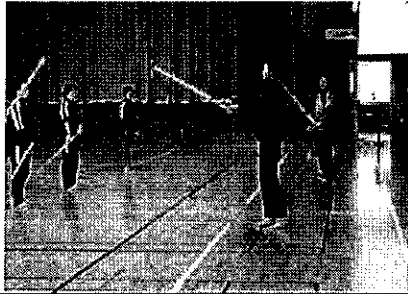
2 地域の指導者の健康、仕事の都合で、武道の授業の実施時期が限られてくる。お互いに連絡を密にして計画を立てる必要がある。



【別紙様式 4】 2 ページ目

○ 研究内容

【授業の風景①】  
生徒に基本動作を教える地域の指導者



【授業の風景②】  
試合形式で指導する地域の指導者



【アンケート結果】

生徒と教員に採ったアンケートの結果は次の通りである。

【生徒アンケート】

- ① 武道・ダンスに対する関心・意欲は高まったと思いますか。
- |           |     |      |    |
|-----------|-----|------|----|
| 思う        | 91% | 思わない | 0% |
| どちらとも言えない | 9%  |      |    |
- ② 専門的な技能は高まったと思いますか。
- |           |     |      |    |
|-----------|-----|------|----|
| 思う        | 86% | 思わない | 0% |
| どちらとも言えない | 14% |      |    |
- ③ 武道の伝統的な行動の仕方や基本動作、ダンスのステップや動きが身についたと思いますか。
- |           |     |      |    |
|-----------|-----|------|----|
| 思う        | 95% | 思わない | 0% |
| どちらとも言えない | 5%  |      |    |
- ④ 武道・ダンスの専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。
- |           |      |      |    |
|-----------|------|------|----|
| 思う        | 100% | 思わない | 0% |
| どちらとも言えない | 0%   |      |    |
- ⑤ 外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思いますか。
- |           |      |      |    |
|-----------|------|------|----|
| 思う        | 100% | 思わない | 0% |
| どちらとも言えない | 0%   |      |    |
- ⑥ 担当の先生と外部指導者が連携した指導により、授業は活性化されたと思いますか。
- |           |     |      |    |
|-----------|-----|------|----|
| 思う        | 95% | 思わない | 0% |
| どちらとも言えない | 5%  |      |    |

【教員アンケート】

- ① 外部指導者の派遣により生徒の運動に対する関心・意欲は高まったと思いますか。
- 《 思う 》
- ② 外部指導者の派遣により生徒の技能は高まったと思いますか。
- 《 思う 》
- ③ 外部指導者の派遣により生徒の体力は高まったと思いますか。
- 《 思う 》
- ④ 専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。
- 《 思う 》
- ⑤ 外部指導者の言葉づかい・態度は指導者として適切だと思いますか。
- 《 思う 》
- ⑥ 外部指導者の派遣により、部活動あるいは授業は、活性化されたと思いますか。
- 《 思う 》
- ⑦ 外部指導者の派遣により、専門的な技能指導について、あなたの理解・指導力は高まったと思いますか。
- 《 思う 》

【成果】

- 1 上記のアンケートから見ると、地域の指導員による授業により、関心・意欲が高まり、基本動作や専門的な技能も向上したという生徒が 8 割を越える。昨年度より若く元気のある地域の指導員に指導してもらうことで、評価も上がり効果的であると判断できる。

【感想】

- 1 本校の地域は、武道（剣道）が盛んな地域であり、武道（剣道）のスポーツ少年団も活躍してるが、スポーツ少年団に参加していない生徒にとっては、あまり馴染みがない。しかし、この事業によって多くの生徒が親しむことになり、素晴らしいことである。

## 【様式4】1 ページ目

専門的な指導で、生徒の意欲の向上と効果的な活動が図られた実践例

学校名 柳津町立柳津中学校（福島県）1～3学年  
全校児童生徒数 65名（男子39名 女子26名）  
種目等 ダンス（現代的なリズムのダンス）  
電話番号 0241（42）2369  
学校メールアドレス [school@yanaiizu-j.fks.ed.jp]

### 1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- (2) ダンスの指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストの基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- (2) 外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打ち合わせを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要





- (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - 専門的な指導の他にも、生活指導に生きる指導を担当教員と同一歩調で実施できた。
    - ① 難しい動きをマスターするのではなく踊ることに楽しく取り組むように意識させた。
    - ② 上手な生徒が数人いるよりも、まとまりのあるグループほど良い発表ができることを助言した。
- (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など
  - グループ構成を、縦割りとして生徒会委員会の6つの構成とした。
    - ① 上級生から下級生へのアドバイスや、下級生からのアイデアなどを取り入れながら取り組む。
    - ② 全体の動きに、グループで工夫した動きを取り入れる。
    - ③ 「見る・聞く・動く」などの場面できちんと行わないと、グループでの完成に差が出ることを意識させた。
- (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - ① 正確な準備運動・トレーニング例の紹介
  - ② 感染症予防のためのマスクの着用と保温
  - ③ 体育館内の温度管理（ヒーター使用）

## ○事業成果と今後の課題

- 1 専門的な指導により、生徒の眼の輝き・動き・短時間での習得に効果があった。
- 2 保健体育担当者の研修と実践・学校、学級規模に応じた実施の工夫・暖かい時期での実施

## 【様式4】2ページ目

### 研究内容

<p>【準備体操】 トレーニング例も紹介</p>	<p>【グループ練習】 他のグループからの援助</p>
	
<p>【グループ練習】 グループで工夫した動きを取り入れた</p>	<p>【ステージ練習】 発表のために位置取りの確認</p>
	

<p>【アンケート集計結果】 外部指導者との連携により、ダンスへの意欲や技能の高まりはもちろん、仲間との交流の楽しさを感じたという回答が多かった。</p>
<p>○ 意欲の高まり 思う 63.7% 思わない 15.7% どちらとも言えない 20.6% ○ 技能の高まり 思う 69.5% 思わない 9.3% どちらとも言えない 21.2%</p>
<p>【今後の取り組みへの方向性】 外部指導者との連携により、「ダンス」を学習する意欲をさらに高めていきたい。</p>
<p>今回の授業を通して、球技などのグループ編成はチーム力が均等になるように行っており、ダンスもその方向で考えていたが、指導者の考え方に学ばされた。上手とかではなくグループのまとまりが大切というものであった。不安要素があったグループも見違えるようにまとまっていくのを目の当たりにして、ダンスの奥の深さを感じる事ができた。</p>

## 【様式4】 1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、  
生徒の意欲を高めた実践例

学校名 昭和村立昭和中学校（福島県）1・2・3年

全校生徒数 20名（男子10名 女子10名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0242（57）2201

学校メールアドレス school@showa-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ①地域の指導者がT1、本校保健体育担当がT2の役割を担い、連携して指導にあたった。
- （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など
  - ①講師の方が5年目ということもあり、上級生は段階を踏んで指導していただくことができた。
  - ②生徒の実態を踏まえ、3年生は「型」中心の内容に変更した。
  - ③木刀など、学校にはない道具を持参していただいた。
- （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - ①事前に竹刀のささくれや防具の破損等を一つ一つチェックして、安全に配慮した。
  - ②練習の祭は、隣とぶつからないように十分な間隔をとった。
  - ③けがや体調の良くない生徒には別メニューでの練習を行った。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 剣道の具体的かつ専門的な知識に裏付けられた指導により、生徒たちは積極的に学習を進め、技能や知識が向上するとともに達成感を味わうことができた。
- 2 生徒だけでなく教員も、より具体的で専門的な正しい知識を学ぶことができた。
- 3 今後、継続的に指導をお願いできるのであれば、時期や時数などを検討していく必要がある。

【様式4】2ページ目

○ 研究内容

【オリエンテーション】

生徒の関心を高めるため模造刀を使って歴史を学ぶ



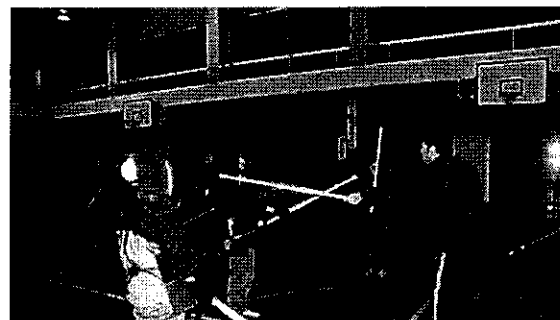
【竹刀の手入れ】

ささくれがないように1本1本チェック



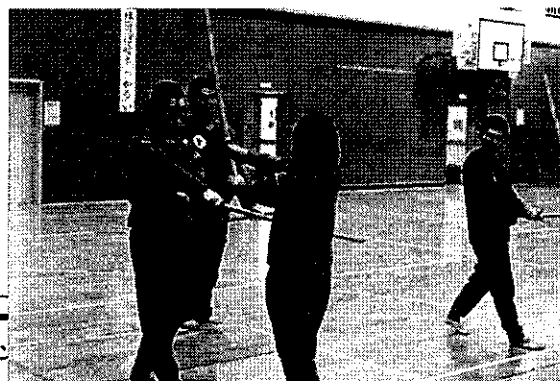
【指導者と経験者】

指導者と剣道経験者で模範を見せる



【木刀を使って型の練習】

3年生は木刀で型の練習を中心に行った



【授業後のアンケート】

授業後のアンケートと生徒の感想

◎アンケート結果 (ア 思う イ 思わない ウ どちらともいえない)

1. 武道に対する意欲は高まった?	ア 18	イ 0	ウ 2
2. 専門的な技能は高まった?	ア 14	イ 0	ウ 6
3. 武道の伝統的な行動の仕方や基本動作が身についた?	ア 18	イ 0	ウ 2
4. 武道の専門的な技能について外部指導者の指導力は優れている?	ア 20	イ 0	ウ 0
5. 外部指導者の言葉づかいや態度は適切だと思う?	ア 20	イ 0	ウ 0
6. 担当の先生と外部指導者が連携した指導により授業は活性化された?	ア 19	イ 0	ウ 1

- ・剣道はスポ少でやっているが、剣道の歴史の話は初めて聞いたので、ためになった。(1年男子)
- ・足は冷たかったが、基本の動きができるようになってきて楽しかった。(1年女子)
- ・応じ技が決まるととても気持ちいい。来年はもっと上手になれるようにがんばりたい。(2年女子)
- ・「型」は、やってみると意外と楽しかった。(3年男子)
- ・私には、激しい打ち合いよりも「型」が合っていると思った。(3年女子)

【今後の取り組み】

取り組みの継続と内容の見直し

外部指導者は地域での剣道の普及振興に携わっている方であり、生徒との信頼関係もできている方でもあるので、来年度以降も継続して指導をお願いしたい。また、生徒の実態を踏まえ、授業時数や内容については改善していく必要性を感じた。

## 【様式4】1 ページ目

### 地域の指導者を活用した、武道の授業の実践

学校名 新地町立尚英中学校（福島県）3年

全校生徒数・261名（男子143名 女子118名）

種目等 剣道

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0244（62）2052

学校メールアドレス shoeijh3@bz04.plala.or.jp

#### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

#### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

#### 3 研究の概要

##### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

授業では、礼法から実技指導までを派遣指導者が行い、保健体育教員はその指導の下で、個別指導や安全管理を行った。

##### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

派遣指導者と保健体育担当教員により、一人一人に正確な動作を教えることにより、正確な打突と気剣体の一致が正しくできるように分担して指導にあたった。

礼法と所作の指導を通して、相手を敬い、思いやる心を修得する剣道の理念を学ばせた。これにより、将来社会人としての礼儀や入試等の面接試験に必要とされる礼儀作法の基本を修得させることができた。

##### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- 1 小集団に分けて、派遣指導者と保健体育担当教員とで分担して生徒の安全を確保した。
- 2 派遣指導者がボランティアの有段者を数名確保したため、安全に配慮した指導ができた。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 剣道の授業を通して、礼に始まり礼に終わる武道の精神を直接体験しながら学ぶことができた。
- 2 日本の伝統文化の素晴らしさを体感し、改めて知ることができた。
- 3 保健体育担当教員の剣道についての知識と指導技術の向上につながった。
- 4 派遣指導者の可能な時期と年間教育計画との調整が毎年必要になってくる。

【様式4】2ページ目

【礼法と所作の指導】

武道の精神を理解させ、礼法、所作の指導を受けた。



【派遣指導者による技術指導】

学級を小集団に分け、個別に丁寧な指導を受けた。



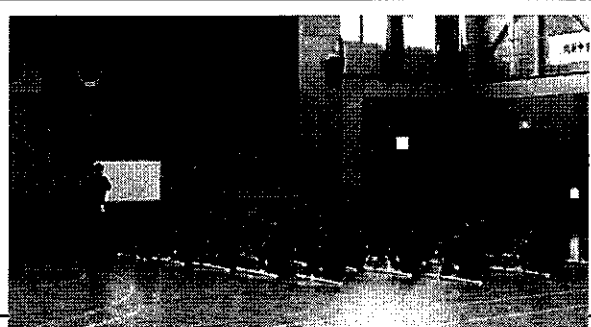
【剣道の動きに基づく準備運動】

剣道で特に使う部位に重点を置き、けがを防止した。



【派遣指導者の指導のポイントの提示】

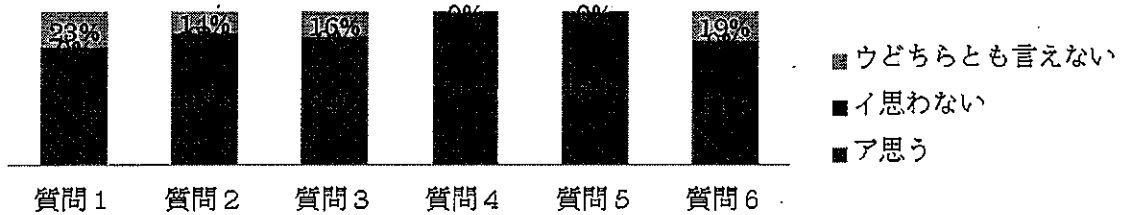
ポイントをホワイトボードに教員が記入し生徒に提示した。



【授業後の生徒のアンケートより】

全生徒が指導者の指導力が優れていると感じ、70%以上の生徒が意欲と技能が高まり、基本動作が身に付いたと答えている。

武道の授業への指導者派遣について



【武道等指導推進事業に取り組んで】

保健体育担当教員の感想より

有段者のために指導が大変的確であり、指導者間の連携もとれていた。剣道の所作から始まり、さらに技能の指導を通して伝統的な武道の精神に触れ、礼儀作法について学ぶことができた。また、剣道の由来や歴史など伝統文化を学ぶ事ができ、我が国の文化の一端を理解するのにたいへん有意義であった。地域の指導者から指導を受けることは、技能面だけでなく生徒の情意面にも働きかけ効果的と思われる。

## 【様式4】 1 ページ目

### 地域の指導者を活用した、武道の授業の実践

学校名 新地町立尚英中学校（福島県）3年

全校生徒数 261名（男子143名 女子118名）

種目等 剣道

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0244（62）2052

学校メールアドレス shoeijh3@bz04.plala.or.jp

#### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

#### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

#### 3 研究の概要

##### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

授業では、礼法から実技指導までを派遣指導者が行い、保健体育教員はその指導の下で、個別指導や安全管理を行った。

##### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

派遣指導者と保健体育担当教員により、一人一人に正確な動作を教えることにより、正確な打突と気剣体の一致が正しくできるように分担して指導にあたった。

礼法と所作の指導を通して、相手を敬い、思いやる心を修得する剣道の理念を学ばせた。これにより、将来社会人としての礼儀や入試等の面接試験に必要とされる礼儀作法の基本を修得させることができた。

##### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- 1 小集団に分けて、派遣指導者と保健体育担当教員とで分担して生徒の安全を確保した。
- 2 派遣指導者がボランティアの有段者を数名確保したため、安全に配慮した指導ができた。

## ○事業成果と今後の課題

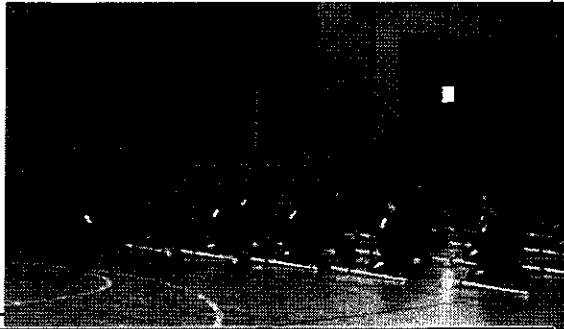
- 1 剣道の授業を通して、礼に始まり礼に終わる武道の精神を直接体験しながら学ぶことができた。
- 2 日本の伝統文化の素晴らしさを体感し、改めて知ることができた。
- 3 保健体育担当教員の剣道についての知識と指導技術の向上につながった。
- 4 派遣指導者の可能な時期と年間教育計画との調整が毎年必要になってくる。



【様式4】2ページ目

【礼法と所作の指導】

武道の精神を理解させ、礼法、所作の指導を受けた。



【派遣指導者による技術指導】

学級を小集団に分け、個別に丁寧な指導できた。



【剣道の動きに基づく準備運動】

剣道で特に使う部位に重点を置き、けがを防止した。



【派遣指導者の指導のポイントの提示】

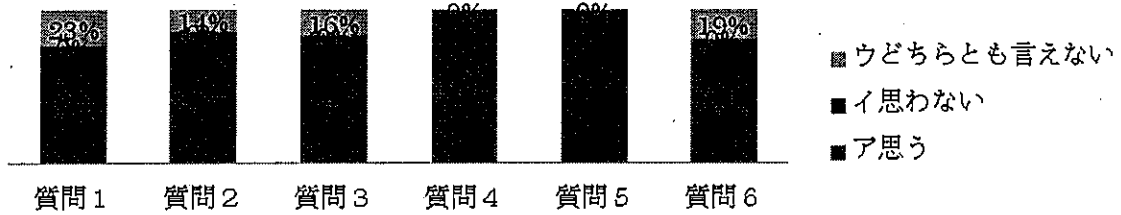
ポイントをホワイトボードに教員が記入し生徒に提示した。



【授業後の生徒のアンケートより】

全生徒が指導者の指導力が優れていると感じ、70%以上の生徒が意欲と技能が高まり、基本動作が身に付いたと答えている。

武道の授業への指導者派遣について



【武道等指導推進事業に取り組んで】

保健体育担当教員の感想より

有段者のために指導が大変的確であり、指導者間の連携もとれていた。剣道の所作から始まり、さらに技能の指導を通して伝統的な武道の精神に触れ、礼儀作法について学ぶことができた。また、剣道の由来や歴史など伝統文化を学ぶ事ができ、我が国の文化の一端を理解するのにたいへん有意義であった。地域の指導者から指導を受けることは、技能面だけでなく生徒の情意面にも働きかけ効果的と思われる。

## 【様式4】1ページ目

### 地域の指導者による授業で、生徒のダンスへの意欲を高めた実践例

学校名 南相馬市立石神中学校（福島県）1年

全校児童生徒数 251名（男子122名 女子129名）

種目等 ダンス

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0244（22）3373

学校メールアドレス school@ishigami-j.fks.ed.jp

#### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）保健体育科の教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

#### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

#### 3 研究の概要

##### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ①昨年度から引き続き、教育委員会を通して協力を依頼し承認をいただき実践した。
- ②あらゆる年齢層の指導経験が豊富である指導者を招聘した。
- ③専門性の高い技術指導に関しては、外部指導者を中心として授業を実践した。保健体育科教員は、生徒への指示や準備等のコーディネートを中心に行い、生徒が意欲的に取り組める環境の整備にあたった。

##### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- ①地域の指導者の専門性を生かし、生徒への学習内容も基礎的な部分から応用的な部分へと発展的に指導を行う。
- ②地域の指導者の助言のもとで教具を工夫することで、生徒の意欲を喚起した。
- ③創作ダンスを取り入れ、発表会を行うことでダンスの楽しさを共有する場を設定した。

##### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- ①生徒の体調の変化に留意した。
- ②練習場所や音響設備の置き方や小道具の取扱いに十分留意した。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 専門的な技能を学ぶことにより、難しいステップや指導の仕方を身に付け踊ることができた。
- 2 リズムによって体を動かすことができ、ダンスの楽しさを味わうことができた。
- 3 短い時間での外部指導者の指導であったので、ダンスの特性に触れたり、表現力を高めたりすることが不十分となり、今後の課題となった。

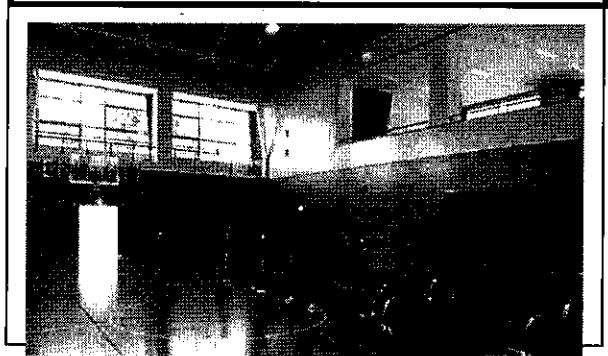
【様式4】2ページ目

○ 研究内容

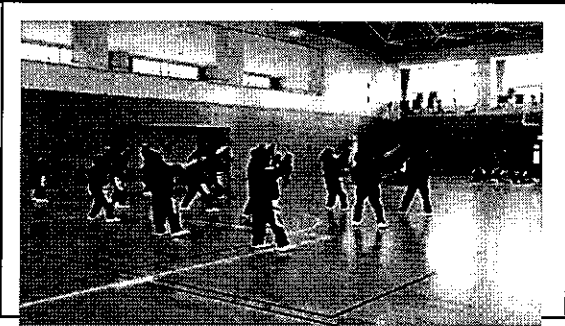
【楽しいダンスの授業】  
ダンス初日の様子



【楽しいダンスの授業】  
外部指導者による部分的指導



【楽しいダンスの授業】  
外部指導者による班別の練習



【楽しいダンスの授業】  
五輪ベルターを使ったリズムダンス



【アンケート集計結果】  
指導者派遣に関するアンケート

外部指導者の指導によりダンスに関する関心・意欲は高まったと思いますか。	思う	6 1	外部指導者の指導により専門的な技能は高まったと思いますか。	思う	4 4
	思わない	1 5		思わない	1 4
	どちらとも言えない	1 8		どちらとも言えない	3 6
外部指導者の指導によりダンスのステップや動きが身に付いたと思いますか。	思う	6 4	専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。	思う	6 3
	思わない	1 0		思わない	5
	どちらとも言えない	2 0		どちらとも言えない	2 6

【アンケートからの考察・感想】  
ダンスの授業への意欲についての考察・感想

○アンケート結果からもわかるように、専門性の高い指導者からの確な指示やアドバイスがあり、ダンスに対する興味関心の部分が高まり技能の向上にもつながった。

○学校の授業では体験することができない用具を使つてのダンスを体験することができた。

○ダンスの授業の初日は、体を動かすことに消極的な生徒が多くいたが、授業が進むにつれてダンスの楽しさやダンスの特性に触れることができ大変充実した授業になった。

## 【様式4】 1 ページ目

ダンスの授業を充実させるために  
地域の指導者を活用した実践例

学校名 南相馬市立小高中学校（福島県） 1年・2年

全校児童生徒数 102名（男子47名 女子55名）

種目等 ダンス

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0244（46）4268

学校メールアドレス school@odaka-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）ダンスの指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ①日本3B体操協会公認指導者の方に指導していただいた。
  - ②音楽に合わせてウォーミングアップ～ダンス～クールダウンまで指導していただいた。ベルトという手具を使ったダンスや、基本ステップから複雑なステップまで、リズムに合わせて段階的に展開した。
- （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など  
一斉指導を中心に授業が展開した。グループの発表に向けて、疑問点には個別に丁寧に指導していただいた。
- （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など  
ケガを防止するためにウォーミングアップの時間を確保した。音楽に合わせてストレッチや基本のステップの練習を取り入れ意欲付けを行った。

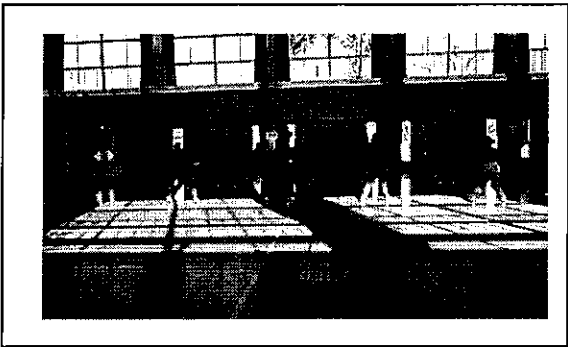
## ○事業成果と今後の課題

- 1 1年女子、2年男子を指導していただいた。どちらも初めのうちは恥ずかしさが先行して大きく動くことができなかったが、グループでの発表や毎時間の授業を通して、音楽に合わせて動くことが楽しく感じられるようになった。
- 2 専門的な指導のおかげで、様々なステップの細かい動きができるようになった。何度も繰り返し踊る中で体力向上につながったと考えられる。
- 3 丁寧にわかりやすい指導者の言葉かけが生徒の意欲につながっていた。また、様々な動きの指導が段階的で指導の仕方も参考になった。

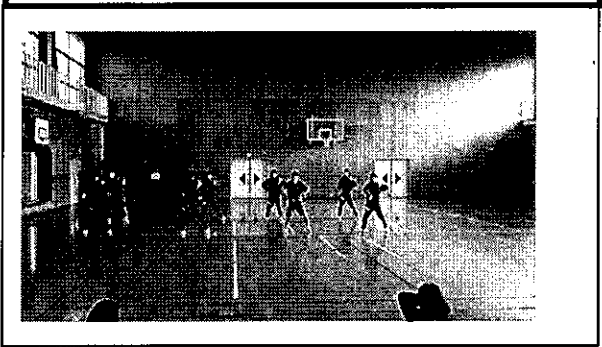
【様式4】2ページ目

○ 研究内容

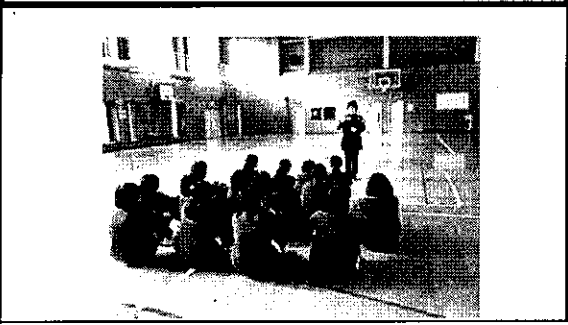
【ベルターを使った動きの練習】  
指導者に合わせて動きを覚える（一斉指導）



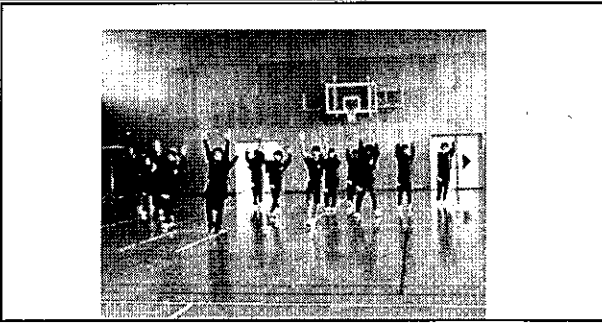
【小グループで動きの練習・発表】  
複雑なステップを繰り返し練習して覚える（クラス毎）



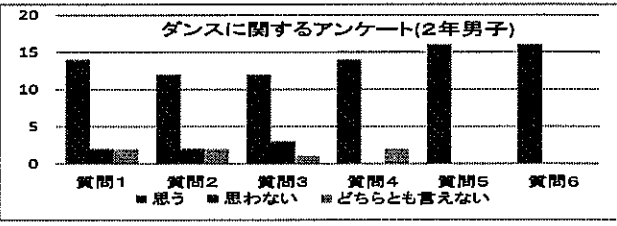
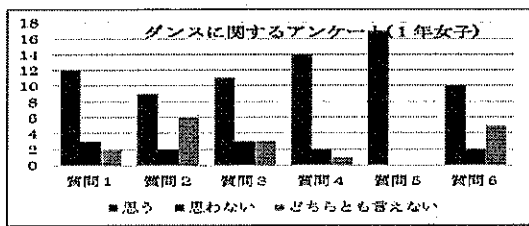
【ウォーミングアップやクールダウンの重要性】  
楽しく踊るために必要なことについて



【視聴覚機器の利用】  
盛り上がった発表会をビデオに録画



【成果・分析】  
アンケート結果から



1年女子と2年男子で実施した。全ての項目で効果があったという意見が多かったが、1年女子はダンスの基本が身に付いたかどうか分からないという意見も多かった。指導してくださる方の言葉遣い等は、全員が指導者として適切という意見だった。

【成果・課題】  
指導者派遣による成果と感想

- ・ 専門的な知識を持っている方に指導していただいたことで、生徒も教師もダンスに関する知識を深めることができた。
- ・ 限られた時間の中で、表現することの楽しさを感じることができた生徒がほとんどだったが、指導してくれる方に馴れるまでに時間がかかる生徒への教師の関わり方に工夫が必要であると感じた。

## 【様式4】1 ページ目

柔道の授業において専門的な技能を持つ指導者との連携を通して、生徒の興味関心と安全への意識を高めた実践

学校名 飯館村立飯館中学校（福島県）1, 2, 3年

全校児童生徒数101名（男子46名 女子55名）

種目等 柔道

（本事例に係る問合せ先）

電話番号024（573）1161

学校メールアドレス iitatecyu@vill.iitate.fukushima.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- （1）専門指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ・ 授業はTTで行い、専門指導者をT1として行った。専門指導者は専門的な立場から柔道の基礎的な動き等を指導した。教員はT2として授業の基本的な指示を行うとともに苦手な生徒を中心に補助的な指導を行った。また、教員は専門指導者とともに授業を行うことで自己の指導力を高めることができた。
- （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など
  - ・ どの学年においても基礎的な技能を確実に身に付けさせるために、専門指導者による授業を各学年に配置し、柔道特有のけがを防止するための安全指導・基礎指導を重点的に行った。
- （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - ・ 専門指導者の指導を、1学年では単元の初めの4時間に設定し、特に受け身や柔軟性を高める運動について重点的に指導した。2・3学年では単元の初めの4時間に設定し、昨年度も行った寝技や投げ技の段階的な練習方法について指導した。指導を通して、安全に柔道に取り組む意識を身に付けさせることができた。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 専門的な指導者の指導により、柔道の精神や礼法、受け身等の安全性を高める動きを生徒に修得させることができた。また、豊富なバリエーションによって基礎的な技術を習得することができ、楽しみながら柔道に取り組みさせることができた。
- 2 授業前後にも担当教員と綿密な打合せを行い、柔道指導のポイントを踏まえた指導課程を共同で作成した。教員は柔道の指導経験が浅かったが、豊富な指導経験を有する専門指導者と連携することで、指導力を高めることができた。

○ 研究内容

【柔道基礎指導1】  
 専門指導者から基本動作の一斉指導を受ける



【柔道基礎指導2】  
 専門性の高い内容を個別に指導



【安全性に配慮した指導】  
 けが防止のため準備運動を入念に行う

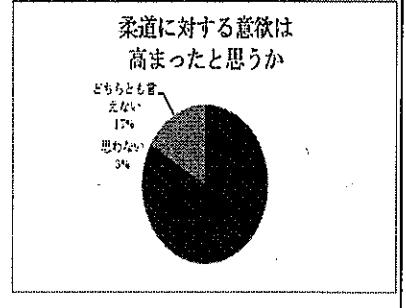


【見える指導の工夫】  
 礼や武道の精神について指導を受ける



【礼を重んじる指導】  
 専門性の高い指導を通して興味・関心を育てる指導

専門指導者の指導により右の円グラフの通り、多くの生徒の柔道に対する意欲を高めることができた。理由としては、礼や武道の精神についてきちんと説明した上で、動作やあいさつに取り組ませたり、受け身や柔軟運動といった単調な動作でも、その理由を理解させながら反復練習に取り組ませたりするなど、生徒が納得して行動することを指導者が大切にしていたことが挙げられる。いずれも専門的な知識や技術の裏付けがある中での指導によるものであり、こうした機会を持てたことは柔道の指導経験の浅い本校の体育教員の指導力向上のためにも非常に有益であった。



【安全な柔道授業の実施】  
 安全に柔道に取り組むポイントを専門家の見地から

安全に柔道に取り組むポイントを専門家の見地から指導していただいた。授業ではランニングで体を温め、柔軟体操で体をほぐし、礼法の指導で気持ちを落ち着かせ、心身ともに整った状態から技術的な指導に入っていた。また、指示の仕方や言葉かけの間合い一つをとっても、長年道場で指導を重ねてきた経験が感じられ、指導経験の浅い本校の指導者にとって大変参考になった。各学年の柔道単元の初めの4時間に専門指導者の指導を集中させたことも、安全に柔道に取り組むという意識を生徒に身に付けさせるために有効であった。

## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲を高めた実践例

学校名 双葉町立双葉中学校（福島県）全学年

全校児童生徒数 10名（男子4名 女子6名）

種目等 剣道

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0246（88）8078

学校メールアドレス school@futaba-j.fks.ed.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ・ 担当教員が授業計画を立案し、外部指導者が専門的な技能や知識についての指導助言を行う。また、授業においては、苦手な生徒にも達成感や成就感が得られるよう担当教員が個別に支援を行えるようにした。
- （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など
  - ・ 2時間続きの時間割設定にすることで、生徒の活動時間を十分に確保できるよう工夫した。
  - ・ 授業前に外部指導者と打合せを行う時間を確保するよう時間割を調整した。
- （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - ・ 始業前に点検項目に従って、生徒一人一人が自分の防具の点検を行う。また、全学年共習であるため、一斉での活動、男女別の活動、能力に応じたペア組み等を取り入れる。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 専門技能を持つ外部指導者が入ることで、剣道に対する関心や意欲が高まった。また、個に応じた支援が可能になることで、より生徒が積極的に取り組む姿が見られた。
- 2 授業前に打合せを行うことで、本時のねらいや授業の流れ、活動場面での指導者の役割分担が明確になり、連携した指導が展開できた。
- 3 外部指導者の仕事の都合もあり、直前まで日程が決められなかった。教育課程、授業計画との調整が課題である。



○ 研究内容

【外部指導者との連携①】

授業案に沿って専門的技術の指導



【外部指導者との連携②】

男女別、能力別のペア組みにより、分担して指導



【防具の安全点検】

責任を持って自分の防具を点検、装着する



【個に応じた支援】

個の実態に応じて適宜支援を行う



【事前・事後の生徒の変容】

武道授業への取組とアンケートから見た生徒の変容

- ・ 相手を打突することに遠慮も見られたが、武道の特質、精神性を学び、生徒の意識が変わったことで、回を重ねるごとに取り組む姿勢も積極的になり、それとともに打突の音、氣勢も変わってきた。
- ・ 礼法にもお互いに意識し合って取り組んでおり、練習の際にも上級生が中心となり、お互いに教え合う場面も見られたことから、昨年度以上の成果が得られた。実施後のアンケートにおいても、全員が「意欲が高まった」と答えており、外部指導者との関係も大変良好で、授業もスムーズに展開することができた。

【今後の取組】

指導者派遣による成果と今後の取組について

- ・ 武道に接することは極めて貴重な時間であり、専門的な技能を有する外部指導者から「技術だけではなく高い精神性を含んだ競技」であることを学び、体験することができた。日本独自の精神性、価値観を大切に、あいさつや礼法など日常生活でもできることを実践していくとともに、私たちの身近な生活の中にある日本の伝統文化にも目を向けさせていきたい。

## 【様式4】 1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲と技能を高めた実践例

学校名 いわき市立内郷第二中学校（福島県）1～3年

全校児童生徒数 98名（男子57名 女子41名）

種目等 ダンス（保健体育）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0246（26）3521

学校メールアドレス uchigo2-jh@city.iwaki.fukushima

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）ダンスの指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進  
適時、教員が生徒の能力や授業の感想を指導者に適切に伝えることにより、修正を加えながら、指導者が実態に合った学習内容を提供することが出来た。
- （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など  
事前に、指導者に昨年度までのダンスの授業の取り組み状況について、丁寧に伝えることにより、生徒の実態合った教材を準備していただいた。また、授業時間を可能な限り調整し、適切な間隔で設定することにより、効率的に授業を進めることができた。
- （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など  
生徒の健康状態の把握については、教員が責任を持って行った。また、授業の開始に、十分なウォーミングアップの時間をとることにより、事故・けがの防止に努めた。

## ○事業の成果と今後の課題

- 1 専門的な技能を有する地域スポーツ人材を授業に招聘することにより、生徒たちに教員だけの時より、高いレベルの技能を身に付けさせることが出来た。また、そのことにより、生徒のダンスに対する興味・関心を高めることにつながった。ただ、指導者と学校の授業可能な時間が折り合わない場合もあり、いかに時間を確保できるかが課題である。
- 2 豊富な経験を有する外部人材と連携することにより、教員のダンスに対する知識は確実に高まった。今後、その知識を指導技能として活用出来るようにすることが課題である。

## 【様式4】2ページ目

### ○研究内容

#### 【基本技能の定着】

スモールステップにより基本技能を身に付けさせる



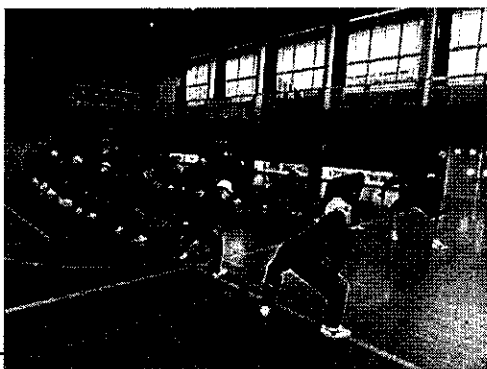
#### 【生徒をその気にさせる言葉かけ】

生徒をその気にさせ、意欲的に取り組ませる



#### 【安全に配慮した準備運動】

十分なストレッチ・ウォーミングアップ



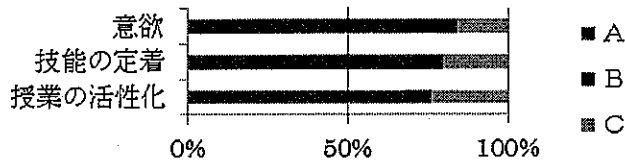
#### 【生徒の興味を引く工夫】

現代的な音楽を取り入れ、生徒の興味を高める



#### 【授業後の生徒アンケート】

ダンスの技能が身に付いたことにより、生徒のダンスに対する意欲が高まった。



#### 【今後の学校の取組】

今年度の授業内容を教材化する。

今年度実施した豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して行った授業内容を教材化し、次年度以降も活用する。  
また、外部人材の活用の有効性が分かったので、今後も機会があったら活用したい。

## 【別紙様式4】1ページ目

武道の経験が少ない保健体育科教員  
と地域の指導者と連携し効果的に武  
道指導を行う実践例

学校名 いわき市立湯本第三中学校(福島県)全学

全校生徒数 73名(男子37名 女子36名)

種目等 保健体育(武道)

電話番号 0246(42)2503

学校メールアドレス yumoto3-jh@city.iwaki.fukushima.jp

### 1 研究のねらい

- (1) 武道の経験が少ない保健体育科教員が、専門性の高い外部スポーツ人材を指導者として招聘し、連携を図りながら安全を確保し、生徒の技能と体力・運動能力の向上を図る指導の在り方を探る。
- (2) 武道指導を通じた我が国の文化の伝承を、柔道経験の深い外部指導者と連携して実践的に指導する在り方を探る。

### 2 研究の取組体制

- (1) 単元が始まる前に、学校(校長、教頭、保健体育科教員)と外部の指導者が指導の方針や指導法指導計画についての検討を行う。
- (2) 指導期間中に、外部の指導者と保健体育科教員が指導について随時協議を行う。

### 3 研究の概要

#### (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- 指導を効果的に行うための外部の指導者と保健体育科教員の役割分担
  - ・ 地域の指導者との事前打ち合わせで指導の方針や指導法等について確認をする。
  - ・ 柔道の専門的指導を地域の指導者が中心に行い、柔道指導の授業のねらいや安全の確認、評価を保健体育科教員が中心に行うという役割分担で協力して指導に当たる。

#### (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

- 武道の伝統的な考え方の指導
  - ・ 礼法・姿勢など基本動作の大切さ、相手を尊重する練習や試合運び等を理解させ、日常生活に生かすことができるように指導する。
  - ・ 12時間の武道指導を通して、礼法、姿勢、相手を尊重する態度も重点的に指導する。
  - ・ 日常生活の中における生徒の礼法等の変容を評価する。

#### (3) 生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

- 柔道指導の前に、柔道を学習する上で健康上の配慮が必要な生徒の確認を丁寧に行った。
- 授業の前に生徒の健康状態の確認を行い、授業開始時には生徒に安全に関する指導を繰り返した。
- 保健体育科教員と地域の指導者が、生徒の動きに対して死角ができないように対角的に位置して指導するように心がけた

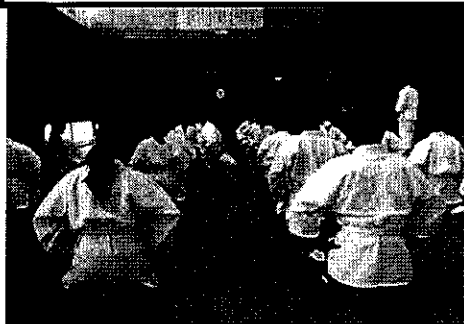
## ○ 事業成果と今後の課題

成果 生徒のアンケート結果からも外部指導者による指導が、ねらいの達成に成果があったことがわかる。

課題 柔道場がないため、その都度体育館へ畳の準備、片づけを行う必要があり時間を要した。また、畳の数により、動作範囲が制限されるので、畳の枚数を増やして適切な広さで指導したい。

○ 研究内容

【礼法の指導】  
地域指導者による礼法等についての説明



【道着の着用指導】  
指導者による正しい道着の付け方指導



【組み手の指導】  
地域指導者による相手と組み手の専門的指導



【基本動作】  
地域指導者による演技指導



【生徒アンケート結果】  
指導者指導への生徒の評価

- 質問1 武道に対する意欲は高まったと思いますか。  
ア 思う (75.5%)    イ 思わない ( 4.3%)    ウ どちらとも言えない (21.3%)
- 質問2 専門的な技能は、高まったと思いますか。  
ア 思う (78.7%)    イ 思わない ( 6.4%)    ウ どちらとも言えない (14.9%)
- 質問3 武道の伝統的な行動の仕方や基本動作が身についたと思いますか。  
ア 思う (85.1%)    イ 思わない ( 4.3%)    ウ どちらとも言えない (10.6%)
- 質問4 武道の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。  
ア 思う (91.5%)    イ 思わない ( 0%)    ウ どちらとも言えない (8.5%)
- 質問5 外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思えますか。  
ア 思う (91.5%)    イ 思わない ( 4.3%)    ウ どちらとも言えない ( 4.3%)
- 質問6 担当の先生と外部指導者が連携した指導により、授業は活性化されたと思えますか  
ア 思う (85.1%)    イ 思わない ( 2.1%)    ウ どちらとも言えない (12.8%)

【生徒の変容】  
外部指導者との連携による指導の成果

- 外部指導者の専門性により、日本古来の柔道の由来が分かり礼儀作法などが身に付くと共に生徒の柔道への関心が高まった。
- 柔道の技能が高まり安全に授業を進めることができた。
- 生徒の返事やあいさつがきびきびできるようになった。

## 【様式4】1 ページ目

地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲を高めた実践

学校名 いわき市立錦中学校（福島県）全学年

全校児童生徒数 262名（男子122名 女子140名）

種目等現代的なリズムのダンス

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0246（62）3522

メールアドレス nishiki-jh@city.iwaki.fukushima.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴いダンスが必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材をダンスの授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）ダンスの指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、ダンスの指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

- （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
  - ・講師には基本的なステップの講習を行ってもらい、教員はサポート役に回り下位生徒を中心に支援をした。（各クラス4時間目以降からは教師が指導）
- （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など
  - ・派遣時間に限りがあったため、各学年とも3時間の講習とした。4時間目以降は講師とのやりとりを経て教員が指導する方法をとった。
- （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など
  - ・講習前には十分な柔軟運動等を実施し、けがの防止に努めた。また、柔軟を行う際に正しい行い方や注意点についても詳しく説明をしながら実施した。

## ○事業成果と今後の課題

- 1 本事業を通して、より専門知識や技能を有した講師に直接触れる機会は生徒にとって、とても新鮮で学習意欲の喚起につながった。
- 2 昨年度より難易度が高い内容であったことが生徒の意欲の高揚につながっていた。
- 3 講師の指導は各クラスとも3時間であったため、生徒にとっては内容をすべて覚えるまでには至らなかった。全学年に指導していただこうと考えると12時間は大変時間が短いと感じた。

○ 研究内容

【授業風景①】

文化祭当日の発表を意識した練習風景



【文化祭での発表】

選抜生徒の発表



【本事業のアンケートより】

本事業について、生徒にアンケートを実施したので、それを元に生徒の変容について考察した。どの生徒も積極的に参加することができ、アンケートも良い数値であった。2・3年生では、運動が苦手な生徒に関してはアンケートの数値も低い傾向が見られたが、それでも普通の授業より興味関心が高かったように感じ、大変充実していた。

『質問』ダンスに対する意欲は高まりましたか？

・そう思うと回答した生徒は全体の70%と非常に高く、そう思わないと回答した生徒も7%程度である。そう思わないと回答したのは2・3年生で、1年生にとっては新鮮で充実した授業になったようである。

『質問』専門的な技能は、高まったと思いますか？

・そう思うと回答した生徒は60%と非常に高く、そう思わないと回答した生徒も12%程度である。授業の充実ぶりがうかがえる。

『質問』ダンスのステップや動きが身につきましたか？

・そう思うと回答した生徒が68%と非常に高く、そう思わないと回答した生徒は7%と大変低かった。

【本事業を活用して】

文化祭を活用し、成果を発表する場を設ける。

・本事業の取組を地域にも発表するため、学習発表会にて発表を行った。生徒のみならず地域の方々からも高い評価を得ることができた。特に今年度はテンポが速く、ステップが高難度であったので実施する側も見る側も充実したものとなった。来年度以降もこのような事業を活用するとともに、生徒に対してより専門的な知識、技能を習得させたいと考えている。

## 【様式4】1 ページ目

専門性の高い指導者と連携した授業により、生徒の武道に関する関心、意欲を高めた実践例

学校名 いわき市立川部中学校

全校児童生徒数 65名（男子26名 女子39名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0246（65）2223

学校メールアドレス kawabe-jh@city.iwaki.fukushima.jp

### 1 研究のねらい

- （1）学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科の教員と連携のもと授業の充実を図る。
- （2）武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

### 2 研究の取組体制

- （1）武道等指導推進委員会を設置し、人材リストに基づき外部スポーツ人材を派遣するとともに、学校と連携した授業の在り方について事業成果の検証等を行う。
- （2）外部スポーツ人材と学校関係者との連絡協議会を設置し、派遣開始前に生徒の実態及び授業構想について、密な情報交換をするとともに、授業の実施前後で体育担当者と打合せを行うなど、授業の充実と安全確保に努める。

### 3 研究の概要

#### （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

保健体育担当教師が計画した武道の授業時数・内容等について、外部スポーツ人材（以下、指導支援者とする）と協議し、昨年度の実践の反省に基づき、学校体育の達成目標と剣道の専門家として生徒に身に付けさせたいことについて確認した。また、授業場面での体育担当教師と指導支援者の役割分担について明確にした。

#### （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点など

指導支援者が昇段審査における審査員でもあり、剣道の礼法、切り返しの効果、足さばき、打突、試合の進め方など、専門的な剣道の核となる要素を凝縮して指導することとした。

#### （3）生徒の安全を確保するために配慮・工夫した点など

事前に、防具を干し衛生面に留意するとともに、防具・竹刀（つるのゆるみ、ささくれ）の点検と調整を行った。防具の着装については十分時間をかけ、正しいひもの結び方について指導した。授業後は毎回、体調について声をかけ確認した。

## ○事業成果と今後の課題

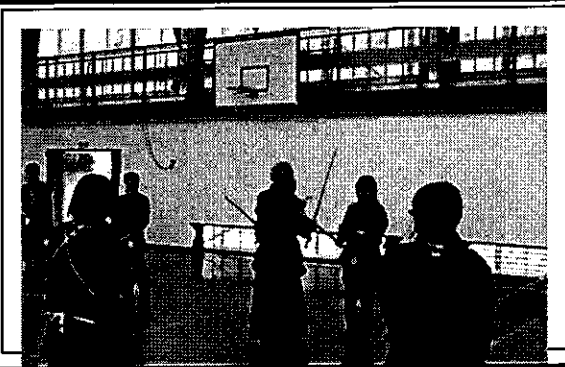
- 1 昨年度より継続している研究であるため、剣道は礼法に基づいた、厳しさと品格のあるスポーツであることを生徒がよく自覚し、武道に対してのあこがれの意識をもたせることができた。
- 2 昨年度と同じ指導支援者による授業であるため、特に上級生が安心して伸び伸びと指導を受けることができた。指導支援者にとっても、年度をまたいでいるとはいえ、継続して同じ生徒を指導することが指導の定着につながるようになる。
- 3 剣道は竹刀・防具の点検をしっかり行えば、最も安全な武道のひとつである。特に竹刀の手入れは、事前に若干の知識と技術が必要であるが、年度をまたぎ事業を継続していくことで解決できる。



【様式4】2ページ目

○ 研究内容

【基本動作①】  
まずは、面をつけずに基本の練習



【基本動作②】  
面をつけて、面・籠手・籠手面連続打ち



【用具の工夫】  
手作りのたすき、垂れネーム



【審判】  
手作りの審判旗による審判の練習



【武道に対するアンケート】  
外部人材活用による生徒の意欲向上や技能習得への意識調査

ア 思う    イ 思わない    ウ どちらとも言えない

評価項目	ア			ウ	イ	評価項目	ア			ウ	イ
	1	2	3				1	2	3		
1 武道に対する意欲の向上	1年	13	3	5		4 専門的な技能の指導力	1年	19	1	1	
	2年	18	2	1			2年	19	2	0	
	全	31	5	6			全	38	3	1	
2 専門的な技能の向上	1年	14	3	4		5 言葉使いや指導者としての適切性	1年	20	0	1	
	2年	18	2	1			2年	20	1	0	
	全	32	5	5			全	40	1	1	
3 武道の基本動作や動きの習得	1年	14	2	5		6 授業の活性化	1年	16	1	4	
	2年	18	2	1			2年	20	1	0	
	全	32	4	6			全	36	2	4	

【授業における武道】  
次年度以降の武道の授業への期待

・保健体育科の授業において、武道の授業時間は特に専門的な知識・技能が必要である。しかし、保健体育科の教師とはいえ、武道を専門的に習得しているとは限らず、安全対策に不安があるのが各校の実態であろう。本校では専門家の支援を継続して受けたことにより、基礎基本や安全面の留意点の理解と、今年度の準備がスムーズに行えた。また、礼儀について学んだことは生活の場面において大変有効につながっている。ぜひ来年も本事業を継続したいと切に願う。